

豫備費ナルモノハ地方規則第三條ニ掲記セル各費目其何費タルヲ問ハズ豫算外ニ生シタル事件ノ
 費途及豫算ノ臨時不足ニ充ル爲メ豫メ議定シタル金額ナレハ之ヲ警察費ノ不足補充ニ供スルトキハ其
 不足額ノ三分ノ三ハ即チ國庫下渡金ヲ以テ填足スルハ成規ノ然ラシムルモノナルニ依リ豫會ニ於
 テ豫テ豫備費ヲ議定シタルトキニ於テ既ニ其然ルヲ認知シタルモノトシテハ其超過ニ係ル金額ハ之ヲ支
 スル如ク國庫下渡金ヲ併算シタル不足金額豫備費ノ不足ヲ補充シタル年度ハ其超過ニ係ル金額ハ之ヲ支
 スル中終ニ之ヲ費消スルヲ得ス空シク豫備費ノ目ヲ以テ之ヲ翌年度ノ繰越金トシテ而シテ不足ヲ生
 スル費目アルニ當リテハ更ニ豫會ノ議決ヲ取リテ其補充費ヲ徵收セサルヲ得ス其如斯ノ理アラ
 ヤ苟モ其殘餘アラハ豫算外ニ生シタル事件ノ費途及豫算ノ臨時不足ニ充ルヲ得ルヤ言フマダナル
 又豫會ニ於テハ豫備費ナルモノハ其額以內ハ取テ補充ノ用ニ供スルコトヲ得ルモ其額ニシテ之ヲ補充
 テハ國庫下渡金自ラ之ニ隨伴スルヲ以テ二者ヲ合シテ之ニ充テシタルニ警察費ヲ補充スル場合ニ於
 テハ爲メニ變動シテ定所ナキニ至ルハシ假ニ五千圓ノ豫備費ヲ悉ク警察費ノ補充ニ供スルトスレバ國庫
 下渡金一千五百圓ノ豫備費ヲ悉ク警察費ノ補充ニ供スルモ六千五百圓ノ不足ニ充ルテ得ヘシト論ス
 ト雖モ然レトモ五千圓ノ豫備費ヲ悉ク警察費ノ補充ニ供スルモ六千五百圓ノ不足ニ充ルテ得ヘシト論ス
 足リ補充シ得ルニ止リ尙ホ不足ヲ生スルモ豫備費已ニ盡キタルヲ以テ更ニ豫會ノ議決ヲ取リ地方稅ヲ
 徵收スルニ非レハ其不足ヲ補充スヘキ金額ナシ則チ豫備費ヲ舉テ警察費ノ不足補充ニ供スルモ決シテ
 定所ナキニ至ルハ其不足ヲ補充スヘキ金額ナシ則チ豫備費ヲ舉テ警察費ノ不足補充ニ供スルモ決シテ
 地方稅ノ化ス中豫會ハ豫備費ノ性質ヲ誤解シテ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ全ク其質ヲ變シ
 犯セルモノト論ス雖モ豫備費ニ對シテ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入スルハ豫會ノ議定權ニ如キ
 止リ豫會ノ議定權ヲ有スル地方稅ノ三分ノ三ハ豫會ノ議定權ニ歸スルモノトシテ豫會ノ議定權ニ如キ
 ノ議定權アル地方稅ト同一視スヘキモノニ非サルナリ以上陳スル所ノ理由ニ依リ豫會ノ議定權ニ歸
 庫下渡金ヲ以テ豫備費ニ超過スル金額ヲ支出シタルハ豫備費ノ性質ヲ誤解シ豫會ノ議定權ヲ犯セルモ
 ノニ非スト信認ス

本件豫會ト豫會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭フノ要點ハ豫會ハ警察費ノ豫算ニ臨時不足
 ナ生シ豫備費ヲ以テ補充スル場合ニ於テ豫會ノ議定權ニ對シテ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ
 得ルヤ否ニアリ依テ之ヲ審案スルニ豫會ハ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ豫會ノ議定權ニ如キ
 辨スヘキ經費ノ豫算及其徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ以テテ而シテ豫會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費
 目ニシテ豫會ニ對スル國庫下渡金ハ自ラ地方稅ニ變質スルモノナリト論ス雖モ豫會規則第一條ニ於
 方稅ト國庫下渡金トナシ又豫會ハ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ豫會ノ議定權ニ歸スルモノト
 ニ變質スルコトナシ又豫會ハ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ豫會ノ議定權ニ歸スルモノト
 ハ亦豫會ノ議定權內ニ屬スルモノナリト論ス雖モ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ豫會ノ議定權ニ歸
 審明

モ之ニ對スル國庫下渡金ハ特ニ布告ヲ以テ之ヲ定メテ地方稅ト全ク其性質ヲ異ニスルモノナレハ豫
 會ニ於テ議定スヘキノ限ニアラス況ヤ警察費ニ對スル國庫下渡金額ハ該費ノ總額ニ應シテ自ラ定マ
 モノニシテ若シ該費ノ豫算ニ臨時不足ヲ生シ豫備費ヲ以テ之ヲ補充スルモノトキ國庫下渡金ノ之ニ隨伴ス
 ルハ成法ノ然ラシムル所ナリ畢竟國庫下渡金モ亦豫備費中ニ包含スルモノナレハ之ヲ以テ警察費ノ臨
 時不足ヲ補充スルハ其實豫算定額内ノ支出ニシテ豫算定額ヲ超過スルニアラス

判決

右ノ理由ニ依リ豫會ハ明治十五年度警察費ノ豫算ニ臨時不足ヲ生シ豫備費ヲ以テ補充スル場合ニ於テ
 豫會ノ議定權ニ對シテ豫會規則第一條ニ於テ豫會ニ編入シテ豫會ノ議定權ニ歸スルモノトシテ豫會ノ議定權
 ニアラス

明治十七年五月十日

- 審理委員長 福岡孝弟
- 審理委員 福羽美靜
- 審理委員 宋 戶 瓊
- 審理委員 男谷忠友
- 審理委員 久保田貫一
- 審理委員 落合濟三
- 審理委員 岸本辰雄

地方稅補充費徵收ニ關
 スル豫會議定書

參事院裁定書

右縣令ト豫會トノ間ニ於テ地方稅補充費徵收ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九
 條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

明治十七年三月臨時豫會ニ於テ明治十五年度地方稅豫算不足并缺損金補充及徵收議案ヲ受ケ之ヲ審議
 スルニ豫算不足額金一萬四千四百六十四圓四十六錢七釐ノ內金二千三百九十七圓二十錢二釐ハ地方稅

支出セシハ彼是調理中適精算結了ノ期ヲ經過シタルヲ以テ翌年度ヨリ支出セシナリト答辯セシヲ以テ本會ハ之ヲ不當ト爲シ縣令ト權限ヲ爭フニ至レリ而シテ縣令代理人ハ戶長職務ヲ以テ受領中盜難ニ罹リタル者ナレハ地方稅ノ損失タル當然ナリト辯明スト雖モ元來戶長ハ行政事務ニ從事スルト其町村ノ理事者タルト二様ノ性質ノ者タルニ付之カ損失ノ歸ス可キ所ヲ知ラント欲セハ其事務ノ性質ニ付別ヲ爲サレハ得ズ然リ而シテ此下附金ノ如キハ地方稅自ラ起スノ工費ニアラスシテ町村起工ノ經費ニ對シ幾分ヲ補助セシ者ナレハ其町村理事者ノ性格ヲ以テ之ヲ受取リタル者ニシテ地方稅ニ於テ損失ス可キ限ニ在ラス且其內務卿ニ何定セリト謂フカ如キハ本件ニ對シ効力ナキ者トス又縣令代理人ハ盜難ノ事實及ヒ處分調理中適其年度ヲ經過スルヲ以テ翌年度ヨリ支出セリト辯明スト雖モ抑本會ハ其一年ノ事業ニ豫算ヲ議決シ縣令之ヲ認可シテ施行スル者ナレハ假リニ事情アリト雖モ縣令ノ職權ニ於テ可ラサルノ損失ヲ負ハシメ且會計年度ヲ素シ之ヲ支出シタルハ法律ノ範圍外ニ出テ越權ノ處置ヲ爲シタル者トス

縣令ノ答辯

縣令ハ縣下岩船郡大島村十四年度堤防修築補助金該村戶長ノ委任ニ依リ同郡土澤村戶長ニ於テ郡役所ヨリ其金員ヲ受領シ滞在中盜難ニ罹ルタル金百四十九圓八十二錢ヲ十五年度町村土木補助費ヨリ支出セシハ不當ノ處置ナリト謂フト雖モ該下附金ハ村總代又ハ工事擔當人等ニ下渡シタル者ニアラス戶長ノ職務ニ對シ其役場ニ下附シタル者ナレハ其損失ハ地方稅ニ歸スルヲ當然トシ又盜難ニ罹リタルハ十四年度地方費決算ノ前ニ在リト雖モ該件調理中日月ヲ經過シ己ニ決算報告ノ上ハ翌年則チ十五年度土木補助費有餘ヲ以テ支出スルハ當然ナリ然ルニ縣令ハ元來戶長ハ行政事務ニ從事スルト其町村ノ理事者タルト二様ノ性質ノ者タルニ付之カ損失ノ歸ス可キ所ヲ知ラント欲セハ其事務ノ性質ニ就キ判別ヲ爲サレハ得ズ而シテ此下附金ノ如キハ地方稅自ラ起スノ工費ニアラスシテ町村起工ノ經費ニ對シ幾分ヲ補助セシ者ナレハ其町村理事者ノ性格ヲ以テ之ヲ受取リタル者ニシテ地方稅ニ於テ損失ス可キ限ニアラス且內務卿ニ何定セリト謂フカ如キハ本件ニ對シ効力ナキ者ト謂フト雖モ其工事ノ性質ニ拘ハラス前ニ辯明セシ如ク戶長役場ヘ下附シタル者ニ付地方稅ヨリ支出スルハ理ノ然ルヘキ處ナリ其內務卿ハ其一年ノ事業ニ豫算ヲ議決シ縣令之ヲ認可シテ施行スル者ナレハ假リニ事情アリト雖モ縣令ノ職權ニ於テ可ラサルノ損失ヲ負ハシメ且會計年度ヲ素シ之ヲ支出シタルハ法律ノ範圍外ニ出テ越權ノ處置ヲ爲シタル者トス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ權限ヲ爭フノ要點ハ十四年度町村土木補助金ヲ戶長受領中盜難ニ罹リタルニ因リ縣令ハ十五年度地方稅ヲ以テ其缺額ヲ補充スルコトヲ得ルヤ否ニ在リ由テ審案スルニ縣會ハ戶長ノ職務タル行政事務ニ從事スルト町村理事者タルト二様ノ性質ヲ有スル者ニシテ該土木補助金ヲ受領シタルハ町村理事者ノ性格ヲ以テシタル者ナレハ盜難ニ罹リタルモ地方稅ノ損失ニ歸ス可キ者ニ出スル當然ナリ故ニ縣令ハ決シテ法律ノ範圍外ニ出テ越權ノ處置ヲ爲シタル者ニアラス

非スト謂フト雖モ抑地方稅ヲ以テ町村土木ノ費用ヲ補助スルハ其事業町村ノ協議費ヲ以テ施行スルコト能ハサルニ由ル者ニシテ其事業ハ町村土木ノ屬スト雖モ地方稅ニ於テ其費用ヲ補助スルコトヲ負擔シタル者ナリ故ニ其補助金ノ戶長ノ受領中盜難ニ罹リタル者ハ戶長ノ職務タル行政事務ニ從事スル者ニシテ該土木補助金ハ地方費決算以前ニ在リト雖モ該件調理中日月ヲ經過シ既ニ決算報告ノ上ハ十五年度町村土木補助費ヲ以テ支出スルハ當然ノ處置ナリト謂フト雖モ素ト是レ地方費ハ地方稅規則第四條ニ依リ毎年其一年ノ年度ノ經費ヲ豫算シ之カ定限ヲ立テタル者ナレハ縣令ニ於テ縣會ノ議決ヲ經ス翌年度町村土木補助費ヲ以テ前年度缺損ノ金額ヲ補充シタルハ法律ノ許サレハ所ナリトス

判決
右ノ理由ニ依リ町村土木補助金ヲ戶長受領中盜難ニ罹リ缺額ヲ生シタル者ハ更ニ地方稅ヲ以テ補充スルコトヲ得ルト雖モ縣令ハ縣會ノ議決ヲ經スシテ十五年度町村土木補助費ヲ以テ十四年度ノ缺額ヲ補充スルコトヲ得サル者トス

明治十七年六月五日

- 審理委員長 福岡孝弟
- 審理委員 山尾庸三
- 審理委員 鹽田三郎
- 審理委員 今村和郎
- 審理委員 高田善一
- 審理委員 小池靖一
- 審理委員 牧朴真

參事院裁定書

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方郵便費豫算ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

租稅門 地方稅

地方稅郵便費豫算ニ關スル參事院裁定書

- 新瀉縣令 永山盛輝
- 新潟縣會議長 島田茂

ラサルヲ以テ參事院ノ裁定ヲ請フ可キ者ニアラス
判決
右ノ理由ニ依リ本件ハ參事院裁定ノ限ニ在ラス
明治十七年六月五日

- 審理委員長 福岡孝弟
- 審理委員 山尾庸三
- 審理委員 鹽田三郎
- 審理委員 今村和郎
- 審理委員 高田善一
- 審理委員 小池靖一
- 參事院議官補 牧朴具

參事院裁定書

地方稅土木費豫算追加ニ關スル參事院裁定書

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ土木費豫算追加ノ件ニ付權限ヲ爭フト云フヲ以テ府縣會規則第九條ニ依リ
縣會ノ具狀
本年九月五日縣令カ本縣臨時縣會ニ下附セラレタル土木費豫算追加議案ニ付之ヲ審議スルニ府縣會規
則第一條ニ府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ストアリ豫算ナルモノ
ハ未タ事業ニ著手セサル前ニ當リ見込ム所ノ豫算ナレバ既ニ事業ノ成就シタル後ニ當リ見込ム所ノ算
當ニアラヌ約言スレハ豫算ナルモノハ起徵ノ始メニ議定スルニシテ事業ノ終ニスヘキモノニアラサル
ナリ而シテ府縣會ナルモノハ此豫算及其徵收方法ヲ議定スルニシテ事業ノ終ニスヘキモノニアラサル
徵收方法ヲ議定スルニ於テ縣會ハ之ヲ不急ノ土木トナシテ否決シタルニ縣令ハ之ヲ認可スヘカラストナシ
十六年通常縣會ニ於テ縣會ハ之ヲ不急ノ土木トナシテ否決シタルニ縣令ハ之ヲ認可スヘカラストナシ
內務卿ノ指揮ヲ奉シ原案ニ據リテ施行シタルモノナリ其原案タル那須郡親園村ヨリ鹽谷郡關谷鹽原ノ
兩村ヲ經尾頭時ヲ越ヘテ福島縣界山王峠ニ達スルノ目論見ナリシニ縣令ハ本年一月ヨリ六月ニ涉リテ

ナ變更シ更ニ那須郡三島村ヨリ鹽谷郡關谷村ヲ經鹽原村字善知島澤ヲ迂回シテ山王峠ニ達スルノ工事
ヲ施行シテ其竣功ニ至ラントス夫レ此ノ如ク最前ノ目論見ヲ改メ路線ヲ變更シ迂回シテ山王峠ニ達スルノ工事
以テ里程ニ里許ヲ延長シタルヲ以テ最前ノ豫算即チ九萬九千九百七圓八十錢一厘內地方稅五萬五千五
百六十五圓二十錢一厘國庫補助金三萬三千圓零附金一萬五百圓ニテハ不足ヲ告グヘキハ固ヨリ理ノ當
ニ然ルヘキ所ニシテ縣令モ亦自ラ當時目論見ヲ改メ路線ヲ變更シ迂回シテ山王峠ニ達スルノ豫算ニテハ三萬二千五百
二圓六十二錢四厘內地方稅二萬二千五百五十二圓六十二錢四厘國庫補助金一萬五千圓ニテハ不足アルヲ知
リタリト明言シタルハ府縣會規則第一條ニ據リテ然ルニ縣令ノ所置之ニ反シ其ノ不足アル豫算ヲ
發セサルヘカラスルハ府縣會規則第一條ニ據リテ然ルニ縣令ノ所置之ニ反シ其ノ不足アル豫算ヲ
知リナカラスニ新路線ノ工事ヲ施行シ既ニ數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日ニ及ヒ初テ不足アル豫算ヲ
加議案ヲ發シタルハ何ゾ事業ヲ施行シ既ニ數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日ニ及ヒ初テ不足アル豫算ヲ
カアル荷モ此ノ如ク豫算ヲ議定スルノ權限ヲ府縣會ハ寧ロ何ゾ事業ヲ施行シ既ニ數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日
線路ヲ變更スルノ當時縣會ヲ開クヘシトモ本會ハ決シテ然リト認ムルコト能ハサルナリ又縣令ノ說明ニ曰ク
合ハ行政者ノ都合ナリ本會何ゾ事業ヲ施行シ既ニ數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日ニ及ヒ初テ不足アル豫算ヲ
キノ議會ヲ開カス間フヘキノ事件ヲ問ハス議會ノ權限ヲ犯スモ可ナリト云フ手抑モ亦解スルヲ得ヌ夫
レ府縣會規則ハ大政府ノ制定シ公布セラレタルモノナレバ此規則ニ據リテ與ヘラレタル議事ニ向
テ今日マテニ費シタル所ハ最初ノ原案豫算額ヲ以テシタルニテ追加議案ノ金額ハ毫モ之ヲ費シ
タルニアラズト其之ヲ費シタル所ハ最初ノ原案豫算額ヲ以テシタルニテ追加議案ノ金額ハ毫モ之ヲ費シ
ニシタル以上ハ府縣會規則ノ本旨ニ反ラズト云フナ得ヤ以上ノ事業ヲ以テ之ヲ視レハ縣令ハ事業ヲ
先ニシテ豫算ヲ後ニシタルコト明瞭ナリ因テ縣令ハ法律ニ背キ議權ヲ犯シタルモノト信認ス

縣令ノ答辯
縣會ノ具狀ニ云ク府縣會規則第一條ニ府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ
議定ストアリ豫算ナルモノハ未タ事業ニ著手セサル前ニ當リ見込ム所ノ豫算ナレバ既ニ事業ノ成就
シタル後ニ當リ見込ム所ノ算當ニアラヌ約言スレハ豫算ナルモノハ起徵ノ始メニ議定スルニシテ事業ノ終
ニ兼任セラレ同十二月月中旬ヨリ著手第二著ハ右町ヨリ山王峠迄トナシ其經費十六年度ヨリ十八年度マ
テ三箇年ニ徵收工事ニ三箇年ニ落成スヘキノ處積雪ノ場所柄工事最中ニシテ之ヲ中止スレハ自然夥多
ノ崩壞ヲ來タシ冗費ヲ要スルノ憂モ有之福島縣下接續ノ道路ハ十五年度ニ於テ業已ニ竣功シ本縣內道
路ノ落成セサルカタメ未タ公衆ノ便益ヲ與フルヲ得ス故ニ工事ヲ續上落成セテ八獨本縣下ノモノナラズ福
島縣下人民ノ幸福ニモ有之且通商兼任以前若松地方六郡長ヨリ栃木縣鹽原新道開鑿速成ノ見込ヲ照會
方展願申出モ有之旁安田銀行ハ謀リ三箇年ニ徵收スヘキ金額ヲ右徵收ノ期マテ繰換セテ積ニ相約シ國庫
請求金三萬三千圓三箇年ニ下渡シ相成ヘキ分ナリ一時ニ請求シ工事ヲ一時ニ繰上テ落成セントノ見込ヲ
以テ本年四月中常置委員ハ諮問ニ及ヒシニ大ニ其議ヲ贊シ異見無之旨答テレハ本年五月三十日ヨリ著

手工事ニ取掛リタリ然レトモ十六年縣會ニ付シタルハ議案并説明等ノミニテ確ト給圖面モ無之實地測
 點原ヨリ山王峠マテ六里餘ノ引繼ニ相成追若手シタルニ里程延長ニ相見ヘタル旨工頭市職ヨリ
 工事擔當五等屬片岡經則ヘ申出タルモ始ハ本縣引繼ニ相成趣申入タリ猶福島縣土木課六等屬中村章重ヲ備
 場兼テシテ六月十日ヨリ測量爲致タルモ八里餘ニ相成趣申入タリ猶福島縣土木課六等屬中村章重ヲ備
 ヒ七月六日ヨリ入念測量爲致タルモ八里餘ニ相成趣申入タリ猶福島縣土木課六等屬中村章重ヲ備
 其以前五月申出者并非常置委員和田方正鹽谷道博等同道右線路檢査トシテ出張栗平邊迄登山引返シ其後
 常置委員横堀三子小峰新太郎横尾輝吉田中正造等檢査トシテ出張栗平邊迄登山引返シ其後
 之其邊租了解ノ管ナリ右不足費發見スルヤ直ニ臨時縣會開設トシテ山王峠或ハ若松地方迄檢分シ其後
 鑿ノ上漸ク八月下旬調製ニ付管内布達ニ及ヒ議員參集ノ日限ヲ圖リ招集開會シタルモ最前檢圖面等モ無之
 シタル儀ニハ無之府縣會規則第一條ニ準シタルモノナリ縣會ノ具狀又云ク明治十六年度ヨリ明治十八
 年度土木費豫算議案ハ十六年度通常會ニ於テ縣會ハ之ヲ不急ノ土木トナシ否決シタルニ縣令ハ之ヲ認
 可スヘカラストナシ内務卿ノ指揮ヲ奉シ原案ニ據テ施行シタルモノナリ然ルニ縣令ノ處置之反シ其
 不足ヲ知リナカラス新線路ノ工事ヲ施行シタルモノナリ然ルニ縣令ノ處置之反シ其
 豫算追加議案ヲ發シタルハ何ゾヤ云々此條今般増費ヲ要シ臨時會ニ付シタルモノハ第一著親園村ニ
 ラステ第二著ノ鹽原ヨリ山王峠迄六里餘ノ引繼ナルヲ辯解セン初メ親園村ヨリ關谷鹽原ノ兩村ヲ經テ福嶋
 縣堺山王峠ニ達スルノ距離見ナリシモ工事著手スルニ當リ關谷鹽原兩村ヲ經テ尾頭峠ヲ越テ福嶋
 路ニ沿サルヲ以テ更ニ國道新線路三嶋村ヨリ岐折シテ關谷鹽原兩村ヲ經テ尾頭峠ヲ越テ福嶋
 ヲ避ケ善知鳥澤通テ便道ト撰定シタル路線ニ著手シタル節善知鳥澤ト取窮メ測點モ建設致シ置キタル儀
 新道及ヒ朽木縣下山王峠ヨリ鹽原新道へ出張石井省一節善知鳥澤ト同行案内爲致タルニ付キ確然タル
 ニ有之其節福島縣一等屬中山高明(縣令)石井省一節善知鳥澤ト同行案内爲致タルニ付キ確然タル
 儀ナリ(光引受以前會知縣令)石井省一節善知鳥澤ト同行案内爲致タルニ付キ確然タル
 テ字名稱ヲ異ニスルモノ一體ノ地形ナリ首ニ山上ニ撰フト山腹ニ撰フトノ差アルモノニシテ其事業ノ
 地勢ト測量トニ依リテ或ハ之ヲ迂シ或ハ之ヲ直スル如キハ其目的ヲ以テ豫算ヲ定ムルモノニシテ若手
 會決議ニ反シ敢テ變更シタル儀ニハ無之ナリ(縣令)石井省一節善知鳥澤ト同行案内爲致タルニ付キ確然タル
 リ發覺シタルニテハ速ニ人民ノ幸福ヲ得セシメントスルト工事雪中ニ係リテハ崩壞ノ憂アレハ
 リ五千余ノ人夫ヲ以テ一時ニ落成テ期シタル位故此際工事中止スルハ不經濟ニシテ徒ラニ工夫ヲ空手
 セシムルノ都合アレハナリ且最前豫算ハ六里餘ノ計收ナリシモ里程ヲ延長シタルハ豫算外ニ生シタル
 モ同様ニシテ地方稅規則第五條ニ其不足補充費ヲ徵收ナリシモ里程ヲ延長シタルハ豫算外ニ生シタル
 或ハ府縣會規則第三條ニ依リ豫算追加シ及ヒ其徵收方法ヲ議會ニ付スルヲ得ヘシ若シ是豫算ヲ以テ

實行上不得止ノ増費ヲ支フル能ハサルニ付追テ補充費トスルモ可然儀トハ存タレトモ三萬餘圓ノ金額
 ニモ異リタレハ府縣會規則第一條ニ據リ臨時縣會ヲ開設シタル事ニテ法律ニ背キ職權ヲ犯シタル廉無
 之最前豫算ノ金額未タ盡キサルニ工事ヲ中止スルハ種種差支モ有之ニ付目今ハ工夫ヲ減シ工事ハ其儘
 著手致サセタリ姿ニ新線路ノ工事ヲ施行シタル數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日ニ及ヒ始テ不足豫算追加議案ヲ
 提出シタルニテハ新線路ノ工事ヲ施行シタル數月ヲ經テ竣功ヲ見ルノ今日ニ及ヒ始テ不足豫算追加議案ヲ
 說明ニ曰ク路線ヲ變更スルノ當時議會ヲ開クハ幸福ヲ得セシメントスルト行政上ノ都合ヲ以テ遲延及云々縣令
 是レ實ニ難キ答辯ト云フヘシ云々此條ハ說明ヲ誤解スルモノナリ其議員ノ問ニ豫算不足ヲ發見シ
 タルトキニハ行政者ノ都合ニ依リテ是等ノ事ハ答辯スルノ限ニアラス乍併里程延長豫算不足ヲ發見
 時期ノ如キハ行政者ノ都合ニ依リテ是等ノ事ハ答辯スルノ限ニアラス乍併里程延長豫算不足ヲ發見
 スルヤ直チニ議案ヲ調製今般ノ臨時縣會ヲ開設セラレタル儀ト了解セラレタシトセリ縣會ノ具狀又云ク
 縣令又說明シテ曰ク該工事ニ向テ今日マテニ費シタル所ハ最初原案豫算額ヲ以テシタルノミニシテ追
 加議案ノ金額ハ毫モ之ヲ費用シタルニアラスト其之ヲ費用シタル所ハ最初原案豫算額ヲ以テシタルノミニシテ追
 ヤサハルモ事業ヲ先ニ豫算シ後ニシタル儀ト以上ハ府縣會規則ノ本旨ニ反ラズト云フヲ得ヤ云々此條
 續續申シ述タル通り不足ヲ發見スルヤ直チニ議案ニ取掛リタルニテ事業ヲ先ニ豫算シ後ニシタル儀
 ニ無之毫モ府縣會規則ニ違犯シタル廉無之ナリ

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ權限ヲ爭フト云フノ要點ヲ審查スルニ栃木縣鹽原新道開鑿ノ工事ハ明治
 十六年通常縣會ニ於テ否決シタル議案ヲ縣令ハ內務卿ノ指揮ニ依リ原案ノ通施行スルニ決シタルモノ
 ニシテ本年一月ヨリ著手シ三島村ヨリ關谷村ヲ經テ鹽原村內古町マテハ既ニ落成シ古町ヨリ山王峠ニ
 達スルノ路線ニ於テ尾頭峠ノ險峻ヲ避ケテ善知鳥澤ノ便道ニ撰定シタルニ付里程二里許ヲ延長シ隨テ
 其經費三萬二千五百五十二圓六十二錢四釐内地方稅二萬二千五百五十二圓六十二錢四釐國庫下渡ノ見込金
 一萬圓ノ増加ヲ生シタリ抑工事施行ニ付地勢ノ險阻ト事業ノ難易トヲ斟酌シ迂回ト直達トノ差違ヲ生
 スルハ不得止モノニシテ經費ノ增加ヲ生スレハ之ヲ縣令ハ其路程ノ延長ヲ發見スルヤ直チニ臨時縣會
 ニ開會ハ此際宜ク豫算追加ノ議案ヲ議シ再シテ之ヲ精査ニシ從テ之ヲ給圖面ヲ調製シ諸般ノ手續ヲ盡シ
 ノ開設ヲ計畫シ先ツ實地ノ測量ニ著手シ再三之ヲ精査ニシ從テ之ヲ給圖面ヲ調製シ諸般ノ手續ヲ盡シ
 テ漸ク九月五日臨時縣會ヲ開キ經費追加ノ議案ヲ付スルコトヲ得タリト云フ然ラハ則チ縣令ハ則チ
 縣會ニ問フヲ用ヒスト云フニ非ス唯其手續ヲ盡シ時日ヲ費シタルカ爲メ遷延シタルモノナレハ縣令
 下縣會トノ爭フ所ハ臨時縣會開設ノ遲速ヲ云フニ過キスハ權限ヲ爭フモノニ非ス府縣會規則第九條
 二府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシハ權限ヲ爭フモノニ非サルヲ以テ參事院ノ裁定ヲ
 由テ具狀シ政府ハ裁定ヲ請フヘシトアリ參事院ハ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニ
 シ又ハ權限ヲ爭フモノニ非ラス
 請フ可キモノニアラス
 判決
 右ノ理由ニ因リ參事院裁定ノ限ニアラス

明治十七年十一月二十日

- 參事院 參事院裁定書
- 審理委員長 山尾庸三
 參事院副議長 安場保和
 審理委員 清岡公張
 參事院議長 秋月新太郎
 審理委員 若山儀一
 參事院議長 落合濟三
 審理委員 黒田綱彦

高知縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ナトモ、從前縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ス從前雜收入ノ項ヲ以テ縣會ノ議定ニ付シタルハ、畢竟縣令ノ錯誤ニ出テ且該項ハ內務大臣達ヲ以
 テ議案ノ外書トシテ審議考案スルノ事、府會規則第一條ニ依リ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅雜收入并ニ監獄巡閱ノ件ニ付法律ノ見解ナキニシテ、從前ノ例ニ依リ決議
 規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要傾左ノ如シ
 縣會ノ具狀

第一條
 高知縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ナトモ、從前縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ス從前雜收入ノ項ヲ以テ縣會ノ議定ニ付シタルハ、畢竟縣令ノ錯誤ニ出テ且該項ハ內務大臣達ヲ以
 テ議案ノ外書トシテ審議考案スルノ事、府會規則第一條ニ依リ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅雜收入并ニ監獄巡閱ノ件ニ付法律ノ見解ナキニシテ、從前ノ例ニ依リ決議
 規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要傾左ノ如シ
 縣會ノ具狀

地方稅雜收入并ニ監獄
 巡閱ニ關スル參事院裁
 定書

本通商縣會ニ於テ監獄巡閱ノ豫算ヲ議定スルニ當リ、在監人中未決囚豫定人員ノ見積リ上明瞭ナラザル
 所アリ、縣令代理人ニ向テ拘留人及收監人ノ區別并ニ詳細ナル實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 ストシテ、請求セシニ、依テ縣會ハ縣令ノ命ニ依リ其請求ヲ拒絕シ、地方稅ノ實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 第一條ニ依リ地方稅ヲ以テ審議考案スルノ事、府會規則第一條ニ依リ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 第二條ニ依リ地方稅ノ實況ヲ觀察シ、豫算ヲ議定スルニ當リ、在監人中未決囚豫定人員ノ見積リ上明瞭ナラザル
 所アリ、縣令代理人ニ向テ拘留人及收監人ノ區別并ニ詳細ナル實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 ストシテ、請求セシニ、依テ縣會ハ縣令ノ命ニ依リ其請求ヲ拒絕シ、地方稅ノ實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ

第一條
 高知縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ナトモ、從前縣令ハ明治十八年度通商縣會ニ於テ收入議案中雜收入ノ項ニ就キ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 ス從前雜收入ノ項ヲ以テ縣會ノ議定ニ付シタルハ、畢竟縣令ノ錯誤ニ出テ且該項ハ內務大臣達ヲ以
 テ議案ノ外書トシテ審議考案スルノ事、府會規則第一條ニ依リ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅雜收入并ニ監獄巡閱ノ件ニ付法律ノ見解ナキニシテ、從前ノ例ニ依リ決議
 規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要傾左ノ如シ
 縣會ノ具狀

第一條
 高知縣會ハ明治十八年度收入豫算ノ議事ニ際シ、雜收入ノ項ヲ當然議定スルニ當リ、其豫算ハ地方稅ノ實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 ストシテ、請求セシニ、依テ縣會ハ縣令ノ命ニ依リ其請求ヲ拒絕シ、地方稅ノ實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 第一條ニ依リ地方稅ヲ以テ審議考案スルノ事、府會規則第一條ニ依リ從前ノ例ニ依リ決議スル所ア
 第二條ニ依リ地方稅ノ實況ヲ觀察シ、豫算ヲ議定スルニ當リ、在監人中未決囚豫定人員ノ見積リ上明瞭ナラザル
 所アリ、縣令代理人ニ向テ拘留人及收監人ノ區別并ニ詳細ナル實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ
 ストシテ、請求セシニ、依テ縣會ハ縣令ノ命ニ依リ其請求ヲ拒絕シ、地方稅ノ實況ヲ尋問セシニ、縣令代理人ハ必要ナラ

トノ地方稅規則第一條ノ外ニシテ他ニ地方稅ト稱呼スヘキモノアラサルナリ故ニ縣會ハ法律ニ於テ雜收
入ヲ議定スヘキ議權ナキモノト確信ス

高知縣會ハ明治十八年度監獄費支出豫算ノ議事ニ際シ未決者中拘留狀并ニ收監狀ヲ以テ入監セシモノ
ノ區別及入監ノ年月日等ノ說明ヲ請求セリ縣令代理人ハ經費ニ關係ナキニ依リ之ヲ辯明スルノ必要ナ
シトシ答辯ヲ與ヘサリシニ付縣會ハ監獄則第五條未項ニ府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコト
ヲ得トアルニ依リ其巡閱ヲ求メシモ典獄ハ縣令ノ命令ナリトシ之ヲ巡閱ヲ拒絶セリ元來府縣會議員ハ
合同體ナル議會ノ一分子ナリ而シテ其一分子ナル議員ノ權限ヲ妨害セシハ恰モ議會全體ノ權限ヲ妨害
セシト同一一般ナリト謂フナリ而シテ其旨トセリ依テ案スルニ未決者ノ拘留狀ヲ以テ入監セシモノ
ルモ又收監狀ヲ以テ拘留セラルハモ均シク未決者ニシテ其令狀ノ種類ニ依リ經費ノ豫算ニ關係ヲ及ホ
スヘキモノニアラサルヲ以テ之ヲ辯明ナリト云フヘキモノニアラサルヤ判明ナリトス縣會ハ縣令ニ於テ監
獄ノ巡閱ヲ拒絶シタルト謂フモ何リ縣令ニ於テ巡閱ヲ拒ムノ道理ナランヤ當初議員ノ請求スル所ハ囚籍
ヲ披見セントスルニ在リ凡ソ官廳ニ屬スル帳簿ハ假令府縣會議員タルニ就キ之ヲ拒絶シタルニ外ナラサルナリ監獄則第二
五條未項ノ成文ニ依レハ府縣會議員ハ監獄ヲ巡閱スルヲ得ルニ止マリ帳簿ヲ披見スルコトヲ得ヘキモノ
ニアラス且府縣會議員ノ如キ府縣ニ達セラレタルモノヲ含有シタルモノニアラス又監獄則第五條未項ハ
アラス且府縣會議員ノ如キ府縣ニ達セラレタルモノヲ含有シタルモノニアラス又監獄則第五條未項ハ
議員一已ノ資格ヲ以テ監獄ヲ巡視スルヲ得ルニ止マリ帳簿ヲ披見スルコトヲ得サルモノナルヘシ且右
ノ未項ニ府縣會議員トアリテ府縣會トナキヲ以テ見レハ無形人ナル縣會全體ヨリ權限ヲ爭フヲ得ヘキモノ
サルヤ判明ナリ果シテ然ラハ假令監獄則法律ナリトスルモ縣會全體ヨリ權限ヲ爭フヲ得ヘキモノニ
アラス依テ本件ハ御院ノ裁定ヲ仰クヘキモノニアラスト信認ス

審明

第一條
本件縣令ト縣會ト法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭フノ要點ハ雜收入ナルモノハ府縣會規則第一條府縣會
ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ニ其徵集方法ヲ議定スルニ照ラシ縣會ノ議定ニ附スヘキモノ
ノナルヤ否ヤニ在リ依テ之ヲ審案スルニ雜收入ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ執行上ヨリ生スルモノ
トス依テ縣令カ雜收入ノ項ヲ縣會ノ議定ニ附セザリシハ當然ノ處置ナリトス

第二條

本件縣令ト縣會ト權限ヲ爭フト謂フノ要點ハ縣會カ監獄費ノ豫算ヲ議定スルニ當リ在監人中拘留人及收
監人ノ區別并ニ其實況ヲ知ラント欲スルヨリ監獄ノ巡閱ヲ請求セシニ縣令ハ之ヲ拒絶シタルニ而シテ監
獄則第五條第四項ニハ府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルヲ得ルニ止マリ帳簿ヲ披見スルコトヲ得
シタルハ縣會ノ權限ヲ妨害シタルモノナリト謂フニ在リ然レトモ監獄巡閱ノ事ハ本ト是レ政府カ府縣
トス依テ縣令カ雜收入ノ項ヲ縣會ノ議定ニ附セザリシハ當然ノ處置ナリトス

判決

右ノ理由ニ依リ第一條縣令カ雜收入ノ項ヲ縣會ノ議定ニ附セザリシハ法律ノ見解ヲ誤リ縣會ノ權限ヲ
犯シタルモノニアラス第二條本院ニ於テ裁定スルノ限ニアラス

- 審理委員長 山尾 庸三
- 審理委員 嶋 惟 精
- 審理委員 中 村 弘 毅
- 審理委員 落 合 濟 三
- 審理委員 岸 本 辰 雄
- 審理委員 廣 橋 賢 光
- 審理委員 蒲 生 仙

參事院裁定書

大分縣令 西村 亮吉

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅精算報告書ノ件ニ付權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰ク
ノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀
明治十八年通常縣會ニ於テ明治十六年度地方稅支出精算報告書ヲ受ケ之ヲ調査スルニ雜出ノ項ニ金一
圓一錢四釐前年度監獄費追拂トアルヲ以テ之ヲ縣令代理人ニ質スニ十五年監獄費中刑具費ノ支出ニ
誤認アリシヲ十六年度ニ至リ發見セシモ精算決了ノ後ナルヲ以テ即チ十六年度中豫算外ニ生シタル事
件ノ費途ニ付之ヲ豫備費ヨリ支出セシモノナリト答辯セリ依テ之ヲ地方稅規則ニ照スニ其第四條ニ曰
ク其年七月ヨリ翌年六月迄チ一週年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費

地方稅精算報告書ニ關
スル參事院裁定書

ノ豫算并ニ地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ云トアリ蓋シ其一週
年度ノ豫算ナルモハ該年度内ノ經費ニ充ツヘキモノニシテ前年度ノ追拂ヲナスヘキモノニアラサル
ヘシ且其第三條豫備費ノ割書豫算外ニ生シタル事件ノ費途トハ其年度内ノ事件ノ費途ニ充ツルモノニ
シテ既往年度ノ費用ニ充ツヘキモノニアラサルヘシ故ニ該費ノ如キハ更ニ縣會ノ議決ヲ經テ支出スヘキモ
ノナルヲ縣令ニ於テ豫算ニ翌年度ノ經費ヲ以テ支出セシハ會計年度ヲ紊リ議會ノ權限ヲ犯シタル處置ナ
リト信認ス

縣令ノ答辯

前年度監獄費ノ追拂ヲ翌年度豫備費ヨリ支出シタルハ明治十五年度ニ於テ刑具費十四圓十九錢二釐ノ
支出ヲ要シタル處此費用ハ明治十四年七月内務大藏兩卿乙第三十四號達ニ依リ集治監ニ入ルヘキ四徒
ト縣獄ニ入ルヘキ四徒ノ延數ニ照シ平均シテ支辨スヘキモノト見込一圓一錢四釐ヲ國庫ノ負擔トシテ
引去リ殘額十三圓十七錢八釐ヲ地方稅ノ負擔トシテ決算ヲ遠ケタルニ明治十六年度ニ至リ該費ハ集治
監ニ入ルヘキ四徒ニ關係セスト其筋ヨリ照會アリシニ依リ篤ト取調ヘ始テ其誤認ヲ發見(十五年度決算)セ
リ付テハ右一圓一錢四釐ハ更ニ地方稅ヨリ支拂ヲ要シ即チ十六年度豫算外ニ生シタル事件ノ費途ナル
ヲ以テ府縣會規則第三十七條ニ依リ常置委員ニ諮問シ豫備費ヨリ支出シタルモノナリ然ルニ縣會ハ地
方稅規則第四條ニ曰ク其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一週年度トシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以
テ支辨スヘキ經費ノ豫算并ニ地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ云云
トアリ蓋シ其一週年度ノ豫算ナルモノハ該年度内ノ經費ニ充ツヘキモノニシテ前年度ノ追拂ヲナスヘ
キモノニアラサルヘシト官フト雖モ右追拂ノ儀ハ十六年度豫算外ニ生シタル費途ナリ又縣會ハ其第三條
ニ豫備費ノ割書豫算外ニ生シタル事件ノ費途トハ其年度内ノ事件ノ費途ニ充ツルモノニシテ既往年度
ノ費用ニ充ツヘキモノニ非サルヘシト云ト雖モ前陳ノ通十六年度中ニ於テ其誤認ヲ發見シタルモノニ付即
チ同年度ノ豫算外ニ生シタル事件ノ費途ナルヲ以テ之ヲ同年度ノ豫備費ヨリ支拂フヘキハ論ヲ談サ
ルナリ抑豫算外ニ生シタル事件ノ費途トハ水火盜難等ニ係リタル缺額ヲ補填シ或ハ前年度ノ精算中誤
謬ヲ發見シ追拂ヲナス等ノ費用ニ付テ即チ明治十五年度内務大藏兩卿乙第七十二號達精算報告書
式ニ雜出ノ項ニ示スカ加キモノニ付テ之ヲ發見シ同年度ノ豫備費ヨリ支出スルハ當然ノ事ナリ又縣會
ハ更ニ縣會ノ議決ヲ經テ支出スヘキモノト官フト雖モ前陳ノ如ク豫備費ヲ以テ支拂フヘキモノニ付府
縣會規則第三十七條ニ依リ常置委員ニ諮問シ豫備費ヲ以テ支出セリ如此豫算外ニ生シタル事件ノ費途
ハ更ニ縣會ノ議決ヲ要スルモノニアラス故ニ明治十六年度ニ於テ監獄費追拂ヲ爲シタルハ會計年度ヲ
紊リ議會ノ權限ヲ犯シタル處置ニアラス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ權限ヲ爭フノ要點ハ縣令ハ縣會ノ議定ヲ經スシテ十六年度ノ豫備費ヲ以
テ十五年度ノ監獄費追拂ヲナスコトヲ得ルヤ否ニ在リ依テ之ヲ審案スルニ縣會ハ一週年度ノ豫算ハ該
年度内ノ經費ニ充ツヘキモノニシテ前年度ノ追拂ヲナスヘキモノニアラサルヘシ且豫備費ノ割書豫算
外ニ生シタル事件ノ費途トハ其年度内ノ事件ノ費途ニ充ツルモノニシテ既往年度ノ費用ニ充ツヘキモ
ノ豫算并ニ地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ云トアリ蓋シ其一週
年度ノ豫算ナルモハ該年度内ノ經費ニ充ツヘキモノニシテ前年度ノ追拂ヲナスヘキモノニアラサル
ヘシ且其第三條豫備費ノ割書豫算外ニ生シタル事件ノ費途トハ其年度内ノ事件ノ費途ニ充ツルモノニ
シテ既往年度ノ費用ニ充ツヘキモノニアラサルヘシ故ニ該費ノ如キハ更ニ縣會ノ議決ヲ經テ支出スヘキモ
ノナルヲ縣令ニ於テ豫算ニ翌年度ノ經費ヲ以テ支出セシハ會計年度ヲ紊リ議會ノ權限ヲ犯シタル處置ナ
リト信認ス

右ノ理由ニ依リ縣令カ縣會ノ議決ヲ經スシテ十五年度精算決了ノ後監獄費誤認ノ追拂ヲ其發見シタル
十六年度ノ豫備費ヨリ支出シタルハ縣會ノ權限ヲ犯シタル處置ニアラサルモノトス

明治十八年六月四日

- 審理委員長 山尾庸三
- 審理委員 福羽美靜
- 參事院議官 峯戸 磯
- 審理委員 岩崎小二郎
- 參事院議官補 岩倉具定
- 審理委員 岩根荒助
- 參事院議官補 落合清三
- 審理委員 岩倉具定

參事院裁定書

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ地方稅貸下未納金打切補充追徵ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ府縣會規則第
九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ
縣會ノ具狀
明治十八年九月臨時縣會ニ向テ縣令ハ臨時縣會第一號議案ヲ發シテ地方稅貸下未納金打切補充追徵額
區郡部負擔割合ヲ議定セシメントス因テ本會ハ該金額ヲ議定スルニ當リ其起源性質等ヲ尋究スルニ該

地方稅貸下未納金打切
補充追徵ニ關スル參事
院裁定書

補充追徵額ノ内金一萬六千四百四十圓六十錢六釐ハ縣會ノ決議ヲ經ス又常置委員ハ諮問ノ趣旨ニモ基カ
 ス全ク一已ノ處斷ヲ以テ地方ノ事業ニアラサル事項ニ地方稅ヲ支辨シ我カ愛知縣會ノ職權ヲ侵蝕シタ
 ル事ヲ發見シタリ何者我カ愛知縣會ハ府縣會規則第一條ニ據テ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及
 其徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ有スレハナリ右ノ理由ナルヲ以テ該補充追徵額區郡負擔割合ノ如キハ愛
 知縣會ニ於テ議定シ愛知縣民ノ負擔スヘキモノニアラスト信ス是レ縣令ト本會ト法律ノ見解ヲ異ニス
 ル要點ニシテ今裁決定ヲ請フ所以ナリ

縣令ノ答辯

今回臨時縣會ハ發布シタル金六萬千七百六圓五十二錢六釐貸下未納金打切補充追徵ノ議案ニ對シ縣
 會ハ該補充追徵額ノ内金一萬六千四百四十圓六十錢六釐ハ縣會ノ決議ヲ經ス又常置委員ハ諮問ノ趣旨ニ
 モ基カス完ク一已ノ處斷ヲ以テ地方ノ事業ニアラサル事項ニ地方稅ヲ支辨シ我カ愛知縣會ノ職權ヲ侵蝕シ
 豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ有スレハナリ右ノ理由ナルヲ以テ該補充追徵額區郡負擔割合ノ
 如キハ愛知縣會ニ於テ議定シ愛知縣民ノ負擔スヘキモノニアラスト信ス是レ縣令ト本會ト法律ノ見解ヲ異ニス
 ル要點ニシテ今裁決定ヲ請フ所以ナリ

作用ニ外ナラサルヲ以テ明治十四年六月常置委員ハ諮問セシニ委員ニ於テモ之ヲ賛成シ貸下然ルヘシ
 トノ答辯ニ及ヒタリ爾來其貸下金ヨリ生スル所ノ潤益ハ金一萬二千九百六十一圓五十九錢六釐ナリ然
 レハ其貸下金ヨリ生シタル所ノ潤益ヲ收受スルモノハ又之ヨリ生スル損失ヲ負擔セサルヲ得サルノ義
 務ヲ生スルハ理ノ尤著明ナルモノトス

依テ本年五月臨時縣會開設ノ際東洋組ハ貸下タル則チ金一萬六千四百四十圓六十錢六釐ノ未納ニ對スル
 處分方法ヲ該會ヘ諮問セシニ該會ニ於テハ故縣令カ常置委員ヘ諮問ノ主旨ニ戻リ無抵當ニテ貸下タル
 ヨリ生スル所ノ損失ナレハ此損失ハ地方稅ノ負擔スヘキモノニアラスト信ス是レ縣令ト本會ト法律ノ見解ヲ異ニス
 サレハ之ニ答フルノ限リニアラスト信ス是レ縣令ト本會ト法律ノ見解ヲ異ニス

次テ又臨時縣會ヲ開キ貸下未納金處分未定中經費ノ不足ヲ補充セシカ爲メ一時借入金ヲ要シ之カ利子支
 出ノ議案ヲ發付セシニ該會ハ既ニ前會ニ於テ諮問案ヲ返還セリ

足額ニ對スル借入金ノ利子ヲ剛除セリ於テ該會ハ本案ト意見ヲ異ニシ諮問案ノ返還ニ對シテハ其損失
 ノ何レニ歸スルヤチ内務大藏兩卿ニ上申シ指揮ヲ請ヒシニ上申ノ趣地方稅ノ損失ニ歸スル儀ト可心得
 旨指揮相成タリ依テ本官ノ職權ヲ以テ夫處分方執行セリ

又借入金ニ對スル決議ハ府縣會規則第五條ニ據リ內務卿ヘ具狀シテ指揮ヲ請ヒシニ書面具狀ノ趣地方
 稅取扱費ハ原案ノ通り郡區負擔割合ハ縣會決議ノ通施行スヘキ旨指揮相成タリ

然ルニ目下十七年度地方稅決算ノ場合ニ際シ貸下未納金打切ノ爲メ經費ニ不足ヲ生シ結算ヲ了スル能
 ハサルヲ以テ則チ經費ノ缺額ヲ補充セントシテ今回臨時縣會及ヒ區郡都會ヲ開キ地方稅規則第五條ノ
 末項ニ據リ議案ヲ發付シタルモノニシテ則チ前項陳述ノ如ク索ヨリ法律規則ニ據リ貸下タルモノニ
 ラス即チ行政上ノ作用ニ出タルハ固ニ判然タル然ルトキハ此貸下金ハ法律規則ニ據リ貸下タルモノニ

十費目ノ外ナレハ縣會ニ於テ之ヲ議決スルニ由ナカラン是特ニ常置委員ニ諮問シタル所以ナリ故ニ委
 員之ヲ甘諾シテ諮問ニ答ヘ縣會モ亦其諮問ヲ以テ縣令カ法律規則ニ抵觸シタル諮問ヲ發シタリトセ
 常置委員ノ答辯モ亦當然ノコトナリト各之ヲ是認セリ則チ田中勘七郎外五名ハ貸下タル未納缺損金ニ
 對シ敢テ異議ヲ容レサルヲ以テ之ヲ證明スルニ足レリ

然ルトキハ其職權ヲ侵蝕シタルト云ヒ法律ノ見解ヲ異ニスルトノ要點ハ只其抵當ノ有無ニ在リ之ヲ反
 言スレハ抵當ヲ取レハ職權ヲ侵蝕シタルニアラス又法律ノ見解ヲ異ニスルト云フノ精神ニ外ナラス
 ト認メタリ

是縣會ハ諮問ノ性質ヲ誤解シ又法律ノ適用ヲ誤認シタルヨリ原因セシ見ト謂サルヲ得ス何トナレハ
 所謂諮問ノ性質タルヤ行政官カ其職權ヲ以テ行フヘキ事件ヲ參考ノ爲メ問フモノナレハ縣會又ハ常置
 委員ハ其諮問ニ對シ意見ヲ上申スルニ止マルモノニテ其答辯ヲ取捨スルハ固ヨリ縣令ノ權内ニ在テ府
 縣會規則第一條ノ議定トハ其差違尙存環ノミナランヤ

又法律規則ニ據リ議定トハ其差違尙存環ノミナランヤ

是本官カ行政事務執行上ヨリ生シタル事件ト認メ內務大藏兩卿ノ指揮ヲ得テ其處分ヲ結了シタル所以
 ニシテ敢テ法律ニ向テ權限ヲ爭ヒ見解ヲ論スルノ限リニアラスナリ

然ルトキハ今回臨時縣會ニ發布シタル貸下未納金打切補充追徵ノ議案ハ毫モ法律ニ抵觸セス又職權ヲ
 侵蝕シタルモノニモアラスト確認ス

審明

本件具狀ノ要旨ハ縣會ハ臨時縣會第一號議案地方稅貸下未納金打切補充追徵額ノ内金一萬六千四百四
 圓六十錢六釐ハ縣會ノ決議ヲ經ス又常置委員ニ諮問ノ旨趣ニモ基カス縣令一已ノ處斷ヲ以テ地方ノ事
 業ニアラサル事項ニ支辨シタルモノナレハ府縣會規則第一條ニ據リ執行シタルモノニアラス當初常置委員ニ諮問シ
 ヒ縣令ハ地方稅金ヲ貸下タルヤ索ヨリ法律規則ニ據リ執行シタルモノニアラス當初常置委員ニ諮問シ
 タルカ如ク專ラ經濟上ノ便宜ヲ圖リシモノニシテ全ク行政上ノ作用ニ出デタルモノナレハ法律上ニ於
 テ權限ヲ爭ヒ見解ヲ論スヘキモノニアラスト信ス是レ縣令ト本會ト法律ノ見解ヲ異ニス

ルモノニシテ田中勘七郎外五名ニ貸下タル金四萬五千三百五十九圓九十錢十同性質ノモノタルヤ明ナリ又
 地方稅ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補充スルニ地方稅ヲ以テスヘキハ論ヲ俟ス然レハ則チ縣會ノ論旨
 ハ到底該金額ハ當初常置委員ニ諮問シタル旨趣ニ違ヒ貸下タルモノナルヲ以テ其未納金補充追徵額ヲ
 議定スヘキモノニアラスト云ニ過サレハ強テ府縣會規則第一條ヲ引援シ之ヲ論スヘキモノニアラス
 ノ見解ヲ異ニスシタルモノニアララス又權限ヲ爭フモノニアラス參事院ハ府縣會ト府縣會トノ間ニ於
 テ法律ノ見解ヲ異ニスシタルモノニシテ又ハ權限ヲ爭フモノニアラス裁決定スル處ナルヲ以テ本件ノ如キハ本院ノ裁決定ヲ請フヘ
 キモノニアラス

判決

右ノ理由ニ依リ本件ハ參事院裁定ノ限ニ在ラス

テ今其裁定ヲ仰カントスルノ要領ハ他ナシ地方稅規則ノ範圍ハ本縣ノ人足舊慣使役法ヲ包轄スルヤ否
 ノ一點ニ在リトス
 抑本縣ニ於テ現行スル所ノ人足舊慣使役法ナルモハ明治十二年二月二十七日太政官號外達ニ基キ明
 治十三年度ノ縣會議決ヲ經テ實施スル所ニ係レリ該法第二條ニ曰ク人足ハ耕地地價金千圓ニ付二十五
 人戶數一戸ニ付二人ヲ課シ其關係町村限リ使役スヘシト之ヲ說明セハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ河道
 路堤防橋梁等ノ建築又ハ修繕アルニ際シ其關係町村ノ人民ニ對シ戶數一戸ニ付人足二人地價千圓ニ付
 同二十五人ヲ課シ以テ其役ニ就カシムルモノニシテ則チ土地ト戸數ト以テ役ニ賦課スルニ勞力ヲ以テスル
 日金二十錢或ハ二十五錢ノ實額ニ就カシムルモノニシテ則チ土地ト戸數ト以テ役ニ賦課スルニ勞力ヲ以テスル
 雖モ法ノ用ハ土地ト戸數トニ課シテ金銀ヲ徵收スルコト一一般地方稅ノ徵收ト殆ト異ナル所ナシ是乃チ
 本縣人足舊慣使役法ノ概略ナリ縣令ハ現ニ此法ヲ施行シ又更ニ本年度收入豫算原案ノ地價割ニ於テモ
 將ニ地租三分一ノ極點ヲ賦課セントス是ニ於テ議會ハ以テ原案地價割ニ於テ既ニ地租三分一ノ極
 點ヲ課シ而シテ尙ホ又人足舊慣使役法ニ於テ土地ニ賦課スル所アリテハ勞力ト金銀トノ名目ハ異ナル
 リト雖モ遠ニ彼ノ地方稅規則第一條第一項ニ賦課スル所アリテハ勞力ト金銀トノ名目ハ異ナル
 者ニ質問シタルニ代理者ハ答テ曰ク本縣ノ人足舊慣使役法ハ其申ノ上施行シ來リタルニ至ラント依テ之ヲ出
 基キ明治十三年度縣會議決ヲ經テ內務卿ノ具申ノ上施行シ來リタルニ至ラント依テ之ヲ出
 法ニシテ地方稅規則ノ支配ヲ受ケヘキモノニアラスニ已ニ地方稅規則ノ支配ヲ受ケヘキモノニアラス
 ハ假令該使役法ニ於テ地方稅規則ノ制限外ニ課稅スト雖モ敢テ之ニ賦課スルノ理ナシト然レトモ議會
 テ土地ニ賦課シ金銀ニ徵算シ得ヘキモノハ等シク是地方稅規則ノ制限外ニ課稅スト雖モ敢テ之ニ賦課スル
 人足使役法ハ則チ地方稅ニ屬スルモノニシテ土地ニ賦課シ金銀ニ徵算シ得ヘキモノハ等シク是地方稅規則
 上ノ特許ヲ得ルニアラスハ何ナリトカ地方稅規則ノ大綱タル地方稅規則ノ制限外ニ課稅スト雖モ敢テ之
 ヤト是事件ニ要スル事實ノ概略ナリトカ地方稅規則ノ大綱タル地方稅規則ノ制限外ニ課稅スト雖モ敢テ之
 今ヤ縣會ヲ裁定ト仰カントスルニ當リ以上列叙スル所ノ事實ニ就キテ果シテ縣令ト縣會トカ法律ノ見
 論ニ點ヲ論窮スルハ實ニ事件ニ對シテ最モ必要ノ問題ナリトス依テ先ツ見解ヲ異ニスルモノアル理由ヲ
 夫レ縣令ニ於テ本縣人足使役法ヲ特別法トシ假令地方稅規則ノ制限以外ニ賦課スルモノ之ニ抵觸セスト
 謂フ所以ノモノハ即チ該人足使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケサルノ理ヲ辯明セント欲セハ由ルナリ議會ハ之ニ反
 シテ地方稅規則ハ本縣ノ人足使役法ヲ支配スルモノト解釋セリ是レ縣令ト縣會トカ地方稅規則第一條
 第一項ノ法文ニ就キ見解ヲ異ニスル所以ナリ縣令ハ謂フ地方稅規則第一條第一項ノ法文ニ就キ見解ヲ異ニスル
 所アルノミト是皮相ノ見ノミ未以テ地方稅規則ノ支配ヲ受ケヘキモノハ等シク是地方稅規則ノ制限外ニ課稅
 ナレハ即チ既ニ人足舊慣使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケヘキモノハ等シク是地方稅規則ノ制限外ニ課稅

則ト人足使役法トナシナカテ論窮セサル可ラス唯夫レ縣令ハ人足使役法ノ成立ヲ論據トシテ地方稅
 規則ニ關セスト是人足使役法ヲ主トシテ地方稅規則ヲ客トスルモノナリ議會ハ地方稅規則ノ範圍ヲ
 論據トシテ人足使役法ヲ包括スト謂フ是地方稅規則ヲ主トシテ人足使役法ヲ客トスルモノナリ故ニ縣
 令ニシテ人足使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケサルノ理ヲ辯明セント欲セハ由ルナリ議會ハ之ニ反
 ノ地方稅規則ヲ論窮セサル可ラス要スルニ主客ノ關係ニ關シテハ縣令ハ謂フ地方稅規則第一條第一項
 ハ全ク同一ナリトス故ニ縣令カ獨リ人足使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケサルモノハ等シク是地方稅規則
 フテ未地方稅規則ハ人足使役法ヲ支配スルモノニシテ土地ニ賦課シ金銀ニ徵算シ得ヘキモノハ等シク
 シ夫レ然リ故ニ議會カ縣令カ獨リ人足使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケサルモノハ等シク是地方稅規則
 タル措置ナルコト瞭々トシテ明ナリ依テ前段ノ次第ヲ逐ヒ更ニ進テ其見解ノ當否ヲ辯明セン
 地方稅規則第一條第一項ノ制限ハ荷モノ地方稅規則ニシテ土地ニ賦課シ金銀ニ徵算シ得ヘキモノハ等シク
 白ナリトス若シ夫レ稅品ノ種類ニ由テ此制限ヲ受ケサルモノトセハ該法文詞ハ何品ノ精神ニ據ルモノ
 八地租三分一以內ト記載アルカ又ハ何稅品ハ此制限ヲ受ケサルモノトセハ該法文詞ハ何品ノ精神ニ據ル
 三分一以內ト記載アルカ又ハ何稅品ハ此制限ヲ受ケサルモノトセハ該法文詞ハ何品ノ精神ニ據ルモノ
 法ト謂フヘシ將タ又稅種ノ成立如何ニ由テ此制限ヲ受ケサルモノトセハ該法文詞ハ何品ノ精神ニ據ル
 徒爾ニ屬スルナキヲ得ンヤ抑法文ノ解釋ナキ文詞ヲ附會スル所アル可ラス立法ノ精神ハ空シク施政者ノ爲ニ
 サルハ法文解釋ノ通則ナリ如何ノ記載ナキ文詞ヲ附會スル所アル可ラス立法ノ精神ハ空シク施政者ノ爲ニ
 ル規則ヲ徒法ニ歸セシムルヲ得ンヤ今本縣ノ人足舊慣使役法ハ其稅品ハ勞力ナリ其成立ハ明治十二年
 二月二十七日太政官號外達ニ基キ議會ノ議決ヲ經テ內務卿ノ具申ノ上施行シ來リタルニ至ラント依
 即チ地方稅規則ハ地方稅規則ノ人足使役法ハ明治十二年二月二十七日太政官號外達ニ基キ議會ノ議決
 ンヤ縣令ハ又謂フハ地方稅規則ノ人足使役法ハ明治十二年二月二十七日太政官號外達ニ基キ議會ノ議決
 別ノ成立ナレハ地方稅規則ノ如キ通常規則ノ支配ヲ受ケヘキモノナリ其所以ナリ何トナレハ則チ該法
 政官號外達ニ基キ將タ又稅種ノ成立如何ニ由テ此制限ヲ受ケサルモノトセハ該法文詞ハ何品ノ精神ニ據
 文中號外達第十二項ヲ以テ河港道路堤防橋梁等ニ係ル地方稅及ヒ町村費ノ負擔區分ヲ定メタルモノ
 十二日號外達第十二項ヲ以テ河港道路堤防橋梁等ニ係ル地方稅及ヒ町村費ノ負擔區分ヲ定メタルモノ
 二準據シ難キ分ハ暫ク舊慣ノ負擔區分ニ據置クモ妨ケナシト旨趣ニシテ單ニ地方稅ト町村費トノ負
 擔區分上ノ融通ヲ與ヘタルモノニ過キサルコトハ其文詞及ヒ明治十一年七月二十二日太政官號外達第
 十二項ノ法文ニ徴スルモ寔ニ明白ニシテ毫モ疑ナシト旨趣ニシテ單ニ地方稅ト町村費トノ負擔區分上
 モノハ地方稅規則ノ制限ヲ超過スルモ妨ケナシト旨趣ニシテ毫モ疑ナシト旨趣ニシテ單ニ地方稅ト町村費
 賦課ト同シク制限内ニ屬スヘキ一例アリ他ニアラス本年八月二十五日加之人足物品等ヲ課スルモ皆此制
 八區町村費ノ制限ヲ設ケ地租七分一ヲ超過スヘカラスト規定セテ其物品等ヲ課スルモ皆此制
 内ニ合著セシメラレタルノ制限ハ內務省甲第二十九號達ノ雜形ニ由ツテ明瞭ナリ夫レ地方稅ト町村費ト
 ハ其名目異ナリト雖モ其制限ヲ立ツルノ精神ニ至テハ敢テ異ナルノ理由ナカレバ區町村費ニ於テ既
 ニ地租七分一ノ制限中ニ人足舊慣使役法ハ地方稅規則ノ支配ヲ受ケヘキモノハ等シク是地方稅規則ノ制限外ニ課稅

會本縣ノ人足使役法ノ人足タリトモ其ノ課スルニ於テハ金錢ニ積算シ其部分ナ地租割ヨリ控除セ
 サルヘカラスト附フ所以ナリ縣令又謂ハンカ本縣人足使役法ノ原案タル之ヲ明治十三年度ニ於テ地方
 稅規則ノ制限以外ニ賦課スルノ說明ヲ以テ議會ニ下附シ議會亦之ヲ議決シ而シテ內務卿モ亦默過テ
 レタリ是則テ人足舊慣使役法タル素ト特別ノ成立ニシテ通常地方稅規則ノ支配ヲ受クヘキモノニアラ
 ヲハナリト豈夫然ランヤ施政上ノ法律ハ以テ施政者ノ措置ヲ規定スルノ法典ナリ何ノ施政者ノ措
 置ヲ以テ逆ニ法律ノ範圍ヲ狹隘ナラシメ法律ハ以テ權カ人足舊慣使役法ニ就キ制限外ノ議案ヲ下附シ
 ハ施政者ヲ規シ内務卿之ヲ默過シテ間ハサリシハ皆是施政者ノ一措置ノミ施政者ノ措置ハ固ヨリ法
 議會ノ議決ハサルヘカラス明治十三年度ニ於テハ之ニ從ハス之カ制限ヲ超越シタルハ偶々何レ法律
 ノ規定ニ悞ハサルヘカラスニシテ將ニ法律ノ矯正ヲ受ケサルヘカラスヤト越シタルハ偶々何レ法律
 ノ矯正セサルヘカラスニシテ將ニ法律ノ矯正ヲ受ケサルヘカラスヤト越シタルハ偶々何レ法律
 ノ矯正セサルヘカラスニシテ將ニ法律ノ矯正ヲ受ケサルヘカラスヤト越シタルハ偶々何レ法律
 シテ尙ホ今日ニ施行スルモノ固ヨリ其宜シキヲ得タリ唯人足課額ノ點ニ於テ地方稅規則ノ制限ヲ超過
 セシカ爲會マ規則ト相抵觸スルニ至リシハ即チ成立ノ事蹟ニ拘泥シテ地方稅規則ノ制限ヲ超過
 法トナシ正ナルニ如カサルナリ縣令ハ則チ人足舊慣使役法ハ何等ノ稅目ニ屬スルヤ國稅ニ屬センカ將
 スノ方且正ナルニ如カサルナリ縣令ハ則チ人足舊慣使役法ハ何等ノ稅目ニ屬スルヤ國稅ニ屬センカ將
 之ヲ支配スルノ謂ハレナシト然ラハ則チ人足舊慣使役法ハ何等ノ稅目ニ屬スルヤ國稅ニ屬センカ將
 區町村費ニ屬センカ殆ンシト然ラハ則チ人足舊慣使役法ハ何等ノ稅目ニ屬スルヤ國稅ニ屬センカ將
 キ工事ニ使役スルモノニシテ地方人足負擔セシムルモノハ悉ク地方稅ニ出テサレハナシ該人足部分
 第一證ナリ凡ソ縣令ニシテ地方人足負擔セシムルモノハ悉ク地方稅ニ出テサレハナシ該人足部分
 縣令カ地方ニ向テ負擔セシメタル所ノ勞力ナリ縣令ニシテ地方人足負擔セシムルモノハ悉ク地方稅
 部分カ地方ニ向テ負擔セシメタル所ノ勞力ナリ縣令ニシテ地方人足負擔セシムルモノハ悉ク地方稅
 月二十七日太政官號外達ニ由テ縣令ノ議決ヲ要スルモノハ總テ地方稅ナリ該人足使役法タルハ又
 課シテ地方稅ノ部分ヲ負擔セシメタル所ノ勞力ナリ縣令ニシテ地方人足負擔セシムルモノハ悉ク地方稅
 舊慣使役法ハ地方稅ノ部分ニテ負擔セシムルモノハ總テ地方稅ナリ該人足使役法タルハ又
 リ取テサレハ地方稅ノ部分ニテ負擔セシムルモノハ總テ地方稅ナリ該人足使役法タルハ又
 上來論述スルカ如ク本件ハ縣令ト議會ト見解ヲ異ニシタルヤ明白ナリト是議會カ裁定ヲ仰グノ止ム
 ナ得サル所以ナリ

縣令ノ答辯
 宮城縣會ハ縣令ト法律ノ見解ヲ異ニスト謂フノ故ヲ以テカ裁定ヲ仰グノ具狀書ヲ出セリ然ルニ其書
 中ニ所謂縣令カ法文ニ向テ解釋セリトナスカ如キハ縣令カ解釋スル所ニアラサレバ以テ縣令ハ法律ノ
 成文ニ向ヒ解釋スル所ト本縣土木人足舊慣使役法ノ成立シタル所以トナシ左ニ辯明シ之カ答辯ニ供セン

種地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費途ニ充ツヘキ金員ニシテ苟モ地方稅トシテ土地ニ賦課シ徵收スヘキモノ
 ハ地方稅規則第一條第一項ノ制限ニ於テ本縣土木人足舊慣使役法ト設ケ之ヲ縣會ニ附スルニ方リ縣令ハ其議案
 リトス故ニ去ル十三年度ニ於テ本縣土木人足舊慣使役法ト設ケ之ヲ縣會ニ附スルニ方リ縣令ハ其議案
 ニ就キ地方稅得ナルモノハ戶數割ナリ外皆其制限アリテ當時ノ規則ニ據ルニ方リ縣令ハ其議案
 課正夫ノ徵シテ使役スルノ舊慣アルモノハ己ニ地方稅規則ニ據ルニ方リ縣令ハ其議案
 稅ノ凡ソ地方稅ノ支辨ニ屬スルモノハ一切之ヲ統括スレリ云云ト說明セリ是他ナシ地方稅規則ニ據ルニ方
 性質荷モ地方稅ニ屬スヘキモノハ一切之ヲ統括スレリ云云ト說明セリ是他ナシ地方稅規則ニ據ルニ方
 合カ地方稅規則ノ法文ニ向テ解釋スル所ハ右ノ外ニ出テサルモノハ一切之ヲ統括スレリ云云ト說明セリ
 蓋シ本縣ノ地タルハ他民情自ラ他府縣ト異ナル所アルヲ以テ土木工事ニ要スル人足ノ如キハ到底地方
 稅規則ニ據ルヘカラスハ其性情自ラ他府縣ト異ナル所アルヲ以テ土木工事ニ要スル人足ノ如キハ到底地方
 港道路堤防等ノ如キハ其性情自ラ他府縣ト異ナル所アルヲ以テ土木工事ニ要スル人足ノ如キハ到底地方
 ナルヲ以テ且ク之ヲ措キ假リニ地方稅ニ支辨スルモノハ一切之ヲ統括スレリ云云ト說明セリ是他ナシ地方稅規則ニ據ルニ方
 以前ニ於テ河港道路堤防橋梁等ノ工事アルニテ支辨スルモノハ一切之ヲ統括スレリ云云ト說明セリ是他ナシ地方稅規則ニ據ルニ方
 十九人六分ニシテ此内郡村ニテ爲スヘキ約定期限用悪水等春秋兩度ノ修繕ニ係ル人足二十四萬三千二
 百三十九人九分ニシテ此内郡村ニテ爲スヘキ約定期限用悪水等春秋兩度ノ修繕ニ係ル人足二十四萬三千二
 シ之ヲ金員ニ積算スルノ人足頗ル減省スルニ至ルモ今後猶ホ二十四萬人餘ヲ下ラサルヘカラス然ルニ地方稅
 理シテ使役スル所ノ人足頗ル減省スルニ至ルモ今後猶ホ二十四萬人餘ヲ下ラサルヘカラス然ルニ地方稅
 規則ナルモノハ前段ニ述フル如ク戶數割ナリ外皆其制限アリテ當時ノ規則ニ據ルニ方リ縣令ハ其議案
 爲スヘキ費途ニ充ツヘキ金員ニシテ苟モ地方稅トシテ土地ニ賦課シ徵收スヘキモノ
 トキハ其弊齒ニ細民ヲシテ其負擔ノ重キニ至ルハ固ヨリ當然ノ理ニシテ亦以テ實際上見做スヘカラス
 其進路ヲ遮キシム漸次退縮ノ兆ヲ現ハスニ至ルハ固ヨリ當然ノ理ニシテ亦以テ實際上見做スヘカラス
 ノ支辨ニ屬セシム能ハサルノ一斑ヲ知ルニ足ルハ固ヨリ當然ノ理ニシテ亦以テ實際上見做スヘカラス
 ルモノアルニ於テオヤ於ハ去ル十三年度ニ於テ正夫使役タル未全ク地方稅ト見做スヘカラス
 務省ノ認可ヲ得テ之カ特別ノ法ヲ設ケタリ即チ之ヲ本縣現行ノ土木人足舊慣使役法ナリトシ以テ施行
 地方稅規則ニ於テハ地方稅規則第一條第一項ニ據ルニ方リ縣令ハ其議案
 スルヲ得ヘシ地方稅規則ニ於テハ地方稅規則第一條第一項ニ據ルニ方リ縣令ハ其議案
 處分ヲナスコトヲ得ス內務卿指令ニ據ル地方稅ハ縣下一般ニ賦課スルヲ例トスレトモ此法ハ水利土功

租税門 地方税

二百六

ノ工事アル場合ニ於テ其地元町村ニ限リ其工事ニ要スル的人足ヲ使役スルヲ例トセリ是其地方税規
 則ニ據ル能ハサシテ其規則ノ外ニ設ケタル特別法タルノ例證ナリトス
 以上陳述スルカ如ク縣令ハ法律ノ成立シタル所
 以テ其辯明スルカハ土木人足之使役法ハ地方税規則第一條第一項ノ法文ニ對シテ其關係ノ如何ヲ
 論スヘキモノニアラサルノ理ハ瞭然トシタルモ其第一條第一項ノ法文ニ對シテ其關係ノ如何ヲ
 々實際ト認ルシ或ハ全ク其誤解ニ出テタルモノナリト見認ムルモ亦從テ自ラ判然タルモノアラム依テ只其
 シテ已ニ明ナル以上ハ是等ノ事實ハ別ニ論辯ヲ費ヤサハルモ亦從テ自ラ判然タルモノアラム依テ只其
 大體ニ關スル意見ヲ具シ併セテ之カ答辯ニ供ス

本件縣令ト縣會ト法律ノ見解ヲ異ニスル要點ハ人足舊使役法ニ依リ賦課スル人足ハ地方税規則ノ範
 圍内ナルヤ否ニ在リ依テ審案スルニ縣會ハ本縣ニ於テ現行スル所ノ人足舊使役法ハ明治十三年度縣
 會ノ議決ヲ經テ地方税規則第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方
 税規則ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方税規則ノ第一條第一項
 ニ關スル慣行ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方税規則ノ第一條
 行スルモノ係リ即チ本縣限リ設ケタル一種ノ課役ノ外各其制限アリテ現ニ興スルハ當時縣令ノ議決
 會ニ付シタル議案ニ地方税規則ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方
 ス費スヘキ金額ヲ費スルノ状況ナレハ之ヲ地方税規則ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖
 亦此ニ依テ之ヲ議決セリ該人足ハ明令ナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方税規則ノ第一條
 稅負擔ノ工事ニ使役セリ該人足ハ明令ナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方税規則ノ第一條
 使役シ來ルハ地方税規則ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂フト雖モ該使役法ハ縣令ハ地方
 ナレハ其工事ニ關係ノ町村ニ限リ人足賦課シ地方税規則ノ第一條第一項ノ内務部ノモリナリト謂
 地方税規則ノ範圍内ノモノニアラス

判決
 右ノ理由ニ依リ人足舊使役法ハ縣令カ地方税規則外ノモノナリト爲セシハ法律ノ見解ヲ誤リタルモ
 ノニアラス
 明治十九年二月六日

- 審理委員長 山尾庸三
- 審理委員 馬屋原彰
- 審理委員 平田東助
- 審理委員 岸本辰雄
- 審理委員 水野遊
- 審理委員 蒲生仙
- 審理委員 男谷忠友

富山縣稅務課稅二關スル
法制局裁定書

法制局裁定書

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ明治十八年度營業稅稅種稅ノ件ニ付權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁
 定ヲ仰グノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀
 明治十八年度ノ通常縣會ニ於テ營業稅稅種稅課目課額ノ議案中課別法區別ノ首メニ掲ケタル商業中
 賣小賣雜商工業中製造所職業ノ稅ハ其營業者ノ員數ヲ目安トシ各稅區ニ賦課スルモノトス每稅區内各
 自ノ課額其町村會又ハ聯合町村會ノ評決ニ據ル若シ開會スル不能等ノ事情アルトキハ前年ノ商高
 金高ト別見做スニ依リ箇數ヲ計算シ左ノ區別ヲ以テ賦課スルモノトスト云フノ一項ハ縣會之ヲ可決シ
 左ノ區別ハ縣令之ヲ認可シ而シテ本年五月甲第二十八號ヲ以テ管内ニ布達セリ然ハ則チ其項ノ若シ
 下則チ後段ノ場合ヲ除クノ外ハ各町村會又ハ各聯合町村會ニ於テ適宜ヲ以テ地方稅營業取扱順序ナルモ
 タルハ決シテ疑ナ容レサル所ナリ然レ各縣令ハ前年中商高ヲ取調ヘ左表ニ照シテ箇數ヲ計算シ之
 ノヲ達シ其中ニ議案調理方ハ各稅區内各營業者ノ前年中商高ノ箇數ニ依テ編製シタル議案ヲ發シ以テ町村會
 ニ依テ毎戶長所轄ノ當額或ハ各自ノ課額ヲ算出スヘシト云フノ條ヲ載セシニ付郡長戶長ハ町村會ヲサ
 ルノ主旨ヲ以テ指合セリ是ヲ以テ各戶長ハ盡ク商高ノ箇數ニ依テ編製シタル議案ヲ發シ以テ町村會
 テ檢東シ此箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカラントスル者アレハ輒チ前
 ノ乙號達又ハ何指合ヲ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカラントスル者アレハ輒チ前
 強テ此箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカラントスル者アレハ輒チ前
 九年令ハ縣會ノ議決ヲ破リタルヲ明知セシト雖府縣會ハ結合體ノ者ナルカ故ニ今回ノ議決ヲ依テ必
 金高ノ箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカラントスル者アレハ輒チ前
 リシヤ否ヲ質セシニ縣令代理人ハ其箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカ
 九年度ノ通常縣會ヲ待テ始メテ之ヲ質セシト雖府縣會ハ結合體ノ者ナルカ故ニ今回ノ議決ヲ依テ必
 金高ノ箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカラントスル者アレハ輒チ前
 リシヤ否ヲ質セシニ縣令代理人ハ其箇數ニ依テ示シ之ニ違フタル評決ハ無効ナルカ故ニ施行スヘカ

租税門 地方税

二百七

審理委員 牧野伸顯
 審理委員 廣橋賢光
 審理委員 小池靖一
 審理委員 法制局參事官
 審理委員 法制局參事官

布告 四年五月二十四日

今般東京府下道路修繕ニ付商賈所用大小ノ車取入賃銀百分ノ三ヲ以テ右入費ヘ爲差出候間在府ノ諸官員及ヒ華族士族卒タリ共馬車人力車所持致シ候者右定額ニ準シ入費可差出事
 但左ノ雛形ノ通相認來ル六月五日限東京府ヘ差出シ檢印納銀等ノ儀可承合事

馬車	何輛
但何足立	
人力車	何輛
何車	何輛
右ノ通相用候	
辛未五月	
姓	名

東京府何四年五月日附
 今般府下大道筋修繕差加候ニ付大小ノ荷車馬車人力車ニ至迄取入賃銀百分ノ三ヲ見積リ修道入費ヘ爲差出候儀兼テ何濟ニ有之右趣意ハ道路ヲ損傷致シ候ハ車轍ニ加モノ無之ヨリノ儀ニ候處民間所用ノ車而已修道ノ費用差出官員或ハ華族士族等所用ノ車ハ出銀不致候テハ不都合ニ相見自然民心ノ不服可有之ト存候間在府ノ官員ハ勿論華族士族卒ニ至迄車所持ノ分凡テ當府檢印ヲ受右入費金差出候儀仕度尤此類ハ商用ト違ヒ使用少ナノ儀ニ付商用ノ諸車納銀ニ見較ヘ半方差出方御達有之度存候左ニ御布告案

東京府下二車稅ノ課ス
 六年一月第三十一號布告
 ニ依テテ消滅ス租稅ノ目
 ニ載ス

添此段御何候也
 指令四年五月二十三日
 何ノ通尤モ大道筋ハ道路ニ相改官員所持車ト雖モ商賈同様入費可取立事
 東京府上申四年五月十八日
 先般御何仕候官員其外馬車人力車出銀ノ儀篤ト勘考致候處士民ノ別相立候テハ御體裁ニ相調ケ候儀モ有之歟ニ候條別紙割合ノ通士民一般取立候方可然歟且右出銀ノ儀道路修繕入費ト相唱候ヨリハ馬車人力車稅ト規則相立候方可然候ヘ共一體當府下ニ於テ諸稅等取立一般ノ規則嚴正ニ相立度儀ハ素ヨリ見込モ有之當時取調中ノ處近時俄ニ馬車人力車等流行致候譯ヲ以俄ニ右馬車人力車丈ケハ稅則相立候テハ却テ於御體裁モ如何ニ可有之哉且稅則ト申セハ御國內一般ニ被行候通り無之テハ不相叶處當府下并神奈川縣ニ於テハ右馬車人力車等致流行候譯ヲ以前文ノ通稅則モ相立可申歟ニ候ヘ其他ノ地方官ニ於テハ近來共漸ク致流行掛リ候處右府下ノ稅則ヲ以推及シ候テハ却テ難被行情實モ有之依テ當府見込ニテハ今暫ノ處ハ道路營繕入費トシテ出銀取立他日諸稅則御一定ノ上ニハ右ヲ稅則ニ御取直シ相成候テモ決テ苦情モ有之間敷ト存候間先當分見込ノ通至急御沙汰有之度此段申上置候也

東京府布達 四年五月二十五日

諸車賃銀取入高ノ内三釐道分道路修繕入費ヘ上納方ニ付當二月中稼高書上候處一區ニテ格外ノ不同モ相見且ハ店車ニテ稼高ノ見据無之分モ有之不都合ニ付夫平均致シ別紙ノ通リ上納高相定候間同月分ヨリ右定高ヲ以テ每月取立一區限出納局ヘ可相納
 但此末變遷モ可有之候間六箇月モ相立候ハ、平均高相改候事

- 大七車三釐道平均
- 三十四番組ノ内
- 龍關橋最寄
- 右銀十匁
- 二十六番組
- 三十五番組内
- 和泉橋最寄
- 二十七番組
- 三十二番組
- 右銀七匁宛
- 八番組
- 十四番組ノ内

東京府車稅上納高ヲ定ム
 六年七月東京府地第八十九號達ニ依リテ相成ス

右銀六匁宛
 五番組
 十番組ノ内
 築地最寄
 二十三番組ノ内
 麴町
 三十七番組
 三十八番組
 右銀四匁ッ
 二番組
 十番組ノ内
 南八丁堀
 十二三番組ノ内
 數寄屋河岸最寄
 神明前最寄
 十六番組
 二十番組
 三十番組
 三十九番組
 四十三番組

汝留芝口最寄
 二十二番組
 三十一番組
 三十四番組ノ内
 内神田
 四十一番組
 地方一番組
 右銀五匁宛
 四番組

鐵砲洲最寄
 十四番組ノ内
 源助町邊
 十五番組
 十八番組
 二十四番組
 三十六番組
 四十番組
 地方三番組

右銀三匁宛
 一番組
 三番組
 九番組
 十二三番組ノ内
 三十間堀最寄
 虎御門外最寄
 二十五番組
 三十三番組
 地方二番組
 右銀二匁宛
 十七番組
 四十四番組
 四十六番組
 右銀一匁宛
 十九番組
 地方四番組
 同三番組ノ内
 新堀村

六番組
 七番組
 十一番組
 十四番組ノ内
 櫻田久保町邊
 二十三番組ノ内
 元飯田町
 二十九番組
 三十五番組ノ内
 東神田

二十八番組
 四十五番組
 四十七番組
 四十二番組
 同五番組

右銀五匁宛
 人力車三厘道平均
 十一番組ノ内
 新島原
 右銀二十五匁
 四十六番組
 五十番組
 右銀十二匁宛
 虎御門外最寄
 三十七番組
 右銀九匁宛
 七番組
 十七番組
 右銀八匁宛
 十番組ノ内
 南八丁堀最寄
 鐵砲洲最寄
 十三番組
 二十七番組
 三十八番組
 四十八番組

二十二番組
 右銀十三匁
 十四番組ノ内
 櫻田久保町邊
 二十四番組
 十五番組
 三十一番組
 十二番組
 十九番組
 三十三番組
 四十一番組ノ内
 淺草通

右銀七匁宛
 五番組
 二十一番組
 二十六番組
 三十六番組
 四十三番組
 右銀六匁宛
 一番組
 三番組
 九番組

十六番組
 三十番組
 三十九番組
 四十九番組
 右銀五匁宛
 四番組
 二十番組

八番組
 二十三番組
 三十二番組
 四十二番組

二番組
 六番組
 十四番組ノ内
 源助町最寄
 神明町最寄
 二十九番組
 三十四番組
 四十番組

十四番組ノ内
 汐留最寄
 芝口最寄
 二十五番組

二十八番組	三十五番組
地方四番組	
右銀四匁宛	
十八番組	四十一番組ノ内
地方三番組	淺草裏手
右銀三匁宛	同一番組
十番組ノ内	
築地最寄	
右銀二匁	四十七番組
外	右銀一匁
銀八匁宛	十五番組ノ内
同三匁宛	芝會社ノ分
銀四匁宛	人力車
同五分宛	十八番組ノ内
	牛車
	十番組三十番組ノ内
	自轉車
	組組店ニテ相用候
	小車

東京府四宿口町村在來ノ諸車稅金上納
 六年七月東京府地第八十九號達ニ依テ消滅ス

東京府達 第三十四號品川口内藤新宿口千住口板橋口町村正副戸長

右四宿口町村是迄在來之人力車并大小諸荷車及農車等ノ儀當府改之上燒印押遣候分ハ向後道路修繕入費トシテ別紙之通上納可致事但別紙ハ辛未五月改定ナリ

上納金定

一府下道路修繕ニ付商賈所用大小之車取入賃銀高百分之三ヲ以右入費爲差出候ニ付在府之諸官員及華族士族共馬車人力車所持之者ハ同様可差出旨被 仰出候ニ付納方割合左之通

一二匹立馬車 一輛ニ付	金二十五兩
此一箇年	金二兩永八十三文三分
一一匹立馬車 同斷	同斷
此一箇年	金十二兩二分
此一箇月	金二兩永四十一文六分
一人力車 一輛ニ付 但自轉車準之	金一兩二分永百文
此一箇年	永百三十三文三分
此一箇月	永百三十三文三分
一荷車 第八 第七 第六 一輛ニ付	銀四十八文目
此一箇年	銀四十八文目
此一箇月	銀四文目
一小車 西洋形等 一輛ニ付	銀六文目
此一箇年	銀六文目
此一箇月	銀五分

右之通上納可致事

東京府達 五年九月日

府下劇場之儀三芝居之外是迄無稅興行致シ來候處今般稅銀相定免許鑑札可相渡候條是迄興行致シ來候者ト雖モ更ニ願出可申事 但自今免許無之モノハ興行不相成事

東京府達 五年十月二十八日

一府下劇場之儀此程納稅相達候ニ付テハ寄セ席其外別紙ノ通今般稅銀相定免許鑑札可相渡候條是迄渡世致シ來候モノト雖モ更ニ願出可申事 但自今免許無之モノハ渡世不相成候事

別紙

寄セ渡世

楊弓場

一新規免許願受候モノハ一軒ニ付金二圓ヲ納次年ヨリハ年年半高ツツ納ムヘシ 但是迄願濟ノ分ハ半高ヲ納ムヘシ

一月稅

一軒ニ付五十錢ヲ納ムヘシ

借馬渡世

一新規免許願受候モノハ一軒ニ付金二圓ヲ納ムヘシ 但是迄免許ノ分ハ半高ヲ納ムヘシ

一月稅

貸馬一疋ニ付五十錢ヲ納ムヘシ

相撲曲馬見セ物

一日稅

木戸錢上リ高ノ百分ノ二ヲ納ムヘシ尤興行ノ日數ニ限ルヘシ

東京府達 五年十一月五日

一鄉村之街道筋車通行相増就テハ損方甚敷候ニ付自今車稅ヲ以致修繕及不足候節ハ其村高割出金可申付候條兼テ御布告之通民力ヲ以無油斷可加補理候也

鄉村中車數四千三百四十三輛

此車稅一箇月金二百三十一兩三分

右之趣鄉村中無洩可觸知モノ也

東京府布達 六年一月十四日

劇場并寄セ渡世楊弓場借馬渡世ノ者去申年鑑札相渡候分免許願出候次年ヨリノ稅銀當月二十五日限リ上納可致事 右ノ趣其渡世ノ者ハ無洩可相達候

東京府達 六年一月十八日

市在鄉村社祠官祠掌給時時増減モ可有之候得共先以一箇年大凡金高左ノ通ニ候條管内一般戶數ニ割合年年一月四月七月十月共二十日限リ取集メ無遲引當府出納掛ヘ可相納候事

東京府劇場ニ免許鑑札ヲ付シ稅銀ヲ徴ス

十二年六月東京府第五十七號布達ニ依テ徴減ス 六年一月東京府第二號布達ヲ以テ徵收期限ヲ定ム

東京府各七渡世楊弓場等ニ稅銀ヲ課ス

十二年六月東京府第五十七號布達ニ依テ徴減ス 六年一月東京府第二號ヲ以テ徵收期限ヲ定ム

東京府鄉村車稅ヲ徴ス

六年七月東京府達第八十九號ニ依テ徴減ス

東京府劇場等稅銀徵收期限

九年四月東京府第十三號布達ヲ以テ改ム

東京府鄉村社祠官祠掌給ノ稅給付日數ニ關シテ 六年二月第六十七號布達ヲ以テ氏數ニ課スルヲ廢ス

一金六千四百兩餘
 右ハ祠官祠掌一箇年月給總合高
 一金六百十一兩餘
 右ハ壬申十一月中祠官祠掌へ月給繰替相渡候分
 右之通り市在區區無洩可觸知モノ也

東京府達節録 六年二月七日

(全文ハ學制門
 學政總ニ載ス)

太政官壬申第二百十四號御布告ノ御旨趣ニ基キ此度小學起立ノ方法相定候間條則ニ照準シ府下每區ニ
 一小學ヲ建幼童之子弟ハ男女ノ別ナク一般ニ從學セシメ候様致シ度事ニ候尤本文被仰出之通學間ハ其
 身ノ財本ヲ貯ヘ産ヲ治メ生ヲ遂ルノ基タルヘキヲ以テ學事ニ關スル費用ハ其區毎ノ民費タルヘキハ勿
 論ニ候得共開學ノ始ニ付當分學區御扶助ノ爲メ人頭九釐之割ヲ以官金下賜候間區區申合便宜ニ從ヒ學
 舎ヲ取建子弟ヲシテ必ス學ニ就カシメ候様可致事

第十二條

每校ノ月費大略五十圓トシ内十分ノ一ハ扶助金ヲ下シ又十分ノ一ハ積金ノ利子ヲ與ヘ餘ハ民費トス
 但民費ノ出ル所ハ每區ノ事情ニ依リ不同アルヘシ

第十四條

女學ハ別ニ可相設處當分民費相嵩ニ付每校ノ内別席相設可申事

東京府達 六年二月七日

今般僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等諸税施行被仰出候條別紙規則之通云云

第二條ノ内

東京府道橋梁修復ノ
 爲メ徵收ノ車稅月納
 存ム
 六年七月東京府達第八十
 九號達ヲ以テ車稅徵收方
 ヲ定ム

第六則

一 荷物運送ノ爲メ相用ヒ候馬車大八車牛車小車等ハ此稅則ニ不入事
 但府縣廳限リ道路橋梁修復等ノ爲メ取立候儀ハ此限ニアラス
 別紙ノ通被仰出候ニ付テハ第二條之内第六則但書道路橋梁修繕入費之儀ハ追テ可相達儀モ可有之ニ付
 是迄納來候諸車稅月納之分ハ見合可申可相心得事

東京府達 六年三月三日

地第三十四號各區戶長

郷村社祠官祠掌給出銀方ノ儀去ル一月中布達ニテヨビ置候處今般民費課出ノ儀被廢候ニ付テハ昨壬申
 五月ヨリ當二月迄ノ給料當府ニ於テ繰替渡置候左ノ金高ハ來ル三月二十日限リ取集メ出納本課へ可相
 納候事
 別紙

繰替金高

壬申五月分 祠掌六人
 一金十八圓

但一人ニ付金三圓ツ、

同六月分 同

同七月分

同 同
 但同斷
 一金十八圓
 但同斷

東京府郷村社祠官祠掌
 ノ際給收納方

同八月分	一金二十六圓	但祠官一人金四圓ツ、詞掌六人	祠官四人 但半月分
内	八圓祠官分		
内	十八圓祠掌分		
同九月份	一金三十四圓		祠官四人 祠掌六人
内	十六圓祠官分		
内	十八圓祠掌分		
同十月份	一金百十七圓五十錢		祠官十七人 内六人半月分
内	五十六圓祠官分		祠掌二十八人 内十五人半月分
内	六十一圓五十錢祠掌分		
同十一月分	一金四百六圓五十錢		祠官十八人 内六人半月分
内	六十圓祠官分		祠掌百二十五人 内三十九人半月分
内	三百四十六圓五十錢祠掌分		
明治六年癸酉一月分	一金四百八十六圓		祠官十八人 祠掌百三十八人

東京府收税及諸受拂表

七十二圓祠官分
 四百十四圓祠掌分
 同二月份
 一金四百八十五圓
 祠官十七人 祠掌百三十九人

内
 六十八圓祠官分
 四百十七圓祠掌分
 ×千六百九圓

東京府達 第六年三月二十三日
 第三十六號 各區戶長
 一府下收税及諸受拂是迄活版摺ヲ以テ布達致來候處自今別紙略表ヲ以テ每月觸示候條爲心得區區無洩可相達事表畧ス

東京府車稅徵收方
 九年三月東京府第五十二號達ニ依テ稍減ス

東京府達 第六年七月七日
 第八十九號 區區戶長
 皇族ヲ除ク之外華士族平民ニ至ル迄自用又ハ營業ニ相用ヒ候諸車之儀先般布達及ヒ候大藏省規則定額税金之外道路橋梁修繕入費トシテ當七月ヨリ左ノ通區區戶長ニ於テ取集メ前半年分ハ其年八月後半半分ハ翌年三月限リ銘細帳相添出納本課ヘ可相納事

道路橋梁修繕入費金
 自分用之分
 一馬車 四輪以上二疋立 一輛
 一箇年 金 五 圓
 一馬車 四輪以上一疋立 一輛

一箇年	一馬車三輪以下二疋立	金四圓
一箇年	一馬車三輪以下一疋立	金三圓
一箇年	一人力車四輪以上	金二圓
一箇年	一人力車三輪以下二人乘	金二圓五十錢
一箇年	一人力車三輪以下一人乘	金一圓
一箇年	一自轉車	金一圓
但人力車三輪以下一人乘二準		
渡世用之分		
一箇年	一馬車四輪以上二疋立	金二圓五十錢
一箇年	一馬車四輪以上一疋立	金二圓
一箇年	一馬車三輪以下二疋立	金一圓五十錢

一箇年	一馬車三輪以下一匹立	金一圓
一箇年	一人力車四輪以上	金一圓
一箇年	一人力車三輪以下二人乘	金七十五錢
一箇年	一人力車三輪以下一人乘	金五十錢
一箇年	一荷馬車三輪以下二匹立	金一圓五十錢
但渡世馬車ノ三輪以下二疋立三準		
一箇年	一同 三輪以下一疋立	金一圓
但渡世馬車三輪以下一疋立三準		
一箇年	一牛車	金一圓五十錢
但渡世馬車三輪以下二疋立三準		
一箇年	一六七 荷車	金一圓
一箇年	一六八 荷車	金一圓
但渡世人力車四輪以上三準		
一箇年	一中車 大六以下荷車	一輛

東京府買渡世ノ者稅金
規例
九年五月東京府甲第二十五號ヲ以テ改正ス
九年四月東京府甲第十三號布達ヲ參看スヘシ

一箇年 金七十五錢
但渡世人力車二人乘ニ準
一小車 西洋形等 一輛 金二十五錢
一箇年 但渡世人力車一人乘ノ半高 一輛
一農車 右ハ農業所用之儀ニ付都テ渡世車ノ半高 一輛
內
大七 荷車 一輛 金五十錢
大八 荷車 一輛
中車 一輛 金三十七錢五釐
一箇年
右之通ニ候事
右之通市在區區無洩可觸知者也

東京府達 六年十二月七日 第四十四號市在區區戶長
當春以來兎買賣之儀ニ付テハ度々告諭イタシ置候處未相止左之上稅申付ル間區區無洩所持人名取調月二十五日限り集金可相納此旨相達候事
一兎買賣候者ハ雙方ヨリ其區區所へ増減可届出事
一區區扱所ニ於テハ姓名無遺漏記載イタシオキ月月稅金可取立事
一兎一羽ニ付月月金一圓ツツ可相納事

東京府買渡世ノ者稅金
規例
十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ消滅ス
八年七月東京府第三十四號布達ヲ以テ賦金納期ヲ改メ
九年十月東京府乙第六十五號布達ヲ參看スヘシ
十一年二月東京府甲第五號布達ヲ以テ免稅稅ト改稱ス
七年九月東京府第二十五號布達ヲ以テ但書ヲ取消ス

一無届ニテ所持候者有之節ハ一羽ニ付金二圓過意可申付事
一多人數集會競賣候儀ハ是迄之通一切不相成候事
右之通可相心得候事

東京府届 六年十二月七日
兎買賣ノ儀ニ付テハ當春以來度々告諭相達置候未今日ニ至リ候テモ實買不相止哉ニ相聞終ニハ家業衰微ノ基トモ可相成懸念候ニ付警察寮へ協議及ヒ候處高稅ヲ以相制候ハ、自然畜養不相増方ト見込候間別紙ノ通布達取計申候尤稅金ノ儀ハ先般被設候府下養育院費用ニ充テ候様可致ト存候此段御届申上候也

東京府達 七年九月二十五日 第二十四號市在區區區長戶長
當府下買渡世之者從前市在之區域ヲ以稅金有無不一定不都合ニ付今般左之通買物取金高ニ應シ來ル明治八年一月ヨリ施行致シ上稅可申付間營業之者へ無洩可相達候事
但鑑札料ハ本人ヨリ直ニ相納正租賦金ハ各小區戶長ニ於テ取纏年年六月十二月兩度ニ可相納事
免許鑑札料 金 五圓
但シ次年ヨリ金二圓五十錢宛可相納事
稅金一箇年割合
實取金高百圓ニ充サル迄
同百圓以上千圓ニ充サル迄
同千圓以上五千圓ニ充サル迄
同五千圓以上一萬圓ニ充サル迄
同一萬圓以上二萬圓ニ充サル迄
同二萬圓以上三萬圓ニ充サル迄

賦正租金	二十五錢
賦正租金	五十錢
賦正租金	三十五錢
賦正租金	四十五錢
賦正租金	五十五錢
賦正租金	六十五錢
賦正租金	七十五錢
賦正租金	八十五錢
賦正租金	九十五錢
賦正租金	十圓
賦正租金	十一圓
賦正租金	十二圓
賦正租金	十三圓
賦正租金	十四圓
賦正租金	十五圓
賦正租金	十六圓
賦正租金	十七圓
賦正租金	十八圓
賦正租金	十九圓
賦正租金	二十圓

同三萬圓以上五萬圓ニ充サル迄
以上資取金高増加スル増税ハ無之事

正租三十圓
賦金二十圓

東京府達 七年九月二十九日
第二十五號市在各區區長戸長

質屋渡世上税之儀第二十四號ヲ以相達候處鑑札料但書次年之分半數上納之儀ハ取消候條其筋渡世之者
へ無洩更ニ可相達事

東京府達 七年九月三十日
第二十六號市在各區區長戸長

旅人宿渡世規則之義去六年十二月當府第四百四十三號ヲ以相達置候ニ付テハ右渡世相營鑑札願請候者來
八年ヨリ右鑑札料年年金三圓宛可相納允外渡世ニテ宿泊ヲ兼業致シ候者モ同様可相心得事
但無鑑札營業ハ勿論貸座敷渡世ニ紛敷所業イタシ規則ニ背キ候者ハ屹度所置可申付條心得違無之様
可致事

右之趣市在各區旅人宿渡世并兼業之者共へ無洩可相達候事

東京府達 八年一月八日
第二號市在各區區長戸長

俳優人ヲ始別紙營業之者本年ヨリ賦金上納申付候間各區限リ無遺漏人員取調集金之末月月二十五日出
納課へ可相納此旨相達候事

一俳優人

上等一人ニ付月月

金 五 圓

中等一人ニ付月月

金 二圓五十錢

下等一人ニ付月月

金 一 圓

一劇場茶屋

東京府質屋世鑑札料但書取消

東京府旅人宿渡世鑑札料上納

十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ酌減ス
第四百四十三號達ハ警察門行政警察ニ職ス
九年四月東京府乙第十三號達ヲ以テ徵收方ヲ改ム
十一年二月東京府甲第五號布達ヲ以テ鑑札料ノ營業稅ト改稱ス

東京府俳優劇場茶屋等賦金上納セシム

十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ酌減ス
九年四月東京府甲第十三號布達ヲ參看スヘシ

九年十二月東京府達甲第四百四十七號ヲ以テ劇場茶屋稅ヲ改ム

八年五月東京府第二十二號達ヲ參看スヘシ

東京府質屋世外六廉ノ鑑札改正ス

- 一 月月金一圓
- 一 吉原根津并四宿茶屋
- 一 月月金一圓五十錢
- 一 市街待合茶屋
- 一 月月金五十錢
- 一 音曲諸藝師
- 一 月月金五十錢
- 一 軍談并義太夫其外寄セ出稼之者
- 一 上等一人ニ付月月金五十錢
- 一 下等一人ニ付月月金二十五錢

右之通候事

東京府達 八年三月二十日
第四號市在各區區長戸長

諸商業免許鑑札ノ内別紙七廉ノ分今般改製相渡候ニ付テハ是迄渡置候鑑札來ル七月三十一日迄ノ内持
參引換候様此旨營業ノ者へ無洩可相達候事

別紙

一 質渡世鑑札

但此一廉ハ今般新規可相渡分

一 旅人宿鑑札

一 貸座敷鑑札

一 雇人請宿鑑札

- 一 寄七席鑑札
- 一 楊弓場鑑札
- 一 牛乳鑑札
- 一 七廉

東京府内ニ限リ音曲
授業ノ賦金ヲ免ス

東京府達 八年五月三日
音曲諸藝師賦金上納申付候旨本年一月中相達置候處盲人ニテ自宅ニ子弟ヲ集メ音曲授業ノ分ハ賦金免
除候間此旨相達候事
但諸寄席へ出稼候者ハ此限ニアラス

買渡世賦金納方期限改
定

十二年六月東京府甲第七
十六號布達ニ依テ納賦ス
九年四月東京府甲第十三
號布達ニ依テ納賦ス
九年十月東京府乙第六十
五號達ヲ參看スヘシ

東京府廳修繕費納方

東京府布達 九年二月二十日
府廳修繕費明治八年七月ヨリ同十二月迄繰替仕拂置候分別紙調書ノ通ニ候條例規之通地券金高工賦課
シ各區取纏來ル三月十日限出納課エ入收方可取計此旨相達候事
別紙
明治八年七月ヨリ同十二月迄府廳修繕入費

一金八百十三圓三十五錢七釐
但地券金高千三百八萬百六十二圓二錢九釐工賦課ス
地券金高百圓ニ付
金六釐二毛一糸八忽二微餘

東京府酒類請賣問屋ヨ
リ府稅ヲ徵ス

十二年六月東京府甲第五
十七號布達ニ依テ納賦ス
十年八月東京府乙第七十
二號達ヲ以テ稅額ヲ收ム

東京府酒類請賣問屋

東京府達 九年三月十九日
酒類請賣問屋之儀自今左之通府稅徵收候條營業人エ無洩可及告示此旨相達候事
但納稅期限之儀ハ前年分翌年一月二十五日限リト可相心得事
商高百分ノ三

東京府達 九年三月二十二日
是迄諸車ニ賦課致來リ候府稅之儀國稅ヨリ超過ノ分ハ其額ヲ減シ并農車ハ之ヲ差除キ更ニ別紙割合之
通府稅徵收候條此旨布達候事
但納稅期限手續キ等ハ都テ從前之通ト可相心得事
別紙

- 諸車府稅取調書
- 一 馬車ニ疋立以上 一箇年 金三圓
 - 一 同一疋立 同 金二圓
 - 一 荷積馬車 同 金一圓
 - 一 一人力車二人乘リ 同 金二圓
 - 一 同一人乘リ 同 金一圓

一牛車	同	金一圓
一荷積大七八八車	同	金一圓
一荷積中小車但大六以下	同	金五十錢
一自轉車	同	金一圓
一西洋形小車	同	金十三錢

東京府劇場出稼其他諸
藝人等收稅方改正

九年四月東京府第十三
號布達ヲ參看スヘシ

東京府旅人宿鑑札料納
方改正

十二年六月東京府第十五
十七號布達ニ依テ増減ス

東京府稅收納期限改正

十二年六月東京府第十五
十七號布達ニ依テ増減ス

九年五月東京府第十六
號布達ヲ以テ第二條ニ但
シテ追加ス

東京府達 九年四月十日
乙第十號區戶長
劇場出稼其他諸藝人藝妓劇場茶屋待合茶屋寄席楊弓場渡世之者收稅之義是迄一箇月中十五日前後ヲ以
區分致來候儀ハ相廢シ本月以降普通月稅ニ改定候條營業人へ無洩可及告示此旨相達候事

東京府達 九年四月十日
乙第十號區戶長

旅人宿鑑札料之儀者一戸ニ付一箇年金三圓宛徵收候處本年一月ヨリ一戸金二十五錢宛月納ニ改定候條
營業之者へ可及告示此旨更ニ相達候事

但納金方之義ハ從前之通各行事ニ於テ相纏翌月二日限り可相納且本年一月ヨリ三月迄之分ハ來ル十
五日迄ニ當府租稅課へ可相納事

東京府布達 九年四月二十七日
甲第十三號

府稅各種之内稅金收納方期限區區ニ有之候ニ付自今左之通改正候條此旨布達候事

第一條 劇場寄席楊弓場免許料ハ區務所へ取纏年年一月三十一日限り府廳へ上納之事

但新規營業鑑札願受候者ハ其都度本人ヨリ直納之事

第二條 質屋取高稅ハ甲年七月ヨリ乙年六月迄ヲ一周年ト定メ半年分宛區務所へ取纏前半年分ハ凡積

ヲ以一月三十一日限上納シ後半分ハ六月三十日ニ至リ取高ヲ計算シ稅額ヲ定メ前半年分ヲ引七月
三十一日限り殘金之分府廳へ上納之事

第三條 寄席楊弓場劇場茶屋待合茶屋藝妓稅ハ月月區務所へ取纏メ翌月三日限り府廳へ上納之事

第四條 劇場相撲諸見セ物等興行稅ハ月月ノ上リ高ヲ計算シ其月限り區務所へ取纏翌月三日限り上納
之事

第五條 床店段賃張稅其月月計算シ以下前同斷

第六條 相撲ノ人頭稅ハ甲年七月ヨリ乙年六月迄ヲ一周年ト定メ半年分ツ、取纏メ前半年分一月三十
一日限り後半分七月三十一日限り府廳へ上納之事

但興行之都合ヲ以前納ハ勝手タルヘキ事

東京府布達 九年五月一日
甲第十六號

本年四月當府甲第十三號達書第二條左之通但書追加候條此旨布達候事
但廢業之者ハ其時時戶長ニ於テ取立上納可致事

東京府布達節錄 九年五月九日
甲第二十五號

明治六年第四百四十四號ヲ以テ免取締之儀相達置候處今般左ノ通改正本月十五日ヨリ施行候條此旨布達
候事

第二條 兎音養之者ハ府稅トシテ一頭ニ付月月五日限り金一圓宛可相納事

東京府達 九年五月十九日
乙第二十二號區戶長

煙草營業人之内卸シ賣及ヒ各府縣ヨリ荷物直買ノモノ自今商ヒ高十分ノ一府稅徵收候條此旨相達候事
但納稅期限之儀ハ前後半年ツツニ區分シ一月ヨリ六月迄之分七月三十日限七月ヨリ十二月迄之分翌

東京府稅收納期限二追
加ス

十二年六月東京府第十五
十七號布達ニ依テ増減ス

東京府稅收納期限改正

十二年六月東京府第十五
十七號布達ヲ以テ廢ス

東京府煙草營業人ヨリ
府稅ヲ改ス

十二年六月東京府第十五
十七號布達ニ依テ増減ス
十年三月東京府乙第二十
六號達ヲ以テ稅額ヲ改ム

東京府賦課金小當ハ繼
忽位止メト爲ス

東京府民費賦課檢査方

十二年三月東京府甲第十
九號布達ヲ以テ十二年七
月ヨリ地方稅ヲ施行スル
ニ依テ消滅ス

年一月三十日限取纏上納候儀ト可相心得且ツ區内營業人名詳細取調當府第三課へ可届出事

東京府達 乙第九年六月十三日 區戶長

各區賦課金小當リノ儀是迄區區相成居候ニ付以來渾テ繼位忽止メト可相心得此旨相達候事

東京府達 第九年六月二十六日 區戶長

民費課賦檢査ノ儀是迄明細帳ヲ以第一課之檢印請來候得共記載方一定不致候間當六月分ヨリ別紙雛形
之通相定候條正副三通ツ、差出可請檢査此旨相達候事 (角ハ朱色)

明治何年何月民費表

第何區何小區

種	類	金	額	前		比
				月	較	
何	何	何	何	何	何	何
何	費	何	圓	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	圓	何	何	何
總	計	何	何	何	何	何
何	何	何	圓	何	何	何

越金何何圓差引

區長之檢印

課金

東京 民費 何何圓
查之 總小間數
一小間當

副本下割印

何何間
何何錢 前月何錢
比較何錢 增減
書記 何

某 ○

計算掛

何 某 ○

戶長

何 某 ○

年月日

東京府知事某殿

區長

何 某 ○

前書之通檢査候處不都合之廉無之候也

右課賦允許候事

年月日 東京府 民費檢査之章

檢査主任

第一課長 東京府屬何某 官印
第六課長 東京府屬何某 官印

正誤

本廳丙第五號達雛形ノ内指令文ノ傍年月日ノ下ニ有之印章ハ左ノ印ノ誤

東京府

右之内何人ハ何圓何人ハ何圓ニテ何人ハ何圓如此

區務所費

一金何圓

内譯

金何圓

筆墨代

金何圓

何何

金何圓

何何

一金何圓

區内費

内譯

金何圓

消防費

金何圓

何何

金何圓

何何

總計

金何圓

右ハ明治十年七月ヨリ十一年六月迄一年度當大區内民費豫算取調進達仕候也

明治十年八月何日

何大區

區長何誰印

東京府知事何誰殿

何大區何小區十年度民費豫算

一何何圓

役員給料

金

内譯

金何圓

戶長給料

金何圓

書記何人給料

右之内何人ハ何圓何人ハ何圓何人ハ何圓ニテ如此

一金何圓

區務所費

内譯

金何圓

筆墨代

金何圓

何何

金何圓

何何

一金何圓

内譯

金何圓

消防費

金何圓

何何

金何圓

何何

右ハ明治十年七月ヨリ十一年六月迄一年度當小區内民費豫算取調進達仕候也

明治十年八月何日

何大區何小區

戶長何ノ誰印

東京府知事何誰殿

東京府達 九^年七月二十六日
乙^第四十四號 區月長

東京府總務課收納
方

府廳修繕費并人民呼出願何等ノ指令送達郵便稅共本年一月ヨリ六月迄繰替仕拂置候分別紙調書之通候
條例規之通地券金高へ賦課シ各區取經來八月十日限第六課へ收入方可取計此旨相達候事

別紙

本年一月ヨリ六月迄府廳修繕費并人民呼出願何等指令送達郵便稅共調書

一金千九百四十一圓九十八錢六釐

內

金千八百六十圓三十八錢二釐

金八十一圓六十錢四釐

府廳修繕費
人民呼出願何等之
指令書送達郵便稅

右地券金高千三百二十九萬五千七百九十四圓九十六錢三釐ニ賦課ス

地券金高百圓ニ付

金一錢四釐六毛〇六忽

東京府西洋形荷車府稅

徵收方

十二年六月東京府甲第五
十七號布達ニ依テ相達ス

東京府布達 九年八月二十九日
甲第八十六號

西洋形荷車之儀ハ大小ノ別無ク府稅課シ來リ候處當九年後半年分ヨリ左之通收稅候條此旨布達候事

架臺九尺以上

府稅一箇年分 一圓

地招巾三尺五寸以上

同 同 五十錢

架臺九尺未滿七尺以上

同 同 十三錢

地招巾三尺未滿二尺五寸以上

同 同

架臺七尺未滿

同 同

地招巾二尺五寸未滿

同 同

東京府達 九年九月三十日
乙第六十號區戶長

酒類 釀造 營業稅本年十月ヨリ來十年九月迄一期收入之分左之日割之通リ當府第三課へ上納可致旨營業
人へ可相達此旨相達候事

日割

十月九日 第一大區 一小區ヨリ

同 十一日 同 十一小區迄

同 十二日 同 十六小區迄

同 十三日 第二大區

同 十八日 第三大區

同 十九日 第四大區

同 二十日 第五大區

同 二十三日 第六大區

同 二十五日 第七大區

同 二十六日 第八大區

同 二十七日 第九大區

同 三十日 第十一大區

東京府達 九年十月十八日
乙第六十五號區戶長

質渡世之者廢業之節ハ期限ニ不拘取高稅上納可取計成規之處兎角遲延ニ及ヒ不都合候條今後廢業之者
有之節ハ直チニ上納可取計若シ休業ニテ質取高無之者ハ廢業之節其譯可届出此旨更ニ相達候事

東京府布達 九年十二月十一日
甲第四百四十六號

相撲營業之者是迄冥加金相納來候處來明治十年ヨリ相廢シ更ニ鑑札致下付左之通府稅致徵收候條此旨
布達候事

上等

免許稅

開業初年

金 五圓

同

次年ヨリ

金二圓五十錢

租稅門 地方稅

東京府質渡世廢業者取

高稅上納

十二年六月東京府乙第五
十七號布達ニ依テ相達ス

東京府相撲營業者ヨリ

府稅ヲ徵ス

十二年六月東京府甲第五
十七號布達ニ依テ相達ス

中等
 免許税 開業初年 金 三 圓
 同 次年ヨリ 金 一圓五十錢
 下等
 免許税 開業初年 金 一圓五十錢
 同 次年ヨリ 金 七十五錢

一初年ノ免許税ハ新タニ開業スル者ヘ免許鑑札下付之節之ヲ徴收シ其年限リ効アルモノトス
 一 次年ヨリ免許税ハ前年來引繼キ營業スル者ニ賦スルモノニシテ其年七月十五日迄ニ之ヲ徴收シ其年限リ効アルモノトス
 一 年ト云ハ都テ會計年度ニ依リ前年七月ヨリ後年六月迄ヲ以テ一年トス
 一 從來營業ノ者來十年一月ヨリ六月迄ノ分ハ次年ノ免許税ヲ賦スヘシト雖正ノ際ナルヲ以テ其半額ヲ一月十五日迄ニ徴收シ六月限り後會計年度 効アルモノトス

東京府劇場茶屋府税ヲ
 改正ス
 十二年六月東京府甲第五
 十七號布達ニ依テ消滅ス

東京府布達 九年十二月十一日
 甲第百四十七號
 從來劇場茶屋府税之儀ハ劇場之開閉ニ不拘月金一圓宛致課賦來候處來明治十年ヨリ左之通改正候條
 此旨布達候事

免許税 開業初年 金 三 圓
 同 次年ヨリ 金 一圓五十錢
 營業税 興行中毎日 金 六 錢
 一初年ノ免許税ハ新タニ開業スル者ヘ免許鑑札下付之節之ヲ徴收シ其年限リ効アルモノトス
 一 次年ヨリノ免許税ハ前年來引繼キ營業スル者ニ賦スルモノニシテ其年七月十五日迄ニ之ヲ徴收シ其

東京府大弓半弓等收
 税
 十二年六月東京府甲第五
 十七號布達ニ依テ消滅ス

年限効アルモノトス
 一年ト云ハ都テ會計年度ニ依リ前年七月ヨリ後年六月迄ヲ以テ一年トス
 一 從來營業ノ者來十年一月ヨリ六月迄ノ分ハ次年ノ免許税ヲ賦スヘシト雖正ノ際ナルヲ以テ其半額ヲ一月十五日迄ニ徴收シ六月限り後會計年度 効アルモノトス
 一 營業税ハ演劇閉場後三日ヲ限り之ヲ徴收ス

東京府布達 九年十二月十六日
 甲第百四十九號

大弓半弓并室内ニ於テ射擊銃技營業之者來明治十年ヨリ免許鑑札致下付左之通府税致徴收候條此旨布達候事

免許税 開業初年 金 二 圓
 同 次年ヨリ 金 一 圓
 營業税 每 月 金 五 十 錢
 一初年ノ免許税ハ新タニ開業スル者ヘ免許鑑札下付之節之ヲ徴收シ其年限リ効アルモノトス
 一 次年ヨリ免許税ハ前年來引繼キ營業スル者ニ賦スルモノニシテ其年限リ効アルモノトス
 一 年ト云ハ都テ會計年度ニ依リ前年七月ヨリ後年六月迄ヲ以テ年度トス
 一 營業税ハ翌月三日限り徴收ス

東京府布達 九年十二月二十日
 甲第百五十二號

本年乙第二十三號ヲ以相達候材木類取扱規則第一條ニ掲グル材木問屋之儀來明治十年一月ヨリ商ヒ高
 千分ノ三府税徴收候條此旨布達候事
 但材木問屋ヨリ是迄川浚入費トシテ納來候金額ハ本年限リ相廢シ候事

東京府裝束能營業者ヨリ稅ヲ徵ス

十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ稅減ス

東京府商工及銀行高ヨリ課稅スヘキ額收稅ノ際ハ區戶長ノ調査ヲ請ハシム

東京府瓦斯局并街燈費

十三年九月東京府甲第百號布達ヲ以テ地方稅費目ニ加フ

燈立府稅納額改正

十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ納額ス十年八月東京府乙第七十二號布達ヲ以テ稅額ヲ改ム

地租改正入費ハ民我ニ課ス

東京府布達 甲第十一年二月二十一日

裝束能營業之者自今諸見世物同様興行稅上リ高百分ノ二致徵收候條此布達候事

東京府達 乙第十一年二月二十四日

商ヒ高及ヒ興行高ヨリ課稅スヘキ類ハ自今各業ノ者共日日付込帳ヲ製シ置收稅ノ際該區戶長ノ調査ヲ請ヘシ且當廳官員臨時派出帳簿可及檢査等ニ候條右營業ノ者ヘ爲心得豫メ可致告示此旨相達候事

東京府布達 甲第十年二月二十八日

瓦斯局并ニ街燈費ノ儀是迄悉皆共有金ヲ以仕拂來候處追テ賦課方法相立候迄ハ教師ノ給料ヲ除クノ外本月ヨリ府稅ヲ以仕拂候條爲心得此旨布達候事

東京府布達 甲第十年三月二日

瓦斯街燈費ノ儀是迄共有金ヲ以仕拂來候處追テ賦課方法相立候迄ハ本月ヨリ府稅ヲ以仕拂候條爲心得此旨布達候事

東京府達 乙第十年三月八日

昨九年五月乙第二十二號ヲ以煙草府稅之儀相達置候處該儀之筋有之稅額之儀ハ商ヒ高二十分ノ一ト改正候條煙草營業人ヘ可相達此旨相達候事

東京府諭達 無號區戶長

本年第二號ヲ以民費減省ノ儀公布相成候處地租改正入費ニ於ル素ヨリ臨時ノ事件ニ付限外タル勿論ニ

候得共此際民間ニ於テ萬一不了解ノ者有之候テハ不都合ニ付此旨爲心得及諭達候事

東京府布達 甲第十年六月四日

魚鳥并青物市場及問屋仲買營業例規稅則共別冊之通本年七月一日ヨリ施行候條從前營業之者ハ市場組合連名并會所頭取相定メ方法規則等取調來ル六月二十日迄當廳ヘ具上可致此旨布達候事

但組合連名書差出候上ハ直ニ鑑札等可相渡候條本文日限後申出之者ハ總テ新加入ト看做シ處分可致事

魚鳥市場例規并稅則

第一條

一魚鳥市場ハ遠近ノ海川漁場ヨリ府下ニ運送スル魚貝、鹽干魚、川魚等販賣スルノ市場ニシテ日本橋新場芝金杉千住ノ四所ニ於テ之ヲ開設スルヲ許シ他ノ地ニ於テ開場スルヲ禁ス

日本橋 本小田原町 本船町 長濱町 元四日市

新場 本材木町

芝金杉 本芝二丁目 芝濱松町一丁目

千住 中組

第二條

一該市場ニ於テ魚鹽干魚及鳥類家畜鳥類トモヲ販賣スル問屋仲買ノ者ヘ今般免許鑑札ヲ附與シ各其商業ヲ營マシム

但鱈節鷄卵ノ二種ハ此限ニアラス

第三條

一此例規并稅則ヲ創スルノ主意ハ專ラ市場ノ盛昌商業ノ保護ヲ注意シ府下營業ノ者ヲシテ互ニ相補益

東京府魚鳥并青物市場營業例規稅則制定

十二年六月東京府甲第五十七號布達ニ依テ制定ス十年六月東京府外告示ヲ參照ス

シ組合永續ノ方法ヲ立テシムルニ在リ故ニ定ムル所市場四箇所ノ外濫リニ市場ヲ開キ及ヒ鑑札ナクシテ問屋仲買ノ營業ヲナスコトヲ禁ス

但深川佃島及芝濱等其他管下近郷ノ居民其地ノ海川ニ於テ自ラ取得ル所ノ魚鳥貝類及ヒ畜養ノ鷄鶩等ヲ以テ直ニ他人ニ小賣スル者ハ此限ニアラス

第四條

一右市場ニ於テ魚鳥ヲ販賣輸送スル問屋仲買共各地組合ヲ結ヒ會所ヲ立テ頭取人員ヲ定メ便宜ノ方法規則ヲ設ケ區務所ヲ經由シテ之ヲ府廳ニ具上スヘシ

第五條

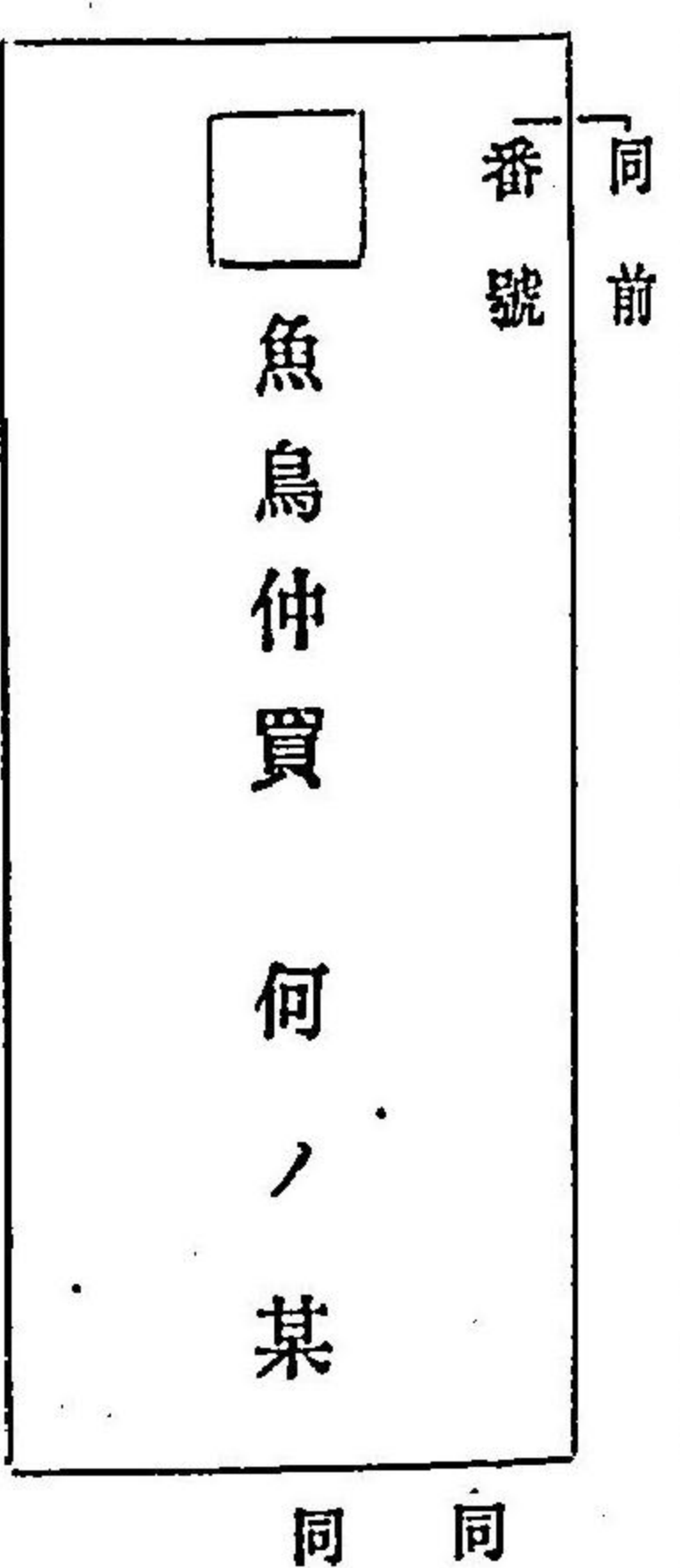
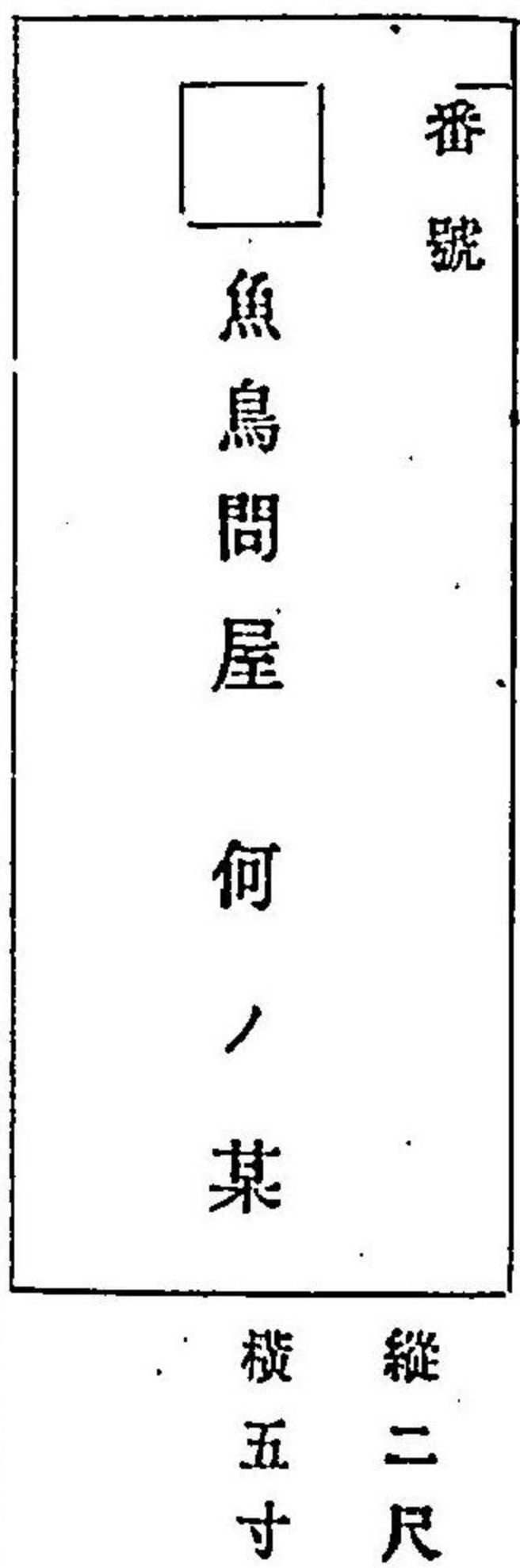
一從來開業ノ者ハ勿論今後新タニ此組合ニ加入シ問屋又ハ仲買ノ業ヲ營マントスル者ハ府廳ヘ鑑札ヲ乞テ後開業スヘシ然ル上ハ各市場問屋仲買ノ者ニ於テ之ヲ拒防シ及加入ノ出金等ヲ要求スルヲ禁ス

第六條

一各市場ニ於テ問屋仲買ノ者賣買高帳ヲ作り問屋ハ濱方ノ荷主仲買ハ問屋ト共ニ日日賣買ノ金高ヲ精算シ連名檢印シテ之ヲ會所ニ差出シ互ニ其詐偽ナキヲ證シ此賣買ノ金高ニ應シ其百分ノ一ヲ以テ府稅トシ日日會所ニ取纏會所ニ於テハ第十二條ノ手續ヲナスヘシ

第七條

一問屋仲買營業ノ者ハ常ニ其鑑札ヲ所持スヘキハ勿論各其店前ニ於テ左ノ招牌ヲ掲グヘシ



第八條

一市場ニ於テ魚鳥ヲ並列スルカ爲ニ用エル所ノ板船ハ縱六尺横三尺曲尺ヨリ大ナルヲ得ス一枚毎ニ表面ニ其持主ノ姓名ヲ記シ上ニ免許ノ燒印ヲナス故ニ此燒印ナキ板船或ハ盤臺竹籠等ヲ用テ市場ニ於テ商賣ヲナスヲ禁ス

第九條

一此免許鑑札掲牌板船共擅ママニ他人ニ貸與ヘ或ハ賣買并抵當ト爲テ許サス戸主代替リ改名或ハ火盜ノ爲ニ毀失過誤遺失等ノ者ハ其事由ヲ記シ會所頭取連印願出ル上ハ更ニ鑑札ヲ付與シ板船ハ新タニ燒印スヘシ

第十條

一問屋仲買營業ノ者并板船所持ノ者ハ左ノ免許料ヲ徴ス

問屋營業ノ者 一周年 金三圓

仲買營業ノ者 同 金二圓

市場板船所持ノ者同一枚ニ付金一圓五十錢

第十一條

一免許料ノ一周年度ハ本年七月ヨリ明年六月ニ至ルヲ一周ト定メ本年十二月三十一日前後ヲ以テ之ヲ

折半シ開業本年十二月三十一日以前ノモノハ全周年ノ料ヲ收メ明年一月一日以後ハ後半年ノ料ヲ收ム其閉業スルモノモ亦明年一月一日以後ハ全年ノ料本年十二月三十一日以前ハ前半年ノ料ヲ收入ス後數年皆之ニ準ス

第十二條

一府稅徵收ノ定期ハ賣買金額百分ノ一ハ毎月末結算シテ日締帳ヲ添ヘ翌月五日限り之ヲ府廳租稅課ニ收納シ免許料板船料ハ各市場會所ニテ取纏メ每半年一月七月ノ十五日ヲ以テ其所有主ノ名簿ヲ添ヘ之ヲ前同課ニ上納スヘシ

第十三條

一市場ノ開閉ハ毎日時限ヲ定メ場終ルノ後ハ每街清潔ニ之ヲ掃除シ一切臭腐ノ物ヲ除去リ且常ニ溝渠ノ疏通ヲ宜シクシ路巷ノ臭汚ヲ防クヘキハ總テ規則ノ通相守ルベシ

願書書式

魚鳥問屋開業之儀願書

何大區何小區何町何番地

何ノ誰

右ハ此度魚鳥問屋開業仕候ニ付鑑札御下渡シ又ハ板船何被下度尤何地市場組合ニ加入仕都テ御定ノ例則ニ違背仕間敷候依テ此段奉願候以上

何年何月何日

右何ノ誰印

東京府知事某殿

魚鳥問屋開業之儀願書

何大區何小區何町何番地

何ノ誰

右者是迄魚鳥問屋營業何地市場組合ニ加入罷在候處此度閉業仕候ニ付免許鑑札號何返上并板船何枚御消印被成下度此段奉願候以上

年月日

右何ノ誰印

東京府知事某殿

鑑札書替再願書式

魚鳥問屋營業鑑札或御書替或ハ御願書

何大區何小區何町何番地

何ノ誰

右者是迄魚鳥問屋營業鑑札或ハ板船所持罷在候處此度家名相續又ハ改名或ハ盜火難替御檢印被成下度此段奉願候以上

年月日

右何ノ誰

何市場組合

何所頭取ノ誰

東京府知事某殿

青物問屋并仲買營業者例規并稅則

第一條

一青物市場ハ神田多町連雀町須田町京橋大根河岸兩國廣小路本所中ノ郷竹町千歲町駒込淺嘉町千住中組青山南町四丁目南品川五丁目四ッ谷内藤新宿二丁目下谷金杉村原宿町本芝四丁目ノ十六箇所ニ允許スヘシ

第二條

一青物水菓子ノ稱ハ野菜土物及一切諸菓物ノ類ヲ云フ

第三條

一青物市場并其他ノ地ニ問屋并仲買業者ヲ許可ス此問屋仲買ナルモノハ各地方ヨリ輸送スル所ノ青物水菓子ノ商業ヲ爲スヲ得ヘシ於市場ハ問屋并仲買ノ手ヲ經スシテ販賣スルヲ禁ス
但市場外ノ地ニテ小賣ヲ爲スモノ又ハ各戸ヘ直ニ販賣スル小商人ハ此限ニアラス

第四條

一每市場ニ組合ヲ立會所ヲ設ケ頭取ヲ置キ人名ヲ定メ區務所ヲ經テ府廳ヘ届出ヘシ且取扱定規ヲ案シ同シク之ヲ具狀スヘシ

第五條

一問屋并仲買ノ者ハ免許鑑札ヲ下附シ鑑札之ナキモノハ市場營業ヲ禁ス
但此鑑札ハ賣買抵當并貸借ヲ爲スヲ許サス

第六條

一轉居改名及ヒ名跡相續ノ者ハ届出鑑札書換ヲ請フヘシ

第七條

一鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル節者其事由ヲ詳記シ届出再ヒ之ヲ願請スヘシ

第八條

一市場ニ於テ天秤ヲ荷ヒ或ハ往還ヘ籠等ヲ以テ仲買ニ類似ノ商業ヲ爲スヲ禁ス

第九條

一新ニ問屋并仲買ノ營業ヲ爲サント欲スル者ハ府廳ヘ願出許可ノ上最寄市場組合ヘ加入シ開業ノ節ハ必免許鑑札番號ヲ記載シタル招牌ヲ店頭ヘ掲クヘシ
但組合加入ノ節之レカ故障ヲ爲ス可ラサルハ勿論加入出金ヲ要求スヘカラス

第十條

一問屋并仲買ノ者閉業ノ節ハ鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條

一市場ハ日日雜沓スルカ爲ニ平常清潔ヲ主トシ市終ルノ後必ス掃除ニ注意シ路上塵芥等無カラシムヘシ

第十二條

一各市場ノ外元四日市并堀江町ノ如キ水菓子問屋并ニ仲買ノ者モ新ニ營業免許鑑札ヲ下附ス可キニ付最寄會所ヘ組合加入シ都テ此青物水菓子問屋仲買者ノ例規稅則ノ通タルヘシ

第十三條

一問屋并仲買營業ノ者ハ免許料トシテ年年左之通徴收スヘシ

一問屋免許料

金二圓ツツ

一仲買免許料

金一圓ツツ

第十四條

一問屋并仲買ノ者ハ賣買高帳ヲ製シ日日賣上總計ヘ押印シ之ヲ會所ヘ差出ス元四日市并堀江町ノ如キ會所ト距離懸隔ニテ日日出出方不便ノ向ハ五日間或ハ十日間取纏メ會所ヘ出スヘシ頭取之レヲ調査シ其商高二百分ノ一ヲ府稅トシテ徴收スヘシ
但新規開業ノ者ハ其日ヨリ徴收シ閉業ノ者ハ其日迄トス

第十五條

一免許料ノ年度ハ本年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年トシ會所ニ於テ取纏メ所持主ノ名簿ヲ添毎年七月二十日限リ府廳租稅課ヘ上納シ新規開業ノ者ハ其時上納スヘシ

第十六條

一會所ニ於テ集ムル所ノ府稅ハ一箇月取纏メ之ニ商高帳ヲ添テ翌月五日限リ同課ヘ上納スヘシ

振島及青物市場府稅ハ
仲買ノ者ニ關係セス

東京府告示 十年六月十六日
本年甲第六十六號布達魚鳥及青物水菓子市場府稅ノ儀ハ各問屋ヨリ徵收スヘキ筈ニテ仲買ノ者ニハ關係無之儀ニ候得共爲念相達候條此旨相心得可及告示候事

民費制限ノ儀目今地租
改正中ニ付當分從前ノ
法ヲ以テ課出ス

東京府達 十年八月二日
番外區戶長

本年第二號ヲ以テ土地ニ課スル民費制限相立候上ハ精節減之法可及詮議ハ申迄モ無之候得共自然地租五分一ニ而ハ不足ヲ生可申哉モ難計就而ハ他ニ賦課之方相立候上精算可致儀ニ候得共目今地租改正中ニ而地價ノ金額未相定ニ付當分從前ノ法ヲ以テ課出候外無之何レ地價相定候上ハ差引決算ニ及ヒ可申且又事務上不足之金員ハ他賦課之法ニ隨而課出爲致候外無之ニ付其旨相心得區内無洩豫豫而相達置候様可取計候事

民費豫算書ヲ出サシム
十年十二月二十七日東京
府番外達ヲ參照スヘシ

東京府達 十年八月六日
番外區戶長

本年七月一日ヨリ來ル明治十一年六月三十一日迄一年度其區内民費豫算別紙雛形ニ照準シ遺漏ナク取調來ル二十日迄ニ可差出此旨相達候事別紙參ス

東京府酒煙草府稅納額
改正

東京府達 十年八月十六日
番外區戶長

酒煙草府稅之儀ニ付明治九年第四十七號同年乙第二十二號及本年乙第二十六號ヲ以テ相達置候處詮議之筋有之即今可相納分ヨリ稅額各商高百分ノ二ニ改定候條各營業人へ可及告示此旨相達候事

東京府布達紙配達費ノ
官民費區別ヲ示ス
十二年三月東京府甲第十
九號布達ヲ以テ地方稅規
則ヲ施行ス

東京府達 十年八月二十七日
番外區戶長

本人迄ノ分ハ民費

但民費ニ屬スル分從前ノ管内割ヲ廢シ各大區割ニ改正

一 人民召喚狀配達費官費

一 管轄境界標費前同斷

但本文之外諸榜示杭費ハ民費

一 管内派出ノ官員へ公文配達費前同斷

一 從前民費ヲ以建設スル揭示札費前同斷

一 布達印刷費前同斷

一 人民控所諸雜費前同斷

一 復籍人管内送押護人給料前同斷

右本年七月ヨリ改正候條此旨可相心得候事

東京府達 十年九月十日
番外區戶長

本年八月內務省乙第七十七號達ニ付テハ民費賦課及ヒ仕拂ノ總計并ニ各細目ノ金員共明治九年七月ヨリ本年六月迄ノ分別紙雛形ニ照準シ明細表相製シ來ル二十九日限り各大區取經メ當府庶務課へ可差出此旨相達候事別紙雛形參ス

東京府達 十年十月二十四日
乙第九十號區戶長

本年第二號公布民費節減之趣意ヲ奉シ自今民費上納金之儀ハ無手数料ニテ取扱候旨三井銀行ヨリ申立候ニ付聞置候條爲心得此旨相達候事

民費賦課及仕拂明細表
ヲ出サシム
十二年七月ヨリ地方稅規
則施行ニ依テ消滅ス
內務省乙第七十七號達前
ニ照ス
民費上納金無手数料ニ
テ取扱
十二年七月ヨリ地方稅規
則施行ニ依テ民費ノ名稱
ハ廢ス

東京府民費豫算削減ヲ加ヘ取調シム

十二年三月東京府甲第十
九號ヲ以テ地方稅施行ニ
依テ廢ス

東京府達 十年十二月二十七日
本年八月番外ヲ以テ十年度民費豫算取調方相達候處追調査差出候ニ付篤ト詮議ノ末再度申出ノ通聽許
候條各區役員給料ヲ除クノ外總テ右豫算高ニ超過不相成ハ勿論豫算内ノ費用ト雖モ民費節減ヲ旨トシ
精精減省候様取計可申此旨相達候事

質屋旅人宿場敷札料
ノ稱ヲ改ム

十二年六月東京府甲第五
十七號布達ニ依テ削減ス

東京府布達 十一年二月十四日
從來質屋旅人宿及モ藝妓等ヨリ致徴收候免許鑑札料或ハ鑑札料ト稱スルモノ自今左ノ通改稱候條此旨
布達候事

質屋

免許稅

旅人宿及ヒ藝妓

營業稅

東京府達 十一年三月二十七日

鳥卵鯉節問屋仲買營業之者本年五月一日ヨリ左之通府稅徴收候條渾テ昨十年六月當廳甲第六十六號布達
魚鳥青物問屋仲買例規稅則之通可相心得此旨布達候事
但免許料之儀本年ニ限リ上半年分(五六)ヲ免除候條後半年分ハ即今上納可致事

問屋免許料 一箇年

同

金三圓

仲買免許料

金二圓

商高稅

百分ノ一

東京府達 十一年六月二十九日

地ニ課スル民費之儀從前聞小間或ハ舊地價或ハ反別ニ課賦致シ來候處今般地租改正成功ニ及候ニ付當
七月一日ヨリ明治十年太政官第二號公布ニ照シ地券金額ニ依リ課賦可取計尤右課收金額ニテ費額不足
ヲ生候分ハ課賦法相立候迄繰替下渡候條區内一般へ告示致シ置可申此旨相達候事

東京府達 十一年七月十日

本廳乙第十八號ヲ以テ民費賦課取計方相達候處右ハ七月以後ノ費用ニ係リ候儀ニ付其以前之分ハ舊規
通リ取計候様可相心得此旨相達候事

東京府達 十一年八月二十九日

地ニ課スル民費ノ儀ハ本年乙第十八號ヲ以改正地價額ニヨリ賦課可取計旨相達置候處山林原野等改租
未濟之地ハ地價額確定候迄ハ舊ニ仍リ賦課候儀ト可相心得此旨相達候事

東京府達 十一年十一月二日

地ニ課スル民費ノ儀ニ付兼テ相達置候儀モ有之候處本年七月ヨリ十年太政官第二號公布ノ旨實施候ニ
付テハ内務省ヨリ達ノ趣モ有之其以前已ニ課出ノ分ハ差引決算不致儀ニ候條心得違ノ者無之様區内無
漏及告示置クヘシ此旨相達候事

東京府布達 十一年十一月六日

今般區郡改正候ニ付テハ租稅徴收方該役所ニ於テ可取扱等之處事務受渡ノ都合モ有之候ニ付追テ相達

東京府地租改正成功ニ
付民費削減方

十一年七月東京府丙第三
十一號ヲ參看スヘシ
十一年八月東京府丙第三
十七號ヲ參看スヘシ

東京府民費賦課方

東京府民費賦課方

民費削減取調方

東京府租稅徴收方

十一年十二月東京府甲第
七十六號布達ヲ參看スヘ
シ

候迄ハ從前之通り當廳へ可致收納此旨布達候事

東京府地方稅規則施行ニ依リ郡役所長役場豫算ヲ取調シム

東京府達 丁第十一年十一月十六日

本年第十九號公布地方稅規則之儀明治十二年度ヨリ施行候ニ付來年三月府會可相開候間十二年度郡費并ニ戸長役場豫算別冊雛形之通精密取調且一覽表相添十二月二十日迄ニ可差出此旨相達候事 別冊雛形等ス

東京府租稅徵收方

東京府布達 甲第十一年十二月二十五日

十一年十二月東京府丙第七十二號ヲ參看スヘシ 十三年九月東京府丙第六十七號迄ヲ以テ地方稅金假納順序ヲ定ム

租稅徵收方ノ儀ニ付本年甲第五十六號ヲ以テ布達及ヒ置候處來ル明治十二年一月一日ヨリ左ノ諸稅ヲ除クノ外國稅地方稅共都ヲ郡區役所ニ於テ徵收爲致候條此旨布達候事

府廳へ直納スヘキ稅目如左

- 一 國立銀行稅
- 一 株式取引所稅
- 一 米商會所稅
- 一 度量衡稅
- 一 地券證印稅

東京府租稅徵收方

東京府達 丙第十一年十二月二十八日

租稅徵收方之儀ニ付本年甲第七十六號ヲ以布達致置候處左之營業組合之者ニ限リ當分府廳租稅課ニ於テ取扱候條爲心得此旨相達候事 魚鳥問屋仲買組合 青物 同

鷄卵 同

材木問屋組合

同 中組

同商 組合

東京府達 丙第十二一年一月十日

魚鳥問屋仲買組合等鑑札願并收稅取扱之儀ニ付客歲十二月二十八日丙第七十二號ヲ以相達候處酒煙草問屋組合之者モ同様當分之内府廳租稅課ニ於テ取扱候條爲心得此旨相達候事

東京府達 乙第十二一年一月二十五日

府稅收入表別紙雛形之通相定候條右ニ照準每月取調翌月十五日限リ本廳租稅課へ可差出此旨相達候事 (印ハ朱書)

各種目ヲ記入ス
 免許稅及ヒ營業稅定規ノ稅額ヲ記入ス
 其月現數ヲ記入ス
 其月ノ開業ト前月ノ閉業ト記入ス
 免許稅及免許料トモ其月收ト入ノ金高ヲ記入ス
 營業稅商ヒ高及興行高賦稅其月收入ノ金員ヲ記入ス
 免許稅營業稅トモ種目限リ其月收入ノ金員ヲ合計シ記入ス
 事故有之處分中又ハ何中等ニテ目下現數ヲ除キ難キモノヲ記入ス

明治何年何月分府稅收入表

種目	稅額	現員	增減員	免許稅	營業稅	現收入高	總稅員數
劇場	初年 三百四十圓 次年年分 二百五十圓 上年中上ノ高百圓	七箇所		金何圓	金何圓	金何圓	金何圓
俳優	同上 同上 同上			金何圓	金何圓	金何圓	金何圓

東京府稅收入表樣式
十二年三月東京府甲第十
九號布達ヲ以テ地方稅規
則ヲ施行ス

東京府爲問屋仲買組
合等鑑札願并收稅取扱
方
十二年六月東京府甲第五
十七號布達ニ依テ稅課ス

劇場茶屋	寄席	楊弓	室內射擊	大弓	投扇競	琴弓	藝妓	相撲	相撲興行	待合茶屋	旅人宿	音曲諸藝人	諸見七物
初年三 次年一四五十錢 興行中毎日六錢	初年二 次年一四 每月營業稅五十錢	同	同	同	同	同	營業稅 每月三圓	等級ニ依テ 差アリ	興行中上リ 高百分ノ二	營業稅每月 五十錢	營業稅 二十五錢	上等 五十錢 中等 二十五錢 下等 十五錢	木戸錢上リ 高百分ノ二

床店	質屋	諸證札書 換手數料	合計
比隣ノ地 代十分ノ五	初年開業ニ限リ 金五圓外ニ取 ル一略ス	一枚ニ付 二十錢	各横線内ノ 員數ヲ記入ス

右之通り有之候也

年月日

長官宛

何那區長名印

但用紙ハ美濃紙十三行罫紙ノ事

東京府布達 十二年三月三日 明治十一年第十九號公布地方稅改正ノ儀本年七月ヨリ施行候條此旨布達候事

東京府布達 十二年三月三日 郡區地方稅分離條例別紙ノ通相定候條此旨布達候事

(別紙)

租稅門 地方稅

東京府地方稅施行ノ期
ヲ示ス

東京府郡區地方稅分
離條例

十四年七月東京府甲第
九十八號布達ヲ以テ廢ス

郡區地方税分離條例

- 第一條 郡區地方税ノ經濟ヲ分離シ郡ノ經費ハ六郡ヨリ徵收スル地方税ヲ以テ之ヲ支辨シ區ノ經費ハ十五區ヨリ徵收スル地方税ヲ以テ之ヲ支辨スル事
- 第二條 郡區經濟ヲ分離スル以上ハ營業稅雜稅ノ種類制限ニ就キ之ヲ取捨斟酌シ及ヒ地ニ課シ戶數ニ課スル金額ヲ定ムル等郡區各其適度ニ從フ事
- 第三條 經費ノ內郡區合一ニテ支辨スヘキ者ハ左ノ割合ヲ以テ郡區支辨ノ額ヲ定ムル事
 - 一 警察費 郡區ノ人口ヲ目安トシテ割合區ハ郡ノ一倍ヲ支辨スルモノトス
 - 一 貧院費 郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合支辨スルモノトス
 - 一 府會諸費 同上

東京府達 十二年三月五日 丙第二十八號 郡區役所

併優弁音曲諸藝人徵稅ノ儀今般各頭取ニ於テ取纏メ頭取在籍郡區役所へ納稅聞屆候條爲心得此旨相達候事

但取扱手續ノ儀ハ追テ詳細可相達候事

東京府布達 十二年四月十五日 甲第四十二號

本年二月甲第二十號布達郡區地方税分離條例第三條へ左ノ通追加候條此旨布達候事

- 一 浦役場及難破船諸費 郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合支辨スルモノトス

東京府達 十二年六月二十七日 丁第七十七號 各郡役所

明治十一年度分六郡民費徵收方ノ儀假リニ地租六分ノ一ヲ課額トシ昨十一年七月以降舊區務所費用ニ

十二年四月東京府甲第四十二號ヲ以テ第三條ニ一取ヲ追加ス
十三年七月東京府甲第七十七號布達ヲ以テ第三條ヲ改正ス

東京府併優弁音曲諸藝人徵稅方

東京府郡區地方税分離條例第三條ニ追加ス
十四年七月東京府甲第九十八號布達ヲ以テ廢ス

東京府明治六年度六郡民費徵收方

東京府明治十二年郡區地方税徵收方

十二年七月東京府乙第三十六號ヲ以テ納期ヲ示ス

東京府地方税納期ヲ示ス

東京府明治十一年度府稅民費金出納閉鎖期限

東京府明治十三年度地方税内地租別項車稅徵收方

東京府明治十三年度地方税豫算等ノ改正八年度ノ始メヨリ施行ス

賦課候金額ヲ引去來ル七月十五日限リ仕譯書相添會計課へ可致收入此旨相達候事
但本文概算ヲ以テ賦課候ニ付追テ精算ノ上尙可相達候事

東京府布達 十二年六月四日 甲第五十八號

明治十二年度地ニ課スル地方税ノ儀十五區ハ地租五分ノ一六郡ハ地租七分ノ一徵收候條此旨布達候事

東京府達 十二年七月五日 乙第三十六號 戶長役場

本年當廳甲第五十八號布達地ニ課スル地方税之儀者地租納期ニ於テ徵收候義ト可相心得此旨相達候事

東京府達 十三年三月二十七日 丙第二十五號 郡區役所

十一年度府稅及民費金出納ノ儀本月三十一日限閉鎖候條同年度ニ屬スル收入支出取調有無共同日迄ニ申出ヘシ此旨相達候事

但事故有之若シ同日迄ニ皆納相成難キ分有之ハ仕譯書へ其事由ヲ詳記スヘシ

東京府布達 十三年七月十二日 甲第七十四號

明治十三年度地方税ノ内地租割ハ地租徵收期限ニヨリ舟車稅ハ國稅徵收期限ニヨリ之ヲ徵收スル例規ノ處即今府會議中ニ付先ツ地租割ハ十五區ニ限リ地租五分ノ一舟及ヒ營業ノ車稅ハ郡區共國稅ノ半額ヲ以テ假ニ相納ムヘク追テ本稅額決定ノ上假納ノ額ニ増減ナキキハ本納ニ立テ増減アルキハ其時ノ所有者ニ向テ差引勘定致スヘシ此旨布達候事

東京府布達 十三年六月二十五日 甲第六十三號

本年通常府會ノ議ニ付シ候明治十三年度地方稅收支豫算并ニ營業稅雜種稅賦課規則ノ改正ハ府會ノ決議七月已後ニ及フモ年度ノ始メヨリ施行候條此旨布達候事

東京府布達 甲三十七號

東京府郡區地方稅分離條例第三條改正

十四年七月東京府甲第九十八號布達ヲ以テ廢ス

明治十二年三月本府甲第二十號布達郡區地方稅經濟分離條例第三條左ノ通改正候條此旨布達候事

第三條 經費ノ内郡區合一ニテ支辨スヘキモノハ左ノ割合ヲ以テ郡區支辨ノ額ヲ定ムル事

一 警察費

郡區ノ人口ヲ目安トシテ割合區ハ郡ノ二倍ヲ支辨スルモノトス

一 衛生會費

郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合區ハ郡ノ二倍ヲ支辨スルモノトス

一 避病院保存費

郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合區ハ郡ノ四倍ヲ支辨スルモノトス

一 流行病豫防費

同上

一 病院費

同上

一 癲狂院費

同上

一 產婆教授費

郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合區ハ郡ノ二倍ヲ支辨スルモノトス

一 養育院費

同上

一 府會諸費

郡區ノ戶數ヲ目安トシテ割合支辨スルモノトス

一 浦役場及難破船諸費

同上

一 於府廳地方稅取扱爲替方手数料同上

一 府立師範學校費

郡區へ派出スヘキ生徒ノ員數ニ割合支辨スルモノトス

東京府布達 甲三十七號

東京府地方稅費目ハ瓦斯燈費火災豫防費ノ二項ヲ加フ

十四年七月東京府甲第九十八號布達ヲ以テ廢ス

本年第二十七號公布第二條ニ仍リ本府地方稅費目ハ瓦斯燈費火災豫防費ノ二項相加ヘ候條此旨布達候

事

内務大藏兩省同十四年六月二十二日

東京府知事松田道之ヨリ瓦斯燈費及火災豫防費ノ二項區部地方稅費目ヘ増加ノ儀ニ付別紙ノ通申出候間本年第八號公布第七條ニ照ラシ更ニ相伺候條至急御裁可相成度候也

指令 十四年七月二十日

伺ノ趣聞届候事

東京府ヨリ内務大藏兩省ヘ伺十四年六月十七日

瓦斯燈費火災豫防費ノ二項ハ當府ニ於テ特ニ緊要ノ費目ナルヲ以テ客歲第二十七號公布ニ依リ之ヲ加ヘタリト雖モ本年第八號公布ヲ以テ區部會郡部會ノ制被相立費目ヲ加フルハ區部ニ止ルト被相改候ニ付右ノ二項區部地方稅費目ヘ繼承致度區部會ノ決議ヲ取リ此段相伺候至急御允裁相成度候也

東京府達 丙三十九號

東京府地方稅假納順序

十四年十月東京府乙四百十號達ヲ參照スヘシ

各郡區役所ニ於テ收入ノ地方稅金假納順序別紙ノ通相定候條本年十月一日ヨリ右ニ照準可取計此旨相達候事

地方稅金假納順序

第一條

一 各郡區役所ニ於テ日日收入スル地方稅金ハ必ラス三日毎ニ取纏メ第一號雛形ノ如キ假納證書ヲ添ヘ

三井銀行チンテ會計課ヘ納付セシムヘシ

第二條

一 三井銀行ハ各郡區役所ヨリ相渡シタル假納證書ニ金券ヲ添テ會計課ヘ相納メ同課ヨリ交付スル假預リ證書ヲ其郡區役所ヘ差出シ預リ金納濟ノ手續ヲナスヘシ

十九年三月東京府内第四十三號送リ以テ第四條及第一二號雛形ヲ更正ス

第三條

一會計課ハ各郡區役所ヨリ三井銀行ヲ以テ納付セル金員ヲ領收シ第二號雛形ノ如キ假リ預リ證書ヲ三井銀行ヘ交付スヘシ

第四條

一各郡區役所ハ三井銀行ヨリ差出ス府廳ノ假預リ證書ヲ領置シ毎月十五日三十一日小ノ月兩度ニ取經メ明細仕譯書ヲ添租税課ヘ本納スヘシ
用紙半紙罫紙

第一號

證

一金

但明治何年度地方税何年何月何日ヨリ何日マテ徵收ノ分
右假納候也

年號月日

何郡長 某印

東京府知事某殿

第二號

證號 何郡區役所

金

但何年度地方税

右假納金相預リ候條此證書ヲ以本納致スヘク候也

年月日

東京府知事某

東京府明治十二年度地方税出納閉鎖期限

東京府達十三年十月三十日 丙第七十五號伊豆七島小笠原島ヲ除ク郡區役所
十二年度地方税出納ノ儀來ル十一月三十日限リ閉鎖候條右ニ屬スル收入及ヒ支出有無共取調同日迄ニ

申出可シ此旨相達候事

但事故有之同日迄ニ納受相成難キ分ハ金額及ヒ其事由ヲ具申致ス可シ

東京府十一年度六郡民費收支任證書

東京府達十四年四月二十五日 乙第四十六號郡役所
明治十一年度六郡民費ノ儀同十二年丁第七十七號ヲ以テ相達置候通今般精算候處別紙ノ通有之殘金

ノ儀ハ十二年度地方税ヘ引繼候條此旨相達候事

明治十一年度六郡民費收支任譯書

一金四萬六千六百六十九圓九十九錢二釐

內譯

金一萬四千六百六十五圓九十八錢五釐

地租六分一賦課額

區畫改正前舊朱引外區務所ニ於テ徵收ノ分

內

金三千七百五十九圓九十五錢一釐

金三千百九十五圓二十一錢七釐

金二千七百六圓九十六錢七釐

金二千五百四圓七十錢八釐

金千九百九十九圓十四錢二釐

金三萬二千五百四圓七釐

- 第七大區 荏原郡
- 第八大區 東多摩郡
- 第九大區 南豐島郡
- 第十大區 北豐島郡
- 第十一大區 南足立郡
- 南葛飾郡

區畫改正後郡役所ニ於テ徵收ノ分

內

金五千五十五圓五十八錢六釐

金千五百四十四圓七十一錢四釐

金六百三圓七十九錢八釐

金四千五百五十五圓九十七錢一釐

金七千五百五十五圓十五錢四釐

金一萬四千二十八圓七十八錢四釐

- 荏原郡
- 東多摩郡
- 南豐島郡
- 北豐島郡
- 南足立郡
- 南葛飾郡

一金四萬千六百四十一圓七十二錢二釐

內譯

金一萬四百五十圓十九錢四釐

金一萬八千六百四十圓八十錢四釐

內

△金一萬四千五百五十九圓三十四錢

△內

金七千二百二十五圓六十七錢四釐

金七千三百三十三圓六十六錢六釐

金九十三圓六十錢

金三千九百八十七圓八十六錢四釐

內

金三千七百一十一圓八十五錢三釐

金八十六圓二十二錢

金百八十九圓七十九錢一釐

內

金六千八百八十三圓五十六錢五釐

支出高

郡

郡役所經費

郡

戶長役場經費

△給與

戶長給料

諸屋給

旅費

但戶長旅費

役場諸費

需用費

郵便費

雜費

舊第七大區ヨリ
第十一大區ニ至ル

給料

內	金四百五十一圓二十八錢五釐	區長給料
	金千五十六圓六十五錢四釐	戶長給料
	金四千六百七十五圓六十二錢六釐	書記以下給料
內	金二千五百七十六圓二十錢五釐	給與
	金千七百五十九圓十六錢六釐	諸雇給
	金三百六十二圓二十三錢	諸雇給
	金四百五十四圓八十錢九釐	戶長并書記旅費
內	金一萬二千六十一圓二釐	區務所經費
	金六千二十八圓三十一錢	給料
內	金二千二百五十圓	郡長給料
	金三千七百七十八圓三十一錢	書記以下給料
	金千七百三十圓二十錢六釐	給與
內	金千五百五十七圓八十二錢六釐	諸雇給
	金百七十二圓三十八錢	諸雇給
內	金二百二十二圓二十錢	旅諸賄料

金四十九圓六十錢	郡長旅費
金百七十二圓六十錢	書記其他旅費
金千九百五十二圓五十二錢一釐	廳費
內	
金千四百二十九圓七十九錢二釐	需用費
金二圓十四錢五釐	運送費
金六十三圓六十八錢五釐	郵便稅
金四百五十六圓八十九錢九釐	雜費
金五百十六圓九十五錢七釐	雜費
內	
金三十二圓七十五錢	府會議員撰舉費
金十九圓十六錢六釐	戶長撰舉費
金四百六十五圓四錢一釐	改正宅地番號札費
金三千三百一圓二十三錢二釐	區務所諸費
內	
金二千五百五十六圓十六錢三釐	需用費
金三百七十三圓二十二錢七釐	區長直轄區務所費ノ内大區割費
金三圓五十錢	運送費
金七十圓六十九錢七釐	郵便稅
金二百六十七圓二錢五釐	雜費
金三十圓六十二錢	區務所修繕費

金四百八十九圓七十二錢二釐

内

金三百二十圓七十九錢八釐

金百三十圓七十七錢三釐

金二圓五十九錢五釐

金三十五圓五十五錢六釐

收支差引殘

金五千二十八圓二十七錢

雜類

布達類印刷費

揭示場營繕費

難破船諸費

徵兵下調費

東京府地方税出納閉鎖期限

東京府布達 十四年五月六日 第五十三號 郡區役所戸長役場通達
明治十三年度以後地方税出納閉鎖期限ノ儀會計年度經過ノ後四箇月即チ毎年十月三十一日限リト相定候條右規限迄ニ諸收入諸經費共悉皆調理致スヘシ此旨相達候事

東京府郡區地方税分條條例ヲ廢シ府會區郡部會ニ於テ議定セシム

二十年十二月東京府令第 七十二號ニ依テ附加ス
十七年五月東京府甲第十 六號布達ヲ以テ第四條ヲ 追加ス

東京府達 十四年七月十四日 甲第九十八號 伊豆七島小笠原島ヲ除ク
明治十二年當廳甲第二十號布達郡區地方税分離條例ヲ廢シ府會ト區郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及郡區連帶支辨ノ經費負擔割合左ノ通相定候條此旨布達候事
第一條 經費ノ中郡區連帶シタル費用ニ係ル事件ハ府會ニ於テ之ヲ議定スヘシ
第二條 經費ノ中郡區連帶セサル費用ニ係ル事件ハ區部會郡部會ニ於テ各之ヲ議定スヘシ
第三條 郡區連帶シタル經費ハ左ノ割合ヲ以テ區部郡部ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
警察費 消防費 水防 郡區ノ戶數ヲ準トシ區ハ郡ノ二倍ヲ負擔ス
監獄費 同上

監獄建築修繕費

衛生會費

養育院費

癲狂院費

避病院保存費

流行病豫防費

府廳舍建築修繕費

府會費

浦役場及難破船費

堤防修築費

但從前國庫支辨ノ分

日本堤修築費

師範學校費

東京府布達 十四年七月二十八日 甲第百六號 郡部并伊豆七島小笠原島ヲ除ク
客歲甲第百號ヲ以布達シタル瓦斯燈費火災豫防費ノ二項ハ本年第八號公布第七條ニ仍リ更ニ區部地方 稅費目ヘ相加候條此旨布達候事

東京府達 十四年八月六日 乙第百八十八號 郡區役所戸長役場
各郡四宿并八百戸以上ノ町村戸長役場借上料地方税ヨリ支辨ノ儀明治十三年度限り廢止候條此旨相達 候事

十五年七月東京府甲第 八 十六號布達ヲ以テ第三條 中ヲ附加ス
十六年五月東京府甲第 二 十一號布達ヲ以テ第三條 中ヲ改正追加ス
十七年五月東京府甲第十 六號布達ヲ以テ第三條中 ヲ改正ス
十八年五月東京府甲第 二 十九號布達ヲ以テ第三條 中ニ一項ヲ追加ス
十九年五月東京府第四十 六號布達ヲ以テ第三條中 ニ一項ヲ追加ス

東京府瓦斯燈費火災豫 防費ノ二項ヲ區部地方 稅費目ヘ加フ

東京府町村戸長役場借 上料地方税ヨリ支辨ヲ 廢ス

東京府區部地方税徴收
順序
十八年八月東京府内第百
九號ヲ以テ改定ス

但シ此達書到着迄ノ借上料ハ追テ相達スヘシ

東京府達 乙十四年十月八日
第百十號 區役所

區部地方税徴收順序別紙之通相定候條明治十四年度後半期ヨリ右ニ照準取扱フヘシ此旨相達候事

區部地方税徴收順序

- 第一條 凡地方税ノ年税ニ係ルモノハ其納期前ニ於テ適宜納日ヲ定メ第一號雛形ニ照シ納ノ證書ヲ作
リ納税者ニ配付シ納税者税金ヲ納ルトキハ其配付シタル納税證書ニ區役所領收ノ印及ヒ主任ノ認印
ヲ捺シ付與スヘキモノトス
- 第二條 同上月税ニ係ルモノハ初月納期前第二號雛形ニ照シ納税證書ヲ配付シ納税者税金ヲ納ルトキ
ハ其納税證書當月ノ欄内ニ區役所領收印及ヒ主任ノ認印ヲ捺シ付與スヘキモノトス
- 第三條 納税者若シ納税證書ヲ遺失シ税金ヲ納ルトキ持參セサル者ハ第三號雛形ニ照シ納税證書遺失
屆簿ニ記名捺印セシメ更ニ納税證書ヲ作り區役所ノ領收ノ印及ヒ主任ノ認印ヲ捺シ付與スヘキモノ
トス
- 第四條 若シ納期ヲ過キ納税セサルトキハ郵便又ハ使員ヲ派遣シ督促スヘシ猶ホ納メサルキハ成規ニ
照ラシ處分スヘシ
- 第五條 年税ハ期限後三箇月 第一期ハ十月三十日 第二期ハ四月三十日 月税ハ其翌月ヲ限リ第四號雛形ニ照シ假決算表ヲ製
シ差出スヘシ其事故アリテ猶豫スヘキモノ及ヒ特ニ延期ヲ與フヘキモノハ詳細事由ヲ具申シ指揮ヲ
乞フヘシ
但シ二季決算帳及ヒ毎月差出ス實收表ハ從前ノ通り

十五年十一月東京府内第
三十三號ヲ以テ第五條中
改正ス

第六條 其時時收入スヘキ税ハ第四條ニ照準處分スヘシ
第一號 用紙(西ノ内六ツ切)

(公印ハ朱也)

十四年十二月東京府乙第
百四十一號達ヲ以テ改正
ス

協議費ヲ同時ニ收
入スルトキハ此處
ヘ記入スヘシ

記

一金何程 主任
認印 何 税

但シ何年何月ヨリ何月迄ノ分

右來ル何月何日午前何時無遲滯可相納事

但シ此證書ハ税金上納ノトキ餘白へ領收ノ證印ヲ捺
シ付與スヘキニ付納税ノ節必ス持參スヘシ

明治何年何月何日

何 某 殿 主任
認印

東京府何區長何某 官印

明治何年何月何日 何役何
收所區

方五分

第二號用紙西ノ内四ツ切

(△印ハ朱書)

十四年十二月東京府乙印
百四十一號建ヲ以テ改正
ス

縦六分横三分
但シ年度ノ共ニ
於テ開業スル者
ハ當月ノ欄内ニ
此印ヲ捺スヘシ

記
一金何程
但シ一箇月分
何税

右毎月二十日午前何時無遅滞可相納事

但シ此證書ハ税金上納ノトキ當月ノ欄へ領收ノ證印
ヲ捺シ付與スヘキニ付納税ノ都度必ス持參スヘシ
明治何年何月何日

東京府何區長何某官印

何某殿

明治何年何月分
開業 何月何日
主在 認印
何役何區 収所區

明治何年何月分
廢業 何月何日

明治何年何月分
何月何日

明治何年何月分
何月何日

明治何年何月分
何月何日

明治何年何月分
何月何日

開業印
ト同シ

第三號用紙通
常野紙

明治何年何月分 何月何日	明治何年何月分 何月何日
明治何年何月分 何月何日	明治何年何月分 何月何日
明治何年何月分 何月何日	明治何年何月分 何月何日

納税證書遺失届簿

何區役所

豫テ御配付相成候納稅證書遺失候ニ付其段相届候處更ニ御渡シ相成正ニ領收候也

明治何年何月何日

何町何番地

何 某

印

明治何年何月何日

何町何番地

何 某

印

第四號

用紙通常封紙

地方稅未納上申

一金何程

何年度(前後半年) 又ハ何月 營業 雜 業 地 租 割 割 稅 戶 數 割

內

金何程

既 納

金何程

未 納

右者當報告期ニ於テ(甲又ハ乙丙丁戊己庚)表中書面之通り未納金有之依テ別紙仕譯書相添此段上申仕候也

明治何年何月何日

何區長何某印

東京府知事何某殿

未納仕譯書

一金何程

未 納 高

內

金何程

會 社 稅

十五年十一月東京府丙第 三十三號ヲ以テ第四號 表ヲ改定ス

內

金何程

何町何番地

何

社

但何何事故有之即今何何取計中

金何程

何町何番地

何

某

但何何事故有之到底徵收難相成追テ本決算之節損失金ニ可相成分

金何程

製 造 所 稅

內

金何程

何町何番地

何

某

但書前例ニ準ス

(以下一稅目毎ニ前例ニ準シ列記スヘシ)

右之通候也

明治何年何月何日

何區長何某印

東京府知事何某殿

第四號附屬用紙(以下皆同シ)

甲 號

明治何年度(前後半年)營業稅假決算表

一箇數	等 級	目 目	會 社	卸 賣 商	仲 買 商	小 賣 商	雜 商	小 計
-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-----	-----

租稅門

地方稅

十	等八十			等七十			等六十			等五十			等四十			等三十			等二十			等一十			等	
	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額		

二百七十九

租稅門

租稅門

地方稅

十	等九			等八			等七			等六			等五			等四			等三			等二			等		
	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額			

二百七十八

租稅門
地方稅

等二十二			等一十二			等十二			等九十			等八十			等七十			等六十			等五十			等四十		
戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數

租稅門
地方稅

等三十			等二十			等一十			等十			等九			等八			等七			等六			等五		
戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數	戶數	稅額	箇數

明治何年何月何日

東京府知事何某殿

何區長何某印

丁號

明治何年度前後半年車稅假決算表

種目	稅額		車數	收稅額
	前半年	後半年		
二匹立馬車	自用金九圓	營業金一圓五十錢		
一匹立馬車	自用金六圓	營業金一圓		
荷積馬車	金五十錢			
自用人力車	一人乘金四圓	二人乘金二圓		
牛車	金五十錢			
自轉車	金五十錢			
荷積大車	金五十錢			
荷積小車	金二十五錢			
合計				

右之通候也

明治何年何月何日

東京府知事何某殿

何區長何某印

戊號

明治何年度何月分定分稅假決算表

種目	稅額		增減	現員	收稅額	增減	現員	收稅額
	前半年	後半年						
料	一等金十圓	二等金八圓						
理	三等金六圓	四等金四圓						
屋	五等金三圓	六等金二圓						
小	七等金一圓	八等金五十錢						
計	九等金二十五錢	十等金十錢						
飲	一等金十圓	二等金八圓						
三	三等金六圓	四等金四圓						
四	四等金四圓	五等金三圓						
合計								

遊覽所同	遊藝師匠	金二十五錢	計	合計
	間	金二圓		
藝妓	藝妓	金三圓	計	合計
	少藝妓	金一圓五十錢		
妓	小		計	合計

右之通候也

明治何年何月何日

東京府知事何某殿

何區長何某印

己號

種目	湯屋	午前開場	金二圓	種目	稅額	增減	現	員	稅額
	午後開場	金一圓	計		額				
理髮床	一人ノ者	金一圓	種目	稅額	增減	現	員	稅額	
	二人以上ノ者	金五十錢		額					
履人請宿	小	金五圓	計	額					

明治何年度後前半年雜種年稅賣藥稅漁業稅假決算表

水車	紡織等ニ用ユル	金五圓	乘馬	營業	金一圓	賣藥	稅	金二十錢	漁業	稅	金三十錢	探藻	稅	地租三分ノ一	合計
	挽日五箇以上	金五圓		自	金三圓		稅	金二十錢		稅	金二十錢				
同未滿一箇	持日二十五箇以上	金五圓	小計	小計	金二十錢	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
	同未滿一箇	金二十錢		合計	合計		合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

右之通候也

明治何年何月何日

東京府知事何某殿

何區長何某印

庚號

造石	等級	乘率	平屋坪數	二階坪數	三階以上坪數	合計坪數	箇	數	稅額	戶數
	一等	五〇								
二等	四五									

明治何年度後前半年戶數割稅假決算表

合	小計	造									小計					
		木					土									
		九等	八等	七等	六等	五等	九等	八等	七等	六等						
		一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇

右之通候也

明治何年何月何日

東京府知事何某殿

何區長何某印

東京府明治十四年度以
堤塘使用料收入方

東京府達 十四年十月二十六日 區役所 戸長役場
堤塘使用料ノ義明治十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス其使用地ノ修繕地方税負擔ニ係ルモノハ地方

東京府區部地方税徴收
順序確形中ヲ改正ス

稅收入ノ部へ組入協議費負擔ニ係ルモノハ協議費支出ノ町村へ堤塘修繕費ニ下渡スヘシ尤モ連帶支辨
ニ係ルモノハ其主擔ノ方へ屬スヘシ且ツ用水土揚敷使用料ノ儀モ該地修繕費トシテ協議費支出ノ町村
へ下付候條此旨相達候事

東京府達 十四年十二月二十二日
乙第百四十一號 區役所

本年乙第百十號達第一號第二號納稅證書別紙ノ通改正候條此旨相達候事

第一號 用紙西ノ
内六ツ切

(△印ハ朱書)

記

一金何程

何區何町何番地

何 某

但シ何稅何年何月ヨリ何月迄ノ分

右來ル何月何日午前何時無遲滯可相納事

但シ此證書ハ税金上納ノキ餘白へ領收ノ證印ヲ捺シ付與スヘ
キニ付納稅ノ節必ス持參スヘシ

明治何年何月何日

東京府何區長何某

明治何年何月何日

方五分

協議費ヲ同時ニ
收入スルキハ此
處へ記入スヘシ

第二號 用紙西ノ内四ツ切

記

一金何程 (主認印任)

何區何町何番地

何 某

但シ何税一箇月分

右毎月二十日午前何時無遅滞可相納事

但シ此證書ハ税金上納ノトキ當月ノ欄ヘ領收ノ證印ヲ捺シ付
與スヘキニ付納税ノ都度必ス持參スヘシ

明治何年何月何日

東京府何區長何某

官印

縱六分横三分
但シ年度ノ央ニ於テ開業スル者ハ當月ノ欄内ニ此印ヲ捺スヘシ

明治何年何月何日 (主認印任)

明治何年何月何日 (廢業)

明治何年何月何日 (領收所區)

明治何年何月何日

明治何年何月何日

明治何年何月何日

開業印シト

明治何年何月何日	明治何年何月何日
何月何日	何月何日
明治何年何月何日	明治何年何月何日
何月何日	何月何日
明治何年何月何日	明治何年何月何日
何月何日	何月何日

東京府郡區町村支辨ノ經費負擔割合申付前
二十年十二月東京府令第
七十二號ニ依テ削減ス

東京府布達 十五年七月五日
第八十六號伊豆七島小笠原島ヲ除ク

明治十四年七月甲第九十八號布達郡區連帶支辨ノ經費負擔割合第三條中府會ノ決議ヲ經テ左ノ通り加除
シ本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

第三條

警察費ノ次へ左ノ一項ヲ加フ

警察廳舎建築修繕費 消防費 水防費

府會費ノ次へ左ノ一項ヲ加フ

農商工諮問會費

堤防修繕費日本堤修築費ノ二項ヲ刪リ左ノ一項ヲ加フ

堤防修築費

但荒川多摩川江戸川中川綾瀬川新川及須崎并砂村海岸湖除堤防日本堤堤防修築費

東京府達 十五年七月十日
第七十二號郡區役所戶長役場浦役場

東京府地方費小科目流
用ヲ許サス

租稅門 地方稅

二百九十六

十六年七月東京府丙第百五號達ヲ以テ流用ヲ許ス

東京府地方稅金送納社
證券書式

十七年二月東京府丙第百十七號達ヲ以テ本達中ヲ加除ス

十七年六月東京府丙第百十四號達ヲ參照スヘシ
十七年七月東京府丙第百三號ヲ以テ書式中ノ宛名ヲ改ム

東京府達 丙十五年九月九日
丙十六年九月九日
丙郡區役所

地方稅金送納ノ節差出スヘキ仕譯書ハ明治十五年度ヨリ左ノ書式ニ照準スヘシ此旨相達候事

何年度前半年分

一金何程 (毎項金員ノ處ヘ主) 地方稅

但 何號何號 納證何枚

內

金何程

金何程

內

金何程

內

金何程

金何程

金何程

金何程

內

金何程

地租割稅
營業稅

商業稅

商業稅

賣藥請賣及行商稅

旅館屋稅

工業稅

雜種稅

料理屋稅

金何程

金何程

金何程

金何程

金何程

金何程

金何程

右納候也

年月日

東京府知事某殿

何年度分

一金何程 (毎項金員ノ處ヘ主) 雜收入

但 何號何號 納證何枚

內

金何程

金何程

金何程

右納候也

年月日

東京府知事某殿

何稅

但 何年度ニ於テ未納又ハ
損失ニ歸セン分追徵

何稅

但 何何

何郡區長某印

租稅門 地方稅

二百九十七

東京府區部租税取集方規則
規期
十六年五月東京府甲第二十六號布達ヲ以テ廢ス
十五年十二月東京府丙第三十五號達ヲ以テ取扱手續ヲ定ム

東京府布達 甲第五十一月二十二日 乙七島小笠原島ヲ除ク
區部租税取集方規則別紙ノ通相定メ明治十六年一月一日ヨリ施行ス
右布達候事
(別紙)

區部租税取集方規則

- 第一條 租税取集方ヲ置キ各區役所ニ於テ徵收スル租税ヲ納人ニ就テ取立シムルモノトス
- 第二條 租税取集方ハ銀行中確實ト認ムル者ヲ撰テ之ヲ命スルモノトス
- 第三條 租税取集方及其派出員ハ預テ其印鑑ヲ製シ各區役所へ差出シ置クヘシ各區役所ニ於テハ其印鑑ヲ證憑トシテ租税取集方ニ係ル一切ノ請渡シヲ爲スヘシ
- 第四條 租税取集方ノ手数料ハ其取立タル租税金高百分ノ二ヲ限リ支給スヘシ
- 第五條 租税取集方ハ各區役所ヨリ其時時下渡ス領收證ノ金高ニ應スル保證トシテ公債證書ヲ時價ヲ以テ各區役所へ差出シ置クヘシ
- 第六條 各區役所ハ各納人へ徵收通知書^{甲號}ヲ送付シ納人宛ノ領收證^{乙號}ヲ租税取集方ニ下附スルモノトス其日限ハ遅クモ徵收期日七日以前ト定ムヘシ
- 第七條 租税取集方ハ前條納人宛ノ領收證^{乙號}ヲ受ケ之ト引換ニ租税金ヲ取立ツヘシ
- 第八條 租税取集方ニ於テ前條取立タル租税金ハ國稅地方稅ヲ區別シ三日以内ニ爲換方金券ヲ以テ各區役所へ納ムヘシ然ル上ハ其金高ニ應シ保證品ノ返附ヲ乞フコトヲ得
- 第九條 租税取集方ハ其取立ニ巡回シ若シ納人ニ於テ當日納金スル能ハサルトキハ巡回コトニ其手帖ニ納人又ハ其家人ノ認印ヲ取ルヘシ其闕戸不在ノトキハ差配人又ハ隣保ニ囑シ其認印ヲ取ルヘシ而シテ三度ノ認印ニ及ヒ徵收期限ヲ過レハ直チニ區役所へ開申スヘキモノトス區役所ハ其認印ヲ調査シ怠納者召喚狀ヲ租税取集方ニ下附シ怠納者へ達セシメ怠納處分ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第十條 若シ租税取集方ニ於テ其取立ヲ怠リ徵收期限ヲ過ルトキハ其金額繰替納ヲ爲サシメ更ニ第七條又ハ第九條ノ手續ヲ終レハ繰替金ヲ返附スヘシ
- 第十一條 租税取集方ニ於テ其取立タル租税金ノ取扱中天災人爲ヲ論セス災害ノ爲メニ之ヲ亡失スルアリト雖モ總テ租税取集方ノ負擔タルヘシ
- 第十二條 租税取集方ニ於テ若シ既ニ取立タル租税金ヲ第八條ノ期限ヲ過キ納メサルトキハ預テ差出シタル保證品ヲ公賣シテ之ヲ辨納セシメ其他租税取集方ノ怠慢ニ由テ生シタル損失ハ悉皆辨納セシムルモノトス
- 第十三條 租税取集方ノ任期ハ年限ナシ府廳ハ時宜ニ由リ罷免スルコトヲ得ヘシ

年税ノ部

(△印ハ朱印)

甲號切符 配達ノ日 ヲ記入ス	何年何月 何日發	第何號	何町何番地	何之某
主任認印 蓋シ此照 合シ此印 ヲ捺スヘシ	一金何程 ○△			何年度何稅
	一金何程 ○△			何年度何稅
	合金何程 ○△			何年度何稅

主任認印 區役所 割印	
乙 第何號 何町何番地 何之某 何年度何税 一金何程 ○ 一金何程 ○ 合金何程 ○	右正ニ領收候也 明治何年何月何日 東京府何區長何某官印
甲 第何號 何町何番地 何之某 何年度何税 一金何程 ○	税金取集方印 此印ハ納人へ交付ノ際之ヲ捺スヘシ

主任認印

切符雛形
月税ノ部

主任認印

右來ル何月何日限可相納候也 此徴収通知書切符ノ金員ハ之ト割印シタル領收證切符ト引換租税取集方へ相渡スヘシ 明治何年何月何日 東京府何區長何某官印	何年度何税 一金何程 ○ 合金何程 ○
第何號 何町何番地 何之某 何税何月分 一金何程 ○ 但云云	區役所割印 以下同シ

主任認印
以下同シ

甲 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右本月二十日限可相納候也

此徴収通知書^甲符^乙ノ金員ハ之ト割印シタル領收證^乙符^ト引換租税取集方へ相渡ス
明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

割印

乙 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右正ニ領收候也

明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

主任認印
以下同シ

租税取集方印此ハ納人ノ際ニ交ハテ捺ス

甲 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右本月二十日限可相納候也

此徴収通知書^甲符^乙ノ金員ハ之ト割印シタル領收證^乙符^ト引換租税取集方へ相渡ス
明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

割印

乙 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右正ニ領收候也

明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

甲 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右本月二十日限可相納候也

此徴収通知書^甲符^乙ノ金員ハ之ト割印シタル領收證^乙符^ト引換租税取集方へ相渡ス
明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

割印

乙 第何號 何町何番地 何之某
一金何程〇 何税何月分

右正ニ領收候也

明治何年何月何日

東京府何區長何某^{官印}

甲 第一何號 何町何番地 何之某
 一金何程○ 何税何月分

右本月二十日限可相納候也
 此徴収通知書印符ノ金員ハ之ト割印シタル領収證乙號ト引換租税取集方ヘ相渡スヘシ

明治何年何月何日
 東京府何區長何某 官印

甲 第一何號 何町何番地 何之某
 一金何程○ 何税何月分

右本月二十日限可相納候也
 此徴収通知書印符ノ金員ハ之ト割印シタル領収證乙號ト引換租税取集方ヘ相渡スヘシ

明治何年何月何日
 東京府何區長何某 官印

乙 第一何號 何町何番地 何之某
 一金何程○ 何税何月分

右正ニ領收候也
 明治何年何月何日
 東京府何區長何某 官印

乙 第一何號 何町何番地 何之某
 一金何程○ 何税何月分

右正ニ領收候也
 明治何年何月何日
 東京府何區長何某 官印

東京府地方稅徵收順序
 中ヲ改正ス
 十六年九月東京府丙第百
 二十八號達ヲ以テ廢ス

東京府達 丙十五年十一月二十八日
 客歲十月乙第百十號ヲ以テ相達候地方稅徵收順序第五條中假決算表ノ四字ヲ刪リ報告表ノ三字ヲ挿入
 シ及其事故以下ノ四十二字ヲ刪リ第四號雜形別表ノ通リ改定候條此旨相達候事
 但本年度前半分年稅及ヒ月稅七月ヨリ十月マテノ分ハ各通ニ取調十一月三十日限リ差出スヘシ

明治何年度何半年地方稅報告甲號表

種	目	稅額	現	員	增員	減員	稅金	船	船																			
									請賣及ヒ行商稅	賣	客間ナキ飲食店稅	客間ナキ料理屋稅	工業稅	商業稅	長	長	長	長										
		金二十錢						長	十二間	金七十七錢五釐	長	十一間	金七十錢	長	十間	金六十二錢五釐	長	九間	金五十五錢	長	八間	金四十七錢五釐	長	七間	金四十錢	長	六間	金三十二錢五釐

料	一等	金十圓	軒	前	員	增員減員	稅	金	月
	二等	金八圓							
三等	金六圓								
種	目	稅額	軒	後	員	增員減員	稅	金	月

明治何年度何月分地方稅報告乙號表

税金合計	地租	家屋稅	乘馬稅		水車稅				理髮床稅	
			計	自營業	計	撻日二十五個未滿一個	撻日二十五個以上	撻日五個未滿一個		撻日五個以上
		金五錢	金三圓	金一圓	金二十錢	金五圓	金一圓	金五圓	金一圓	

税金合計	湯屋稅	車稅								稅						
		計	荷積小車	荷積大車	自轉車	牛車	自用人力車		荷積馬車		一匹立馬車		二匹立馬車			
							一人乘	二人乘	自用	營業	自用	營業	自用	營業		
	金二圓		金二十五錢	金五十錢	金五十錢	金一圓	金二圓	金五十錢	金二圓	金一圓	金三圓	金一圓五十錢	長二間未滿	長三間	長四間	長五間

東京府地所家屋所有地
外ニ住居スル者納税方

東京府布達 甲十五年十二月二十日 伊豆七島小笠原島ヲ除ケ
本年十一月 當廳甲第百三十二號ヲ以テ租税取集方規則施行候ニ付テハ地所及ヒ家屋所有人若シ其地所家
屋所在ノ区内ニ住居セサルキハ必ス該区内ニ於テ納税ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱フヘキ代人ヲ定メ置豫
テ其住所姓名ヲ該區役所ヘ届置ヘシ
右布達候事

東京府區郡租税取集方
規則取扱手續ニ第十一
條ヲ追加ス

東京府布達 丙十五年十二月二十一日
本年當廳丙第三十五號租税取集方規則取扱手續ヘ更ニ左ノ條ヲ追加候條此旨相達候事
第十一條 規則第六條ニ由リ下附スル領收證(乙號)ハ其請取タル日ヲ記入スヘキ筈ニ付區役所ニ於テ
ハ關字ノ儘下附シ租税取集方ニ於テ記入セシムヘシ

東京府區郡廳費支辨ノ
經費負擔割合ヲ改正追
加ス

東京府布達 甲十六年五月十日 伊豆七島小笠原島ヲ除ケ
明治十四年七月 甲第九十八號布達區郡聯帶支辨ノ經費負擔割合第三條中府會ノ決議ヲ經テ左ノ通改正追
加ス

第三條
第九項左ニ改正

傳染病豫防費
堤防修築費ノ次ヘ
郡區ノ戸數ヲ準トシ區
ハ郡ノ四倍ヲ負擔ス

區部大川筋并小名木川新川浚渫及河岸修繕費
但堤防水勿ハ此限ニ非ス
郡區ノ戸數ヲ準トシ區
ハ郡ノ五倍ヲ負擔ス

郡區ニ接續スル橋梁架換修繕費
郡區ノ戸數ヲ準
トシ負擔ス

師範學校費ノ次ヘ
中學校費

郡區ノ戸數ヲ準トシ區
ハ郡ノ五倍ヲ負擔ス

右布達候事

東京府區郡租税取集方
規則ヲ廢ス

東京府布達 甲十六年五月十一日 伊豆七島小笠原島ヲ除ケ
明治十五年當廳甲第三十二號布達區郡租税取集方規則本年六月限り廢止ス
右布達候事

東京府達 十六年七月三日 伊豆七島小
區部地方税徵收規則別冊ノ通り相定メ本年七月ヨリ施行ス
但本文ニ牴觸スル從前ノ布達達ハ廢止ス

右布達候事

(別冊)

區部地方税徵收規則

第一條 地租割稅ハ地租ノ納期ニ於テ之ヲ前收スヘシ但シ年度ノ末ニ於テ地租額ニ増減ヲ生スルキハ
之ヲ更正スルモノトス

第二條 營業稅雜種稅ヲ賦課スヘキモノ(賣藥請賣及ヒ)開廢業ノ節ハ其區役所ヘ届出ヘシ(警視廳ノ免
業スル者ハ其免)但市場遊藝稼人俳優相撲ハ其頭取若クハ座元總代年寄總代等ノ連署ヲ以テ直ニ府廳
許證ヲ添ヘシ)ハ届出ツ可シ

遊藝稼人ノ等級ハ頭取ヨリ俳優ノ等級ハ座元總代ヨリ相撲ノ等級ハ年寄總代ヨリ府廳ヘ届出ツ可シ
其等級ハ郡區ヲ通シテ之ヲ設クルモノトス但等級變更アルモ此例ニ依ル

十八年五月東京府甲第三十五號布告以下第五條第七條第十二條ノ徵收期日ヲ改ム

第三條 賣藥請賣及ヒ行商開廢業手續ハ明治十年第七號布告ニ據ルヘシ
第四條 乘馬ハ營業自用ヲ問ハス其持主ヨリ頭數ヲ區役所ヘ届出ヘシ其増減若クハ變換(營業ヲ自用ニアルモ亦此例ニ依ル)

第五條 年稅前半年度分ハ八月末日迄後半年度分ハ二月末日迄ニ區役所ヘ納ムヘシ其國稅アルモノハ國稅徵收ノ期限ニ依ル但區役所ハ適宜區内ヲ部分シ本文期限内ニ於テ徵收時日ヲ定ムルヲ得

第六條 月稅ハ毎月二十日限リ日稅ハ十二日目ニ區役所ヘ納ムヘシ但遊藝稼人俳優相撲ノ税金ハ直ニ府廳ヘ納ムルモノトシ其頭取座元總代年寄總代等ヲ以テ之ヲ納ムルヲ得

第七條 市場稅前半年度分ハ八月末日迄後半年度分ハ二月末日迄ニ其頭取ヨリ直ニ府廳ヘ納ムヘシ
第八條 劇場諸興行遊藝所稅ハ五日目毎ニ劇場ハ座元諸興行遊藝所ハ其願人ヨリ上リ高仕譯書ヲ添ヘ其區役所ヘ納ムヘシ但開場五日以内ノモノハ其閉場ノ日之ヲ納ムヘシ

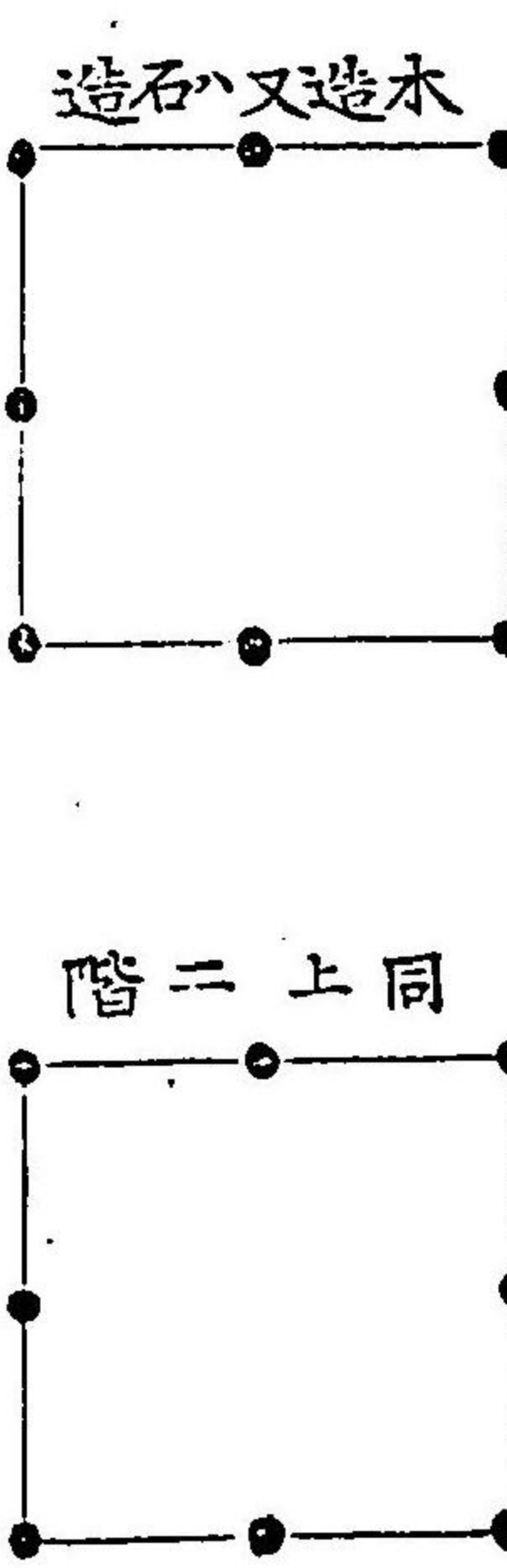
第九條 屠畜稅ハ屠殺前畜養主ヨリ屠殺場所在ノ區役所若クハ戶長役場ヘ納メ領收證ヲ受取ルヘシ屠殺場管理人ハ税金領收證ニ照シ頭數ヲ檢査シ屠殺ノ上ハ其領收證書面ヘ屠殺濟ノ文字ヲ朱書シ納稅者ニ返付スヘシ

第十條 家屋稅ハ民有ノ建物ニ賦課シ其所有者ヨリ徵收スルモノトス
第十一條 建物所有者ハ左ノ書式ニ倣ヒ建坪ヲ記載シ建物所在ノ區役所ヘ届出ヘシ其増減變換アルモ亦此例ニ依ル

書式 用紙半紙
二ツ折

何町何番地
一石造又ハ煉化造土藏造
一同上二階又ハ三階
一木造
何坪
何坪
何坪

圖面ノ式 何町何番地建物



一同上二階又ハ三階
何坪
何町何番地
右所有人
何之誰 印
年月日

(朱書)
會社其他共有建物ノ届ハ頭取若クハ總代人等署名スヘシ
第十二條 家屋稅前半年度分ハ八月末日迄後半年度分ハ二月末日迄ニ區役所ヘ納ムヘシ但區役所ハ適宜區内ヲ部分シ本文期限内ニ於テ徵收時日ヲ定ムルヲ得

東京府達 十六年七月三日
甲第三十七號 小笠原島ヲ除
郡部地方稅徵收規則別冊ノ通り相定メ本年七月ヨリ施行ス
但本文ニ抵觸スル從前ノ布達達ハ廢止ス
右布達候事
(別冊)

東京府郡部地方稅徵收規則
十九年二月東京府甲第三十號達ヲ以テ廢ス

十八年八月東京府甲第五
十五號布達ヲ以テ第一條
ヲ改正ス

郡部地方税徴收規則

第一條 地租割税ハ地租ノ納期ニ於テ之ヲ前收スヘシ但年度ノ末ニ於テ地租額ニ増減ヲ生スルキハ之ヲ更正スルモノトス

第二條 營業税雜種税ヲ賦課スヘキモノ(行商ヲ除ク)開廢業ノ節ハ其戶長役場ヘ届出ヘシ(審視廳ノ其免許證ヲ添ヘシ)但遊藝稼人俳優相撲ハ其頭取座元年寄總代等ノ連署ヲ以テ直ニ府廳ヘ届出ヘシ

遊藝稼人ノ其等級ハ頭取ヨリ俳優ノ等級ハ座元總代ヨリ相撲ノ等級ハ年寄總代ヨリ府廳ヘ届出ヘシ其等級ハ郡區ヲ通シテ之ヲ設クルモノトス但等級變更アルモ此例ニ依ル

第三條 賣藥受賣及行商開廢業手續ハ明治十年第七號布告ニ據ルヘシ

第四條 乘馬ハ營業自用ヲ問ハス其持主ヨリ頭數ヲ戶長役場ヘ届出ヘシ其増減若クハ變換(營業ヲ自用ニ業)アルモ亦此例ニ依ル

第五條 年税前半年度分ハ八月末日迄後半年度分ハ二月末日迄ニ戶長役場ヲ經テ郡役所ヘ納ムヘシ其國稅アルモノハ國稅ノ徵收期限ニ據ルヘシ

第六條 月税ハ毎月二十日限リ日税ハ十日目毎ニ戶長役場ヲ經テ郡役所ニ納ムヘシ但遊藝稼人俳優相撲ノ税金ハ直ニ府廳ヘ納ムルモノトシ其頭取座元總代年寄總代等ヲ以テ之ヲ納ムルヲ得

第七條 劇場諸興行遊覽所税金ハ五日目毎ニ劇場ハ座元諸興行遊覽所ハ其願人ヨリ上リ高仕譯書ヲ添ヘ戶長役場ヲ經テ郡役所ヘ納ムヘシ但開場五日以内ノモノハ其閉場ノ日之ヲ納ムヘシ

第八條 屠畜税ハ屠殺前畜養主ヨリ屠殺場所所在ノ區役所若クハ戶長役場ヘ納メ領收證ヲ受取ルヘシ屠殺場管理人ハ税金領收證ニ照シ頭數ヲ檢査シ屠殺ノ上其領收證書面ヘ屠殺濟ノ文字ヲ朱書シ納稅者ニ返付スヘシ

第九條 戶數割税ハ一戶ノ使用ニ屬スル家屋倉庫等ノ建坪ヲ目安トシテ賦課シ其使用者ヨリ徵收スルモノトス

第十條 建物使用者ハ左ノ書式ニ倣ヒ建坪ヲ記載シ建物所在ノ戶長役場ヘ届出ヘシ其増減變換アルモ亦此例ニ依ル

書式 用紙半紙
二ツ折

何町何番地

一石造又ハ煉瓦造土藏造

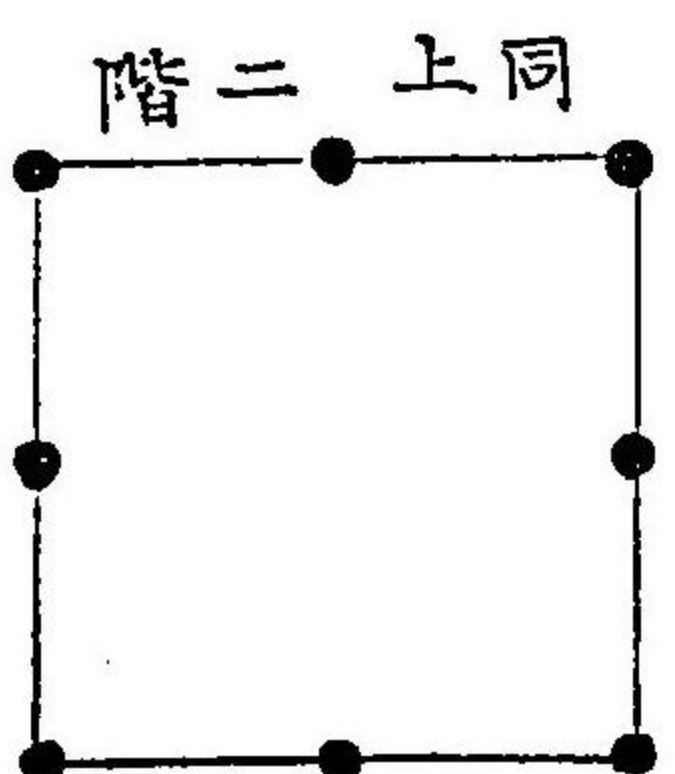
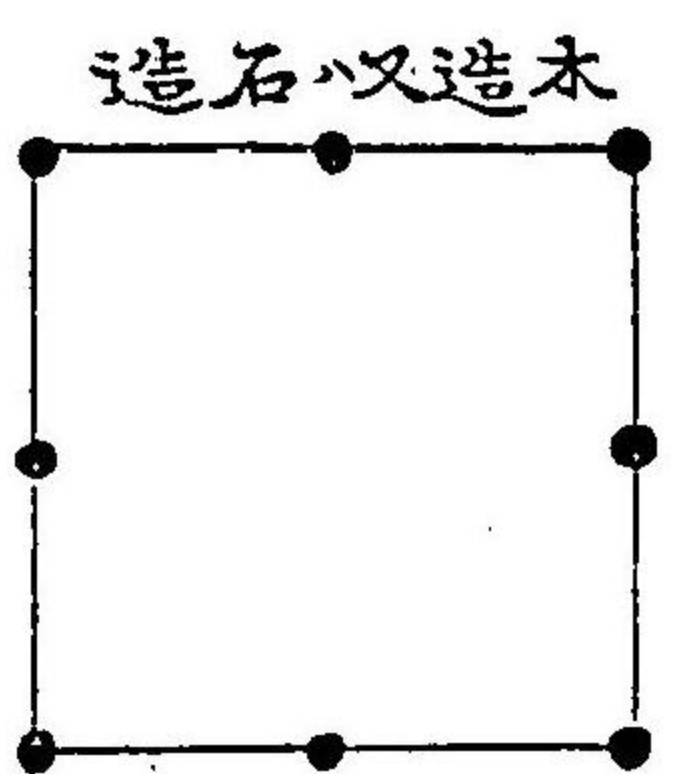
一同上二階又ハ三階

一木造

一同上二階又ハ三階

圖面ノ式

何町何番地建物



何 坪

何 坪

何 坪

何 坪

何町何番地建物

何町何番地 何之誰印

何町何番地 何之誰印

家主 何之誰印

何町何番地 何之誰印

年月日

借家ナルキハ家主ノ調印ヲ要スル左ノ如シ

會社其他二人以上ノ共用ニ係ルモノハ頭取若クハ總代等署名スベシ

第十一條 貸藏納屋ノ類ニシテ使用者ヲ定ムル能ハサル建物ニ限リ其所有者ヨリ徵收スルモノトス

第十二條 戸數割稅前半年度分ハ八月末日迄後半年度分ハ二月末日迄ニ戸長役場ヲ經テ郡役所ヘ納ム

ハシ

東京府地方税小科目流用ヲ許ス

東京府達 十六年七月十七日 丙第百五號 役場下浦役場

明治十五年 月乙第七十二號ヲ以テ地方費流用方之儀相達置候處自今小科目ニシテ止ムヲ得サル事故アリ流用支辨ヲ要スルトキハ直ニ流用スルヲ得ヘシト雖モ大科目ニ於テ彼是流用セントスル場合ニ於テハ其狀ヲ具シ指揮ヲ乞フヘシ此旨相達候事

東京府租稅徵收額報告

東京府達 丙第百二十八號 郡區役所

租稅徵收額報告ノ儀自今別紙之通可相心得就テハ目下國稅租稅局東京出張所ヘ報告濟ノ分及ヒ地方税本年前半年度分ハ九月十日限リ差出スヘシ此旨相達候事

但十五年丙第三十三號同年丙第三十九號及ヒ本文ニ抵觸スル達ハ本年度ヨリ廢止ス

租稅報告期限

一 國稅報告

一 地方稅報告

租稅局東京出張所ヘ報告ト同時
但報告後稅額ニ増減ヲ生スル
トキハ其時追報スヘシ
前半年度ハ七月三十一日限
但前同斷

租稅報告書式

明治何年度國稅徵收額報告

一金何程

何 稅(課入小)第何期

一金何程

又ハ何 稅(課入小)前後半期

合計金何程

右之通候也

何郡區長 姓名印

明治何年何月何日

東京府知事宛

明治何年度地方稅徵收額報告

一金何程

何 稅小科目前後半期

一金何程

何 稅小科目同上

一金何程

何 稅小科目同上

合計金何程

△月稅及ヒ上リ高稅ハ半年度分ヲ見積リ記入スヘシ

右之通候也

明治何年何月何日

何郡區長 姓名印

東京府知事宛

東京府地方稅金送納仕
認書書式中ヲ加除ス

東京府達 丙第百二十七號 郡區役所

明治十五年 月丙第六號ヲ以テ相達置候地方稅金送納ノ節差出スヘキ仕譯書書式中左ノ通加除候條此旨相達候事

雜種稅中採藻稅ノ前項ヘ左ノ通追加ス

租稅門 地方税

金何程

内 (屠畜主ノ所)
(在テ分ツ)

屠畜税

金何程

區部

金何程

區部

商業税中旅籠屋税及雜種税中漁業税ノ二項ヲ删除ス

東京府布達 十七年五月十三日
甲第九號伊豆七島ヲ除ク

明治十四年 甲第九十八號布達郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合合法中府會ノ決議ヲ經テ左ノ通改正追加ス

第三條第十七項改正

師範學校費

第四條追加

金高ノ六分八釐ハ區ニ於テ負擔
シ三分二釐ハ郡ニ於テ負擔ス

郡區聯帶經費ニ屬スル雜收入豫算ハ府會ニ於テ之ヲ議定シ其經費負擔ノ割合ニヨリ之ヲ收入スルモノトス

右布達候事

東京府達 丙第七年六月十三日
丙第八十四號郡區役所

明治十五年 (九月) 丙第六號ヲ以テ相達置候地方税金送納仕譯書ノ儀ハ來ル十七年度ヨリ毎税内譯ヲ以テ稼續ト新規トナ區別シ差出スヘシ此旨相達候事

東京府達 丙第七年七月一日
丙第九十七號區役所

區部大下水及ヒ横切下水ノ新設修繕浚渫ハ十七年度ヨリ地方税ノ負擔トシ當廳ニ於テ整理候條此旨相達候事

東京府達 丙十七年七月四日
丙第九十八號區役所

地方税臨時檢査規程別紙之通相定候條本年十二月限整理候様取計フヘシ此旨相達候事
但施行中監査トシテ當廳主任官吏臨時令派出候條著手日限相定届出ヘシ
(別紙)

地方税臨時檢査規程

- 第一條 地方税臨時檢査ハ其區内ヲ數部ニ分チ主任書記ヲ派出セシメ第一部ヨリ順次著手スヘシ
- 第二條 檢査ノ節ハ納税者若シクハ其代人等ヲ現場ニ立會ハシムヘシ
- 第三條 家屋税及建坪ヲ準トスルモノハ其建坪臺帳及ヒ建坪圖面ヲ調製シ納税者ヲシテ調印セシムヘシ
- 第四條 檢査ハ先ツ家屋税及建坪ヲ準トスルモノヨリ著手シ順次他ノ諸税ニ及ホスヘシ
- 第五條 區長ハ其區内一般ノ檢査ヲ終リタル後訂正ニ係ルモノヲ調査シ實況表ヲ製シ當廳ヘ報告スヘシ

東京府布達 丙十七年七月五日
丙第三百三號郡區役所

十五年三月丙第六號達地方税金送納仕譯書及本年丙第三十六號達地方税金決算仕譯書書式中名宛ハ自今收税長宛ニ更正候條此旨相達候事

東京府布達 十八年二月二十七日
甲第九號伊豆七島小笠原島ヲ除ク

明治十七年甲第十六條布達中郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合第四條ヲ削除ス

東京府郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合中ヲ改正追加ス
二十年十二月東京府令第七十二號ニ依リ消滅ス

東京府地方税金送納仕譯書記地方

東京府區部大下水等修繕浚渫費ヲ地方税ノ負擔トス

東京府地方税臨時檢査規程

地方税金送納仕譯書及同決仕譯書書式中宛名ヲ改ム

東京府郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合合法第四條ヲ削除
二十年十二月東京府令第七十二號ニ依リ消滅ス

右布達候事

東京府達 丙十七年八月二十二日 郡區役所

地方税徴収額及皆納又ハ公賣處分ノモノハ別紙ニ準シ製表シ左ノ期限通り收税長へ報告スヘシ此旨相達候事

地方税徴収額報告表 前半期分ハ七月十五日限 後半期分ハ八月十五日限

但 報告後税額ニ増減ヲ生スルハ其時追報スヘシ

地方税皆納報告表 毎納期限後 二箇月以内

但 日税月税上リ高税及新規等ハ八月三十一日限

地方税不納公賣處分濟報告表 毎納期限後 四十日以内

但 日税月税及上リ高税等ニ係ルモノ前半月限 分ハ二月十日限 後半期分ハ八月十日限

(別紙) 用紙美濃梓野紙ヲ用ユ以下同シ

東京府地方税徴収額同 皆納及公賣處分報告表 式

十九年三月東京府丙第三 十九號ヲ以テ改正ス

明治何年度前後半期地方税徴収額報告表	
税目	金額
地租	金 何 程
戸家敷屋割税	金 何 程
營業	金 何 程
商業	金 何 程
工業	金 何 程
雜種	金 何 程
待合茶屋税	金 何 程
遊船宿税	金 何 程
合計	金 何 程

右之通候也

年月日

收税長宛

郡區長姓名印

明治何年度前後半期地方税皆納報告表						
税目	納額	既納額	損失金	同上月御聞	却勘金	同上月御聞
地租	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
戸家敷屋割税	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
營業	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
商業	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
工業	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
雜種	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
待合茶屋税	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
遊船宿税	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日
合計	金 何 程	金 何 程	金 何 程	何月幾日	金 何 程	何月幾日

何	何																				
合計																					

右之通候也

年月日

收税長宛

郡長姓名印

明治何年度前後半期地方税不納公賣處分濟報告表

税目	不納金額	公賣代價	没収物件員數	損失金額	不納者人員
地租	金 何 程	金 何 程	何 反 步	金 何 程	何 人
家屋敷割	、 、 、	、 、 、	何 箇		
營業稅					
商業稅					
工業稅					
雜種稅					
料理屋稅					
待合茶屋稅					
遊船宿稅					
合計					

右之通候也

年月日

收税長宛

郡區長姓名印

東京府郡區廳並支辨ノ
經費負擔割合法第三條
中一項ヲ追加ス
二十年十二月東京府令第
七十二號ニ依テ消滅ス

東京府郡區部地方税徴
收規則中ヲ改正ス

東京府地方税徴收順序

東京府布達 十八年五月十三日
甲第二十九號伊豆七島小笠原島ヲ除ク
明治十四年七月甲第九十八號布達郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合法第三條中府會ノ決議ヲ經テ左ノ一項ヲ
追加ス

東京灣浚浚費
右布達候事
郡區ノ戶數ヲ準トシ區
ハ郡ノ五倍ヲ負擔ス

東京府布達 十八年五月二十日
甲第三十五號伊豆七島小笠原島ヲ除ク
明治十六年甲第三十六號布達區部地方税徴收規則第五條第七條第十二條及同年甲第三十七號布達郡部
地方税徴收規則第五條第十二條ノ年稅ハ明治十八年度ニ限リ七月ヨリ十二月迄ノ分ハ八月末日迄一月
ヨリ三月迄ノ分ハ二月末日迄ニ納ムヘシ
右布達候事

東京府達 十八年八月十七日
丙第九號郡區役所戶長役場
地方税徴收順序別紙ノ通改定候條來ル明治十九年一月一日ヨリ右ニ照準取扱フヘシ此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ達指令ハ廢止ス

(別紙)

地方税徴収順序

- 第一條 凡地方税ノ徴収年税月税ニ係ルモノハ納期以前ニ於テ第一號雛形ニ據リ甲乙接續セル納税切符ヲ製シ一印ノ如ク元帳金額ト割印シ二印ノ如ク主任認印及三印ノ如ク甲乙割印ヲ捺シ之ヲ截斷シテ甲ヲ納税者ニ配付スヘシ
但月税上リ高税及新規開業等ノ時時收入ニ係ルモノモ第一號納税切符ヲ用フヘシ
- 第二條 納税者税金ヲ納ムルトキハ乙領收證ト四印ノ如ク割印及五印ノ如ク主任認印ヲ捺シ甲乙交換シテ其乙ヲ納税者ニ付與シ甲ハ役所役場ニ取リ置クヘシ
- 第三條 税金本納後若シ過誤納アルトキハ第二號書式ニ據リ其返付ヲ要求スヘシ
- 第四條 收税長ハ過誤納金返付ノ要求ヲ得タルトキハ第三號書式ニ據リ甲乙切符ヲ製シ甲ハ留置キ乙ハ郡區長ニ送付スルモノトス
- 第五條 郡區長ハ乙切符ヲ得テ其裏面ヘ年月日及自己ノ姓名ヲ記載捺印シ會計課長ヨリ該金員ヲ請取ヘシ
- 第六條 地方税決算後發見セシ過誤金ハ其事由ヲ具シ別途返付ヲ上申スヘシ
- 第七條 損失及勘定除却ハ第四號書式ニ據リ每納期後三十日己内ニ上申スヘシ

第一號

甲號切符配達ノ日ヲ記入ス

四印	領收 割印	乙 何年何月何日 何區何町何番地	何 某
	主任認印	何年何月何日 何區何町何番地	何 某
	領收 割印	何年何月何日 何區何町何番地	何 某
	主任認印	何年何月何日 何區何町何番地	何 某

五印

右領收候也

明治何年何月何日

東京府何郡區長何某 官印

一印押切

諸税及ヒ區町村費ヲ同時ニ收入スル片ハ此處ヘ記入スヘシ

役所	役場	印	何 某
甲 第何號	何郡何町何番地	何 某	何 某
領收 割印	何年何月何日	主任認印	何 某
領收 割印	何年何月何日	主任認印	何 某
領收 割印	何年何月何日	主任認印	何 某
領收 割印	何年何月何日	主任認印	何 某

五印

右來ル何月何日午前何時可相納事

但此證書ハ納税ノ節必ス持參スヘシ

東京府何郡區長何某 官印

(用紙美濃紙)

- 第二號 第何號 何年度 前半年分地方税
- 一金何程 但何年第何號本納仕譯書ノ内何何

小科目

何 税

東京府地方稅徵收規則
規則第一條ヲ改正ス

東京府布達 十八年八月二十五日
甲第五十五號(伊豆七島小笠原島ヲ除ク)
明治十六年甲第三十六號及同年甲第三十七號布達地方稅徵收規則第一條左ノ通改正ス

第一條 地租割ハ地租ノ納期ニ於テ左ノ割合ニ依リ之ヲ前收スヘシ但年度ノ末ニ於テ地租額ニ増減

ヲ生スルキハ之ヲ更正スルモノトス

一市街宅地 七月ヨリノ分三分ノ二
十二月迄

一同上 一月ヨリノ分三分ノ一
三月迄

一畑方及郡村宅地山 第一期 三分ノ二

一同上 第二期 三分ノ一

一田方 第四期 五分

一同上 第五期 五分

右布達候事

東京府地方稅徵收規則
二十年一月東京府令第五
號ニ依リ附載ス

東京府布達 十九年二月二十二日
甲第二十二號(伊豆七島小笠原島ヲ除ク)
地方稅徵收規則左ノ通り相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

右布達ス

但本文ニ抵觸スル從前ノ布達ハ廢止ス

地方稅徵收規則

第一章 第一條 地租割ハ地租ノ納期ニ於テ徵收スヘシ
但田方ハ第三第四ノ兩期ニ於テ徵收スヘシ

地租割

第二章

營業稅

第二條 商業工業ノ開廢(賣藥請買及行商ハ賣藥規則ノ手續ニ依ル)ハ區役所戶長役場ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第三條 營業稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但區戶長ハ右期限内ニ於テ徵收ノ時日ヲ定ムルコトヲ得

第三章

雜種稅

第四條 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人雇人請宿幫間藝妓演劇興行遊覽所遊技場人寄席水車屠畜場採藻ノ開廢業ハ區役所戶長役場ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第五條 乘馬ハ營業自用ヲ區別シ其持主ヨリ區役所戶長役場ヘ届出ヘシ

第六條 遊藝稼人相撲俳優ノ開廢業ハ其頭取年寄總代座元總代ノ連署ヲ以テ當廳ヘ届出ヘシ

第七條 客間アル料理屋飲食店及待合茶屋遊船宿幫間藝妓遊技場稅ハ毎月二十日迄ニ徵收スヘシ

第八條 遊藝稼人相撲俳優稅ハ毎月二十日迄ニ當廳ヘ納ムヘシ但頭取年寄總代座元總代ヲ以テ納メシムルコトヲ得

第九條 市場稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ其頭取ヨリ當廳ヘ納ムヘシ

第十條 客間ナキ料理屋飲食店及湯屋理髮人雇人請宿人寄席水車乘馬採藻稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但區戶長ハ期限内ニ於テ徵收ノ時日ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 芝居茶屋演劇興行遊覽所稅ハ十日毎ニ其開場十日未滿ノモノハ閉場ノ日ニ徵收スヘシ但納稅ノ節任譯書ヲ添フヘシ

十九年四月東京府令第四十二號布達ヲ以テ第十一條ヲ改正ス

第十二條 船車税ハ國税ノ納期ニ於テ徴收スヘシ

第十三條 屠畜税ハ屠殺前所有者ヨリ屠畜場所在ノ區役所戸長役場ニ納メ領收證ヲ請取ヘシ屠畜場管理人ハ其頭數ヲ税金領收證書ニ照シ屠殺ノ後其證書ニ屠殺済ノ文字ヲ朱書シ還付スヘシ

第四章 家屋税

第十四條 家屋税戸數割ノ標準トスヘキ建物新築ノ際ハ左ノ書式ニ依リ家屋税ハ其所有者戸數割ハ其使用者ヨリ區役所戸長役場ヘ届出ヘシ其増減變換ノ時モ亦同シ

第十五條 家屋税戸數割前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徴收スヘシ但區戸長ハ期限内ニ於テ徴收ノ時日ヲ定ムルコトヲ得

(届式半紙ニツ折)

建物届

何町何番地

一石造又ハ煉化造土藏造

一木造

平 坪 何 坪
二 階 何 坪
三 階 何 坪
平 坪 何 坪
二 階 何 坪
三 階 何 坪

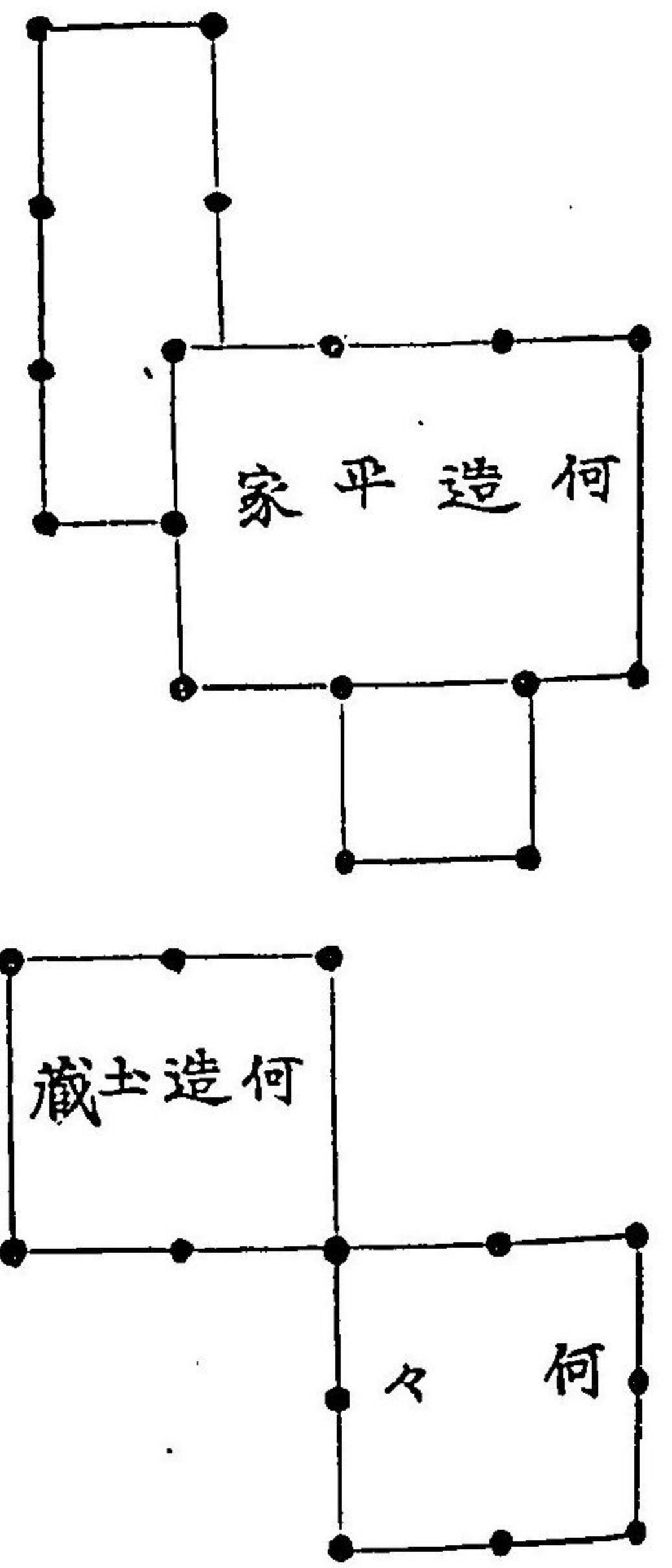
右 所 有 人

何 町 何 番 地

誰 印

年 月 日

(會社其他共有若クハ共用ニ係ルモノハ頭取又ハ總代人署名スヘシ)



東京府地方税徴收額報告表同納公賣處分濟報告表同式及報告期限ヲ改正ス

東京府達 丙十九年三月四日 丙第三十九號 郡區役所

明治十七年八月丙第三百三十三號 地方税徴收額報告表 地方税皆納報告表 地方税不納公賣處分濟報告表 式及報告期限十九年度ヨリ左ノ通改正ス

用紙美濃紙以下同シ

明治何年度前後半年期地方税徴收額申號報告表

税 目		金 額	員 數
營 業 税	金 何 程		
商 業 税	金 何 程		何 軒 箇
會 社 税	金 何 程		何 軒 箇
卸 賣 商 社	金 何 程		何 軒 箇
仲 買 商	金 何 程		何 軒 箇

小賣商	金何程	同
何	金何程	同
何	金何程	同
賣藥行	金何程	同
賣藥行	金何程	同
賣藥行	金何程	同
工	金何程	同
製造業	金何程	同
職	金何程	同
料理屋	金何程	軒
客問何十坪以上	金何程	軒
客問何十坪以上	金何程	軒
客問ナキモノ	金何程	軒
待合茶屋	金何程	軒
客問何十坪以上	金何程	軒
客問何十坪以上	金何程	軒
何	金何程	軒
何	金何程	軒
家屋	金何程	軒

右之通候也

郡區長姓名印

收稅長宛

(前半期分ハ四月十五日限リ後半期分ハ十月十五日限リ報
告スヘシ但納期內ニ増減ヲ生スル片ハ其時時追報スヘシ)

明治何年度地方稅徵收額乙號報告表

稅目	金額	員數
地租	金何程	地租金何程
前期市街宅地上	金何程	
後期同上	金何程	
第一期	金何程	
第二期	金何程	
第三期	金何程	
第四期	金何程	
船	金何程	何艘
長	金何程	何艘
長	金何程	何艘
何	金何程	同
何	金何程	同

遊船長	何間	金何程	同
西洋形船	金何程	何何	噸
車	稅	金何程	何
二匹立營業馬車	金何程	何	輛
同自用馬車	金何程	同	
何	何	金何程	同
合計	金何程		

右之通候也

年月日

郡區長姓名印

收稅長宛

(七月十五日限り報告スヘシ但納期內
増減ヲ生スルホハ其時時追報スヘシ)

明治何年度前後半期地方稅皆納報告表

稅目	納額	既納額	損失金	同上御聞 屆月日	勘定除却金	同上御聞 屆月日
營業稅	金何程	金何程	金何程	何月幾日	金何程	何月幾日
工業稅	金、					
雜種稅						

料理屋稅	
待合茶屋稅	
遊船宿稅	
芝居茶屋稅	
家屋稅	(郡ハ戶數割ト 記入スヘシ)
合計	

右之通候也

年月日

郡區長姓名印

收稅長宛

(納期後四十日以内ニ報告スヘシ但日稅月稅上リ高稅及新規等ニ係ルモノ)
前半期分ハ十月三十一日限り後半期分ハ四月三十日限り報告スヘシ
(地租割及船車稅モ此書式ニ準スヘシ)

明治何年度前後半期地方稅不納公賣處分濟報告表

稅目	不納金額	公賣代價	沒收物件員數	損失金	不納者人員
營業稅	金何程	金何程	何箇	金何程	何人
商業稅					
工業稅					
雜種稅					

料理屋税								
待合茶屋税								
遊船宿税								
芝居茶屋税								
何屋税								
家屋税								
合計								

右之通候也

年月日

郡區長姓名印

收税長宛

(納期後三十日以内ニ報告スヘシ但日税月税上リ高税等前半期分ハ十月十五日限リ後半期分ハ四月十五日限リ報告スヘシ)
 (地租割及船車税モ此書式ニ準スヘシ)

東京府達 十九年三月十二日
 丙第四十三號 郡區役所

明治十三年(九)丙第六十七號 達 地方税金假納順序第四條及第一二號 離形左ノ通更正ス

第四條 郡區役所ハ三井銀行ヨリ差出ス假預リ證書ヲ領置シ七日毎ニ明細仕譯書ヲ添ヘ收税長ヘ送付スヘシ

東京府地方税金假納順序第四條及第一二號 離形ヲ更正ス

(用紙半紙紙)

記

一金

但明治何年度後半年分地方税

右假納候也

年月日

東京府會計主務宛

何郡長 姓名印

第一號

證 號 何 郡 役 所
 番 號 何 郡 役 所
 金 但明治何年度後半年分地方税

但明治何年度後半年分地方税

右假納金相預候也

年月日

東京府會計主務 姓名印

第二號

東京府地方稅徵收規則
第十一條ヲ改正ス
二十年一月東京府令第五
號ニ依テ附設ス

東京府布達 十九年四月二十日
本年二月第二十號布達地方稅徵收規則第十一條左ノ通改正ス

第十一條 芝居茶屋演劇及ヒ建物アル興行遊覽所稅ハ其開場十日以上ノモノハ十日毎二十日未滿ノ
モノハ日數ニ應シ之ヲ前收スヘシ但上リ高ヲ準トスル演劇興行遊覽所稅ハ其開場五日以上ノモノ
ハ五日毎ニ五日未滿ノモノハ閉場ノ日上リ高仕譯書ニ據リ之ヲ徵收スヘシ
右布達ス

東京府布達 十九年五月四日
第十四號

常置委員會ノ決議ヲ經テ明治十四年七月當廳甲第九十八號布達第三條東京灣浚浚費ノ次へ左ノ通追加
ス

地方稅取扱費

金高ノ九歩ハ區ニ於テ負擔シ
一步ハ郡ニ於テ負擔ス

右布達ス

東京府地方稅徵收規則
第十一條ヲ改正ス
二十年一月東京府令第五
號ニ依テ附設ス

東京府布達 十九年十二月十七日
第十四號 郡區役所戶長役地

地方稅歲入歲出出納規則及取扱順序別冊ノ通相定來ル明治二十年度ヨリ施行ス

地方稅歲入歲出出納規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ掲グル歲入トハ每年定ムル豫算ニ據リ收入スル所ノモノニシテ分テ二部トス

第一部 諸稅及諸稅ノ追徵ニ係ル雜收入

第二部 國庫下渡金及雜收入

第二條 此規則ニ掲グル歲出トハ每年定ムル豫算ニ據リ支出スル所ノモノトス

第三條 此規則ニ於テ納人ト稱スレハ戶長各納稅者其他地方稅ヲ納入スル義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏一私人ノ別ナク總テ地方稅ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有ス
ル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲グル地方稅金取扱所トハ當廳及郡區役所ニ屬スル現金取扱所ヲ云

第六條 地方稅金取扱所ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ命令官ノ指定スル時間ニ限
ル

第二章 出納ノ開閉

第七條 一會計年度 每年四月一日ヨリ 翌年三月三十一日マテ 二屬スル歲入歲出ノ出納ハ第八條ノ場合ヲ除キ毎年四月一
日ヲ以テ開始ス

第八條 諸經費ノ前渡シヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ特ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第九條 會計年度内ニ於テ歲出ノ支拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度六月三十日迄該會計年度
ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第三章 歲入

第十條 歲入ニ係ル現金ノ收納ハ郡區長及會計主務官ヲシテ其徵收ヲ整理セシメ現金ハ直ニ地方稅金
取扱所ニ收納スルモノトス但公賣處分ニ據リ收入スル現金ハ郡區役所ニ收入スルコトヲ得

第十一條 前條但書ノ外不得止場合ニ於テハ現金ヲ郡區役所ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即
時其旨ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第十二條 歲入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス

第十三條 第一部歲入ヲ徵收スルトキハ郡區長ヨリ各納稅者若クハ戶長ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノ
トス

第十四條 戸長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別徵稅原簿ニ據リ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス

第十五條 第二部歳入ヲ徵收スルトキハ會計主務官及郡區長ヨリ各納人ニ對シ納額告知書ヲ發スルモノトス

第十六條 第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納日十日以前ニ其納期ノ數回ニ涉ルモノ又ハ隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ據リ其猶豫ナキモノハ此ノ限ニアラス

第十七條 戸長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取經ムヘシ

第十八條 第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納日十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス

第十九條 歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ地方稅金取扱所ヘ納付セシムヘシ

第二十條 國庫下渡金ノ受領ハ別ニ定ムル成規ニ據ル

第二十一條 第十條但書及第十一條ニ據リ現金ヲ郡區役所ニ收納シタルトキハ毎日之ヲ取經メ納付書ヲ添ヘ翌日迄ニ其取扱主任官ヨリ地方稅取扱所ヘ送付スヘシ

第二十二條 納人ヲシテ現金ヲ地方稅金取扱所ヘ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ

第二十三條 地方稅金取扱所ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持參シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十一條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ還付スルモノトス

第二十四條 戸長ニ於テ取經メタル稅金ハ翌日迄ニ之ヲ地方稅金取扱所ヘ納付スヘシ但納期前ニ限リ

五日間之ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得

第二十五條 郡區長ハ歳入ノ過納若クハ誤納ノ下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ當廳ヘ請求スヘシ

第四章 歳出

第二十六條 歳出ニ係ル現金ノ支拂ハ地方稅金取扱所ニ於テ之ヲ執行セシムルモノトス

第二十七條 臨時不得止場合ニ於テハ現金ヲ郡區役所ニ交付スルコトアルヘシ

第二十八條 毎年豫算ノ決定アルトキハ會計主務官ハ郡區役所經費ノ月額ヲ豫定シ之ヲ郡區長ヘ通達スヘシ

第二十九條 郡區長ハ前條ノ通達ニ據リ月額請求書ヲ製シ前月十五日迄ニ當廳ヘ請求スヘシ但臨時ノ費途ハ此限ニアラス

第三十條 每會計年度ノ初メ一箇月分ハ前年度豫算金額十二分ノ一ニ超エサレハ第二十八條ノ通達ヲ受サルモ請求スルコトヲ得

第三十一條 歳出ハ總テ支拂切符ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス但第二十七條ノ場合ハ此限ニアラス

第三十二條 歳出ヲ支拂フトキハ會計主務官又ハ郡區長ハ各受取人ニ對シ支拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第三十三條 支拂切符ノ支拂期限ハ切符ニ記載シタル當日ヲ超ユヘカラス

第三十四條 支拂切符ヲ發付シタル會計主務官又ハ郡區長ハ其切符ヲ發スルト同時ニ地方稅金取扱所ヘ案内書ヲ發スヘシ

第三十五條 地方稅金取扱所ハ支拂切符持參人ニ對シテ即時表面ノ金額ヲ支拂フモノトス但支拂切符ノ日附ヲ過キタルトキハ持參人ヲシテ支拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ

第三十六條 前條支拂切符交換ノ請求ヲ受クルトキハ更ニ支拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第三十七條 地方税金取扱所ハ支拂ヲ請求セラレタル支拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ即時其事由ヲ該切符記名ノ會計主務官又ハ郡區長ヘ通牒スヘシ

第三十八條 前條ノ場合ニ於テ地方税金取扱所ハ會計主務官又ハ郡區長ニ於テ支拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ支拂フコトヲ得ス

第三十九條 郡區役所其他ヘ支拂金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官又ハ郡區長ヨリ支拂切符ヲ發シ地方税金取扱所ヨリ送金セシムルモノトス

第四十條 會計ノ取扱ヲ異ニスルモノヘ支出スル經費ハ會計主務官又ハ郡區長ハ直ニ地方税金取扱所ヨリ現金ヲ支拂ハシムヘシ

第四十一條 會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第四十二條 既ニ支拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第二十七條ニヨリ現金ヲ受取り支拂殘餘アルトキハ即日之ヲ地方税金取扱所ヘ送付シ廳中ニ留ムルコトヲ得ス

第五章 報告

第四十三條 郡區長ハ毎年度定ムル所ノ豫算ニ據リ毎納期ニ於テ徵收額報告書ヲ製シ其納期ノ初日ヨリ十五日以内ニ之ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第四十四條 納期ノ數回ニ涉ルモノハ毎半年度ノ初メニ於テ徵收額報告書ヲ製シ三十日以内ニ之ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第四十五條 地方税金取扱所ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳ヘ報告スヘシ但シ官廳ヨリ領收シタルトキハ此限ニアラス

第四十六條 郡區長ハ前條ニヨリ地方税金取扱所ヨリ報告ヲ受タルトキハ之ヲ各科目ニ區別シ十五日毎ニ報告書ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第四十七條 郡區長ハ既納ノ歲入中年度又ハ科目ノ誤記等ニヨリ訂正ヲ要スルトキハ更正表ヲ製シ之ヲ收稅長又ハ會計主務官ヘ報告スヘシ

第四十八條 郡區長ハ毎月支出シタル經費ノ報告書ヲ製シ翌月七日迄ニ當廳ヘ送付スヘシ

第四十九條 地方税金取扱所ハ第一部ニ係ル歲入ノ收入金ヲ領收シタルトキハ三日毎ニ報告書ヲ製シ收稅長ヘ送付スヘシ

第五十條 警視廳其他ニテ毎月支出シタル經費ノ報告書ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第五十一條 郡區長ハ第四十三條ニ據リ徵收額報告書ヲ送付シタル後其徵收額ニ増減ヲ生スルトキハ納期内ニ限リ其時時之ヲ追報スヘシ

第五十二條 郡區長ハ毎納期ニ對スル收納ヲ完了セサルトキハ其納期限後十日以内ニ報告書ヲ製シ收稅長ヘ送付スヘシ但納期ノ數回ニ涉ルモノ又ハ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎半年度後十日以内ニ之ヲ送付スヘシ

第五十三條 郡區長ハ既ニ支拂タル經費中年度又ハ科目ノ誤記等ニヨリ訂正ヲ要スルトキハ更正表ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第五十四條 郡區長ハ會計年度内ニ於テ歲入ノ徵收若クハ歲出ノ支拂ヲ完了セサルモノアルトキハ報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第五十五條 郡區長ハ會計整理期限翌年度六月三十日内ニ於テ收入支出ノ完了セサルモノアルトキハ報告書ヲ製シ翌年七月三十一日迄ニ當廳ヘ送付スヘシ

第六章 雜則

第五十六條 此規則ニ掲グル請求書、報告書、徵稅令書、納額告知書、分納書、納付書、支拂切符、更正表、等ノ様式ハ別冊ニ定ム

第五十七條 現行規定中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス

地方税歳入取扱順序

第一章 第一部歳入 郡區役所

第一條 郡區長ハ規則第十三條第十六條ニ據リ税金ヲ徵收スルトキハ毎年定ムル所ノ營業税雜種税課目課額及收入豫算ニ基キ徵稅原簿及徵稅令書ヲ調製スヘシ

第二條 郡區長ハ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルトキハ徵稅原簿ニ據リ徵稅令書ニ納入(納稅者若クハ戶長)ノ姓名金員納期令書番號科目、所屬歷年月、納付先ヲ記載シ又其令書ニ接續スル正副上納書ニ同一記入ヲナシ納期日令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第一號書式イ印ノ如ク原簿ト割印シテ之ヲ納入ニ交付スヘシ規則第十一條ニ據リ現金ヲ徵收スルトキハ上納副書ヲ交付セス

第三條 前條中各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第一號書式ニ據リ戶長ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第二號書式ニ據ルヘシ

第四條 各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ郡區役所ノ便宜ニ依リ戶長ニ交付シテ之ヲ配付セシメ又ハ直ニ之ヲ各納稅者ニ交付スヘシ

第五條 戶長ニ徵稅令書ヲ交付シテ配付セシムル場合ニ於テハ戶長ヲシテ税金ヲ取纏メ之ヲ地方税金取扱所ニ納付セシメ又ハ各納稅者ヲシテ直ニ税金ヲ地方税金取扱所ニ納付セシムルハ徵稅上ノ便宜ニ依リ郡區役所ニ於テ之ヲ命令スヘシ

第六條 隨時納期(臨時收入ニ係ルモノ)ヲ定ムルモノハ徵稅令書及正副上納書ニ記載スル金員ノ肩ニ新規ノ印ヲ捺シ其他ハ總テ順序第二條ノ例ニ據リ記載捺印シテ納入ニ交付スヘシ

第七條 規則第十九條ニ據リ戶長若クハ納入ヲシテ現金ヲ納付セシムルニハ徵稅令書ニ接續シタル正副上納書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ地方税金取扱所ヘ持參セシムヘシ

第八條 郡區長ハ徵稅原簿ニ基キ第七號第八號第九號書式ノ徵收額報告書ヲ製シ規則第四十三條第四

十四條ニ據リ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第九條 納期數回ニ涉ル諸税(日税月税及上リ高税等)ノ第八號書式ニ係ル徵收額報告ハ前年度ノ現數ト前前年度ノ決算額トヲ標準トシ半年度内ニ於テ徵收スヘキ稅額ヲ豫定シ之ヲ調製スヘシ

第十條 郡區長ハ每納期(納期數回アルモノヲ除ク)ニ對スル收納ヲ完結シタルトキハ即日之ヲ收稅長ヘ通報スヘシ

第十一條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ規則第十條但書ニ據リ郡區役所ニ收納シタルトキハ別ニ領收書ヲ製シ處分濟徵收ノ達書ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付ス但戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シタルモノニ係ルトキハ本文ノ領收書及令書ヲ戶長ニ交付シテ之ヲ納稅者ニ傳ヘシムヘシ

第十二條 規則第十一條ニ據リ税金ヲ郡區役所ニ納付セシメタルトキハ郡區役所ハ徵稅令書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ役所印ヲ捺シ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ上納正書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ其令書ハ之ヲ納入ヘ還付スヘシ

第十三條 戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ税金ヲ郡區役所ニ徵收スル場合ニ於テ税金ノ内納不納等アルトキハ戶長ニ對スル處務ノ順序ハ總テ地方税金取扱所ノ手續ニ準ス

第十四條 規則第十條但書及第十一條ニ據リ税金ヲ郡區役所ニ收入スルトキハ郡區長ハ税金取扱主任者ヲシテ規則第二十一條ニ據リ第五號書式ノ納付書ニ金員科目、納付書番號、所屬年度納付ノ年月日ヲ記載シイ印ノ如ク原簿ト割印シ納付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ捺印シ又納付書ニ接續シタル副書ニ同一記入ヲ爲シ正副共ニ之ヲ現金ニ添ヘ地方税金取扱所ヘ納付セシム

第十五條 郡區長ハ地方税金取扱所ヨリ順序第四十五條ニ據リ上納副書及分納書ヲ送付シタルトキハ之ヲ徵稅原簿ニ照合シ該原簿ニ納濟又ハ内納ノ記入ヲナスヘシ

第十六條 郡區役所ニ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收納シタル際即時ニ徵稅原簿ニ領收濟ノ記入ヲナスヘシ

第十七條 郡區長ハ順序第十四條第十五條ノ手續キテ了シタル後第十號書式ノ徵收金額仕譯報告書ヲ製シ規則第四十六條ニ據リ之ヲ當廳ヘ送付ス但時時收入ニ係ル金額ハ本文報告書ニ準シ別紙ニ記載スヘシ

第十八條 郡區長ハ徵稅原簿及地方稅金取扱所ヨリ送付シタル不納報告書ニ據リ其納期ニ對スル完結ヲ爲シ不納金額報告書ヲ製シ規則第五十二條ニ據リ之ヲ收稅長ヘ報告スヘシ

第十九條 納期數回ニ涉ルモノ又ハ隨時納期ヲ定ルモノ、諸稅ニ於テ不納アルトキハ前條ニ準シ規則第五十二條但書ニ據リ之ヲ收稅長ヘ報告スヘシ

第二十條 郡區長ハ既納ノ稅金下戻ヲ要スルトキハ第十二號書式ノ地方稅金還付請求書ヲ製シ規則第二十五條ニ據リ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十一條 郡區長ハ既納金拂戻證書ヲ送付セラレタルトキハ其領收證ヲ發送シ拂戻證書裏面ヘハイ印ノ如ク原簿ト割印シ記名捺印シテ之ヲ其受取人ニ交付シ領收證ヲ徵シテ地方稅金取扱所ニ於テ現金ト交換セシムヘシ

第二十二條 前條拂戻金ノ受取人數多シ涉ルキハ拂戻證書ニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ地方稅金取扱所ヘ回送シ別ニ適宜ノ一人別下戻證書ヲ製シ記名捺印セシメ前條ノ順序ヲ爲シ各受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵スヘシ

第二十三條 郡區長ハ稅金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由ヲ裏面ニ記載シ隨時之ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十四條 郡區長ハ規則第四十七條ニ據リ既納ノ歲入中訂正ヲ要スルモノアルトキハ第十一號式ノ納替更正表ヲ製シ之ヲ收稅長ヘ送付スヘシ

第二章

第二部 歲入

本廳及郡區役所

第二十五條 會計主務官及郡區長ハ規則第十五條ニ據リ納額告知書ヲ發スルトキハ總テ納額臺帳ニ基

キ第四號書式ノ納額告知書ニ納人ノ姓名、金員、納日、告知番號、所屬年度科目納付先ヲ記載シ又其告知書ニ接續シタル正副上納書ニ同一記入ヲナシ納日告知書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ印ノ如ク臺帳ト割印シテ之ヲ納人ヘ交付スヘシ

第二十六條 郡區長ハ會計主務官ヨリ納額告知書ノ配付ヲ受タルトキハ適宜ノ徵收簿ヲ備置キ之ニ登記シ其告知書裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ郡區役所ノ印ヲ捺シ正副上納書ノ裏面ニハ郡區役所ノ印ノミヲ捺シテ之ヲ納人ヘ交付スヘシ

第二十七條 郡區長ハ前條ノ場合ニ於テ地方稅金取扱所ヨリ順序第四十五條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受タルトキハ之ヲ徵收簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲ爲スヘシ

第二十八條 郡區長ハ順序第二十五條及第二十六條ノ場合ニ於テ納金ヲ領收シタル地方稅金取扱所ヨリ送付シタル上納副書ヲ取纏メ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第三章

戶長 役場

第二十九條 戶長ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ受タルトキハ規則第十四條ニ據リ徵稅傳令書ヲ納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ徵稅傳令書ニ接續シタル領收書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ戶長役場ニ納付セシムヘシ

第三十條 戶長ハ徵稅傳令書ヲ發スルトキハ傳令書ニ納人ノ姓名、金員、納期日、傳令番號、科目、所屬歷年月ヲ記載シ又ハ傳令書ニ接續シタル領收書ニ同一記入ヲナシ納期日傳令書ニハ發付ノ年月日及發付者記名捺印シ印ノ如ク徵稅原簿ト割印シテ之ヲ納人ヘ交付スヘシ

第三十一條 戶長ハ各納稅者ヨリ稅金ヲ領收スルトキハ徵稅傳令書及領收書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ之ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ領收書姓名ノ下ニ捺印シ傳令書ト接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收書ハ之ヲ納稅者ニ還付スヘシ

第三十二條 納期末日前ニ於テ稅金ノ内納ヲ爲サンコトヲ請フモノアル時ハ徵稅傳令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續キテ爲スヘシ但戶長ニ於

テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收書ヲ發スルヲ便トスルトキハ假領收書ヲ交付シ完納ノ際前條ノ手續ヲナシテ假領收書ト交換スヘシ

第三十三條 戶長ハ規則第十七條ニ據リ取纏メタル税金ヲ納付スルトキハ徵稅令書ニ接續シタル正副上納書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ地方税金取扱所ヘ納付スヘシ

第三十四條 戶長ハ其取纏メタル税金未タ徵稅令書ノ金額ニ滿サル爲メ内納ヲ爲サントスルトキハ第三號書式ノ分納書ニ式ノ如ク所屬歷年月、科目、徵稅令書及分納書番號、内納金員、納付ノ年月日ヲ記入シ副書ニ同一記入ヲナシ印ノ如ク合計簿ト割印シ記名捺印ノ上徵稅令書及正副上納書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ地方税金取扱所ヘ納付スヘシ

第三十五條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ全額ニ滿ツル迄ハ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 戶長ハ納期末日ニ至リ税金ニ未納アリテ徵稅令書ノ納金全額ヲ完納スル能ハサルトキハ分納書ニ内納金額ノ外書ニ未納金額及科目ヲ記載シ之ヲ不納報告トナシ順序第三十三條ニ據リ最後内納ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 前條ノ不納報告ヲナシタル後不納處分中戶長ニ於テ税金ノ納付ヲ取扱フコトアルトキハ順序第三十四條ノ如ク第三號書式ノ分納書ヲ以テ糞ニ地方税金取扱所ヨリ返付シタル徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ地方税金取扱所ヘ納付スヘシ

第三十八條 戶長ハ郡區長ヨリ各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ノ交付ヲ受タルトキハ直ニ之ヲ各納稅者ニ配付スヘシ

第三十九條 戶長ハ前條ノ場合ニ於テハ順序第五條ニ據リ郡區長ヨリ税金ノ取纏メヲ達セラレタルトキハ納稅者ヨリ税金ヲ領收シ之ニ對シテ假領收書ヲ發付シ其持參シタル徵稅令書并ニ之ニ接續シタル上納書ヲ預リ置クヘシ

第四十條 戶長ハ前條領收シタル税金ヲ其預リタル徵稅令書正副上納書ト共ニ地方税金取扱所ヘ納付スヘシ

第四十一條 戶長ハ地方税金取扱所ヨリ前條ノ領收ヲ證シタル徵稅令書ノ還付ヲ受タルトキハ之ヲ各記名ノ納稅者ニ交付シ糞ニ發付シタル假領收書ト交換スヘシ

第四十二條 戶長ニ於テ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ郡區長ニ請求スヘシ

第四十三條 戶長ハ郡區長ヨリ税金ノ拂戻證書ヲ送付セラレタルトキハ其領收證ヲ郡區役所ヘ發送シ地方税金取扱所ニ於テ現金ヲ受取り之ヲ配付スヘシ

第四章

地方税金扱所

第四十四條 地方税金取扱所ハ納人ヨリ現金ヲ正副上納書ニ添ヘ徵稅令書若クハ納額告知書ト共ニ納付スルトキハ其令書若クハ告知書ニ規則第二十三條ニ據リ書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ取扱所印ヲ捺シ上納正書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ其令書若クハ告知書ハ之ヲ納人ヘ還付スヘシ

第四十五條 地方税金取扱所ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ式ノ如ク領收濟ノ年月日ヲ記入シ取扱所印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ副書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ正書ハ留メ副書ハ規則第四十五條ニ據リ即日前條ノ令書若クハ告知書ヲ發シタル廳ヘ送付スヘシ

第四十六條 地方税金取扱所ハ戶長ヨリ税金ノ内納ヲナス爲メ分納書ヲ添テ現金ヲ納付スルトキハ徵稅令書及正副上納書ノ裏面ニ第二號書式第一例ノ如ク内納金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上接續ノ儘之ヲ戶長ヘ還付スヘシ

第四十七條 地方税金取扱所ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後ハ分納書ニ式ノ如ク正副共領收ノ年月日ヲ記入シ其取扱所印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ副書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ正書ハ留メ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所ヘ送付スヘシ

第四十八條 地方税金取扱所ハ戸長ヨリ税金ノ分納ヲ爲シタル未完納ニ至ルトキハ第二號書式第一例ノ如ク徵税金書及正副上納書ノ裏面ニ最後領收ノ金額及年月日ヲ記載捺印ノ上合計ヲ付シ表面金額ノ下ニ領收済ヲ記入シ取扱所印ヲ捺シ上納正書ニハ納済月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シハ印ノ如ク上納正書ト接續ノ所ヘ割印シテ之ヲ切斷シ該徵税金書ハ之ヲ戸長ヘ還付スヘシ

第四十九條 地方税金取扱所ハ戸長ヨリ税金ノ分納ヲ爲シタル未徵税金書ノ金額ヲ完納シ難キ旨ヲ報告シ來ルトキハ第二號書式第二例ノ如ク徵税金書及正副上納書ノ裏面ニ記シタル領收金額ヲ合計シ之ヲ同一表面ニ移記シ領收ノ下ニ取扱所印ヲ捺シ其次行ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ令書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ徵税金書ハ之ヲ戸長ヘ還付スヘシ

第五十條 地方税金取扱所ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ノ上納文ヲ朱抹シ年月日ヲ記入シ正書ニハ領收月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ副書ト接續ノ處ヘ割印シテ正書ハ留メ副書ハ即日之ヲ徵税金書ヲ發シタル郡區役所ヘ送付スヘシ

第五十一條 地方税金取扱所ハ不納處分中收納ノ税金ヲ戸長ヨリ納付シ來ルトキハ第二號書式第二例ノ如ク徵税金書裏面合金ノ次行ヘ領收金額及年月日ヲ記載シ取扱所印ヲ捺シ合計ヲ付シ領收済ヲ記入シテ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ表面不納ノ金額ヲ塗抹シ該徵税金書ハ之ヲ戸長ヘ還付スヘシ

第五十二條 地方税金取扱所ハ前條ノ手續ヲナシタル後戸長ヨリ現金ニ添ヘ納付シ來リタル分納書ノ取扱手續ハ順序第四十七條ニ同シ

第五十三條 地方税金取扱所ハ規則第二十一條ニ據リ各主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受タルトキハ第五號書式ノ如ク正副納付書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ取扱所印ヲ捺シ正書ニハ領收月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ副書ト接續ノ處ヘハ印ノ如ク割印シ正書ハ留メ副書ハ其廳ヘ還付スヘシ

第五十四條 地方税金取扱所ハ第一部ニ係ル歳入ノ收入金ヲ領收シタルトキハ第十三號書式ノ領收金額報告書ヲ製シ規則第四十九條ニ據リ之ヲ收税長ヘ送付スヘシ

第五十五條 地方税金取扱所ニ於テ調製スヘキ諸帳簿ハ適宜ニ之ヲ設ケ置キ歳入ニ係ル勘定ヲ整理スヘシ

(印ハ朱書)

イ印ハ後場ノ印
ロ印ハ同取扱主任者ノ印

正 第何號		明治何年何月ヨリ 同何年何月迄ノ分	何村何番地	何 某
イ	一金何程			何 税
イ	一金何程			何 税
	合金何程			何 税
右來ル何月何日限リ上納スヘシ		何年何月何日領收		
明治何年何月何日		東京府何郡何村	戸長 何	某印

傳	副	何村何番地	何	某
令	第何號	何	何	某
書	一金何程	何	何	某
地	一金何程	何	何	某
方	合金何程	何	何	某
税	右正ニ領收候也	東京府何郡何村	戸長	何
	明治何年何月何日			某印

地方税歳出取扱順序

第一章

本廳

第一條 歳出ハ毎年定ムル所ノ豫算ニ基キ其支出ヲ要スル金額事由ニヨリ其支拂ヲ執行スルモノトス

第二條 歳出中規則第二十七條ヲ除クノ外第十四號書式ノ支拂切符元帳仕拂切符及案内書ニ番號、年月日、金員、要用ナレハ貨幣ノ種類共所屬年度、受取人姓名、事由記載シ支拂切符及案内書ニ記名捺印シ接續ノ所ニ割印シ之ヲ切斷シテ案内書ハ地方税金取扱所ニ送付シ支拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證ヲ徴スヘシ

第三條 地方税金取扱所ヨリ支拂切符ノ書式等成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト符合セサル事アルカヲ通知スルトキハ其事由ヲ審査シ該切符番號年月日ノ脱落書損金員ニ關セサル文字ノ誤謬又ハ汚染損傷シタルモ尙其真正ナルヲ保證シ得ルモノハ直ニ其支拂ヲ通知シ該切符若シ金員ノ脱落書損塗抹押印ノ脱落若クハ紙面ノ必要ナル點ニ改描ノ形蹟アルモノ又ハ汚染損傷ノ甚シクシテ眞贋ノ鑑別ヲナシ難キモノハ支拂切符ヲ持參人ニ返付センコトヲ通達シ其偽造變造等ニ係ルトキハ法ニ據リテ取扱フモノトス

第四條 規則第三十六條及順序第三條ノ場合ニ於テ支拂切符所有者ヨリ切符ノ書請換求シタルトキ其書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見認ムルトキハ更ニ支拂切符ヲ製シテ舊支拂切符ト交換スヘシ

第五條 規則第三十三條ノ支拂期限ヲ經過シタル支拂切符ノ書換ヲ請求シタルトキハ更ニ支拂切符ヲ製シテ舊支拂切符ト交換スヘシ

第六條 會計ノ整理期限内ニ於テ支拂切符ノ書換ヲナシタル再發支拂切符ハ通常支拂切符發行ノ手續ニヨリ新ニ發行ノ年月日ヲ記入スルモノトス但交換頻繁ニシテ取扱上混雜ヲ生スル恐シアルトキハ再發ノ爲メ別ニ支拂切符簿ヲ置クモ妨ケナシ

第七條 前條ニ據リ支拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊支拂切符ニ消印ヲナシ之ヲ證明スヘシ

第八條 會計ノ整理期限前ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ直ニ其年度ニ戻シ入ルヲ以テ第十五號書式ノ返納元帳及返納書ニ番號金員事由返納期日納入ノ姓名年月日支出ノ科目ヲ記入シ記名捺印シ元帳ト返納書ト接續ノ所ヘ割印ヲナシ切斷シテ之ヲ返納人ニ交付シ現金ヲ添ヘ地方税金取扱所ヘ納付セシム

第九條 會計ノ整理期限後ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ歳入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニヨリ第四號書式ノ納額告知書ヲ發シテ之ヲ返納人ニ交付シ現金ヲ地方税金取扱所ヘ納付セシム

第十條 地方税金取扱所ヨリ返納ノ通知ヲ得タルトキハ返納元帳ニ返納濟ノ記入ヲナスヘシ

第十一條 規則第二十七條ニヨリ現金ヲ支出スルトキハ府知事ノ命令ニヨリ第十六號書式ノ交付書ヲ製シ之ヲ受取人ニ交付シテ其領收書ヲ徴スヘシ

第十二條 規則第三十九條ニヨリ支拂金ヲ遞送スルトキハ通常支拂切符發行ノ手續ニヨリ支拂切符ヲ發行シ切符ノ裏面ニ受取人ノ姓名并現金ノ遞送ヲ請求スル旨ヲ記載シ地方税金取扱所ヨリ送金手形ヲ受取モノトス

第十三條 地方税金取扱所ヨリ前條ノ送金手形ヲ受ケタルトキハ支拂金ヲ請求シタル主任官ヘ之ヲ送付シテ其領收證ヲ徴スヘシ

第十四條 規則第四十條ニヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノ(例ヘハ地方税ヨリ共有金其他ヘ支拂フモノニシテ地方税金取扱所ニ於テハ甲ノ種類ヲ乙ノ金種類ヘ變換スルモノヲ云フ)ヘ支出スル經費ハ第二十一號書式ノ報告書ヲ製シ地方税金取扱所ヨリ現金ヲ支拂ハシム

第十五條 規則第四十八條第五十條ニヨリ毎月歳出ノ支出報告書ヲ受ケタルトキハ査閱ノ後之ヲ證明スヘシ

第十六條 規則第四十七條ニヨリ歳出科目ノ誤記等ニヨリ訂正ヲ要スル更正書ヲ受ケルトキハ査閱ノ後之ヲ具申スヘシ

第十七條 規則第五十四條ニヨリ會計年度内歳出ノ支拂ヲ完了セサル報告書ヲ受ケタルトキハ査閱ノ後之ヲ具申スヘシ

第十八條 規則第五十五條ニヨリ會計ノ整理期限内歳出ノ支拂ヲ完了セサル報告書ヲ受ケタルトキハ査閱ノ後之ヲ具申スヘシ

第二章

郡區役所

第十九條 郡區長ハ規則第二十九條ニヨリ第十七號書式ノ支出月額請求書ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ但臨時ノ費途ハ臨時之ヲ請求スヘシ

第二十條 前條支出請求書ニヨリ順序第十三條ノ送金手形ヲ受ケルトキハ即時第十八號書式ノ領收證ヲ製シテ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十一條 毎月支出シタル歳出ノ報告書ハ規則第四十八條ニヨリ第十九號書式ノ報告書ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十二條 歳出中年度又ハ科目ノ誤記等ニヨリ訂正ヲ要スルトキハ規則第五十三條ニヨリ更正表ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十三條 會計年度内ニ於テ歳出ノ完了セサルモノアルトキハ規則第五十四條ニヨリ第十九號書式ノ報告書ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十四條 會計ノ整理期限内ニ於テ歳出ノ完了セサルモノアルトキハ規則第五十五條ニヨリ第十九號書式ノ報告書ヲ製シ之ヲ當廳ヘ送付スヘシ

第二十五條 本章各條ニ歴擧シタル手續ノ外ハ第二條ヨリ第十四條迄ノ手續ニヨルモノトス

第三章

地方税金取扱所

第二十六條 地方税金取扱所ハ順序第二條ノ支拂切符ヲ持參シテ現金ノ支拂ヲ請求セラレタルトキハ發行情形ヨリ送付シタル案内書ニ照合シ即時支拂切符表面ノ金額ヲ交付スヘシ

第二十七條 前條ノ支拂ヲ終ルトキハ支拂切符及案内書ノ表面ニ支拂濟ノ印ヲ捺シ毎日支拂ヲナシタル支拂切符ニ合計表ヲ添ヘ即日其發行ノ廳ニ之ヲ返付シ案内書ハ取扱所ニ留置クモノトス

第二十八條 地方税金取扱所ハ會計主務官又ハ郡區長ヨリ支拂ノ案内書ヲ受ケルトキ豫テ命令セラレタル金額ニ超過スルトキハ即日其案内書ヲ返付シテ支拂カタキ旨ヲ通知スヘシ

第二十九條 支拂期限ヲ經過シタル支拂切符ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ受ケルトキハ其支拂切符ノ交換ヲ選ニ發行ノ廳ヘ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告知スヘシ

第三十條 現金支拂ノ請求ヲ受ケルトキ規則第三十七條ニヨリ支拂ヲナシ難シト見認ルトキハ即日其

事由ヲ會計主務官又ハ該切符記名ノ郡區長ヘ照會スヘシ
 第三十一條 前條照會ニヨリ會計主務官又ハ郡區長ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證セラレタルトキハ直ニ之カ支拂ヲナシ若シ該切符ヲ其持參人ニ返付センコトヲ通知アリタルトキハ其旨ヲ持參人ニ告知スヘシ
 第三十二條 支拂切符ノ支拂期限ヲ經過シタル案内書ハ翌日之ヲ取纏メ會計主務官又ハ其送付シタル郡區長ヘ還付スヘシ
 第三十三條 已ニ支拂タル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納書ニ接續シタル領收證書用紙ニ第十五號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ記入シ記者捺印シ返納書ト接續ノ所ヘ割印シ切斷シテ領收證ハ返納人ヘ交付スヘシ
 第三十四條 前條ノ手續ヲナシタル後返納書ノ裏面ニ領收ノ年月日ヲ記入シ取扱主任者ノ印ヲ捺シ翌日迄ニ會計主務官又ハ返納書ヲ發シタル郡區長ヘ還付スヘシ
 第三十五條 規則第二十七條ニヨリ現金支出ノ交付書ヲ持參シテ渡方ヲ請求シタルトキハ直ニ現金ヲ受取人ニ交付スヘシ
 第三十六條 規則第三十九條ニヨリ現金遞送ノ送付手形ハ其支拂切符發行ノ廳ヘ直ニ送付スヘシ
 第三十七條 規則第四十條及順序第十四條ニヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノヘ支出スルトキハ第二十一號書式ノ報書ニヨリ甲ノ金種類ヲ乙ノ金種類ニ受拂フモノトス
 第三十八條 現金出納ニ係ル諸帳簿ハ地方税金取扱所ニ於テ適宜ノ帳簿ヲ設ケ置キ勘定整理スヘシ

東京府明治二十年度地方税第一節歳入科目

東京府達 二十年一月四日
 第一號郡區役所戸長役場
 明治二十年度地方税第一節歳入科目左ノ通定ム

區部地方税第一節歳入科目表		
款	項	目
地方税	地租割	地租割
		地租割
	營業税	地租割
		商業税
		會社
		卸賣商
		仲買商
		小賣商 <small>營業請費及行商</small>
		雜商
		旅館屋
		書畫骨董店
		古著商
		古金商
		古道具商
		質屋
		兩替屋
		雜種税
		料理屋税
		待合茶屋税
		芝居茶屋税
		遊船宿税
		待茶合屋
		料理屋
		職工
		製造所
		運酒店
		爲換店
		工業税
		湯屋税
		飲食店税
		理髮人税
		理髮人
		個人請符税

遊藝稅	遊藝稅人	遊藝稅人上等	同 中等	同 下等	相撲稅	相撲上等	同 中等	同 下等	俳優稅	俳優上等	同 中等	同 下等	幣間稅	幣間	藝妓稅	藝妓	少藝妓	市場稅	雇人請宿	演劇稅	魚市場 一等 二等 三等

車稅	日本形輪車石 五十石未満 間數	西洋形船同 噸數	二匹立營業馬車	同自用馬車	一匹立營業馬車	同自用馬車	荷積馬車	二人乘自用人力車	一人乘自用人力車	牛車	荷積大車	同 小車	水車稅	紡織製作等機關ヲ 運轉スル水車	挽臼	持臼 三斗級以上 三斗級未満	營業乘馬	自用乘馬	屠宰稅	雜商

郡部地方稅第一部歲入科目表 第一部

地方稅	地租割	營業稅	商業稅	地租割	地租割	家屋稅	家屋稅	同豚	同羊	同價	屠宰稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅	家屋稅

船税	人寄席				紡織製作等機關 ヲ運轉スル水車 馬力
	日本形船積石五十石未 滿				挽白
	西洋形船同噸數				持白 三斗以上 三斗未滿
遊船同噸數				乘馬稅	營業乘馬
車稅	二匹立營業馬車			厩畜稅	自用乘馬
	同自用馬車				厩牛
	一匹立營業馬車				同獵
	同自用馬車				同羊
	荷積馬車				同豚
	二人乘自用人力車			採炭稅	
	一人乘自用人力車				海苔採 一等二等三等四等五等 六等七等八等九等十等
	牛車	戶數割			
	荷積大車		戶數割		
水車稅	同小車			戶數割	

東京府區部郡部地方稅徵收規則

東京府令 第二十五號 一月二十八日

區部郡部地方稅徵收規則左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但本規則ニ抵觸スル從前ノ令達ハ本文支行ノ日ヨリ廢止ス
區部地方稅徵收規則

第一章

第一條 地租割ハ地租ノ納期ニ於テ徵收スヘシ但田方ハ第三第四ノ兩期ニ於テ徵收スヘシ

第二章

第二條 商業工業ノ開廢(賣藥請賣及行商ハ賣藥規則ノ手續ニ依ル)ハ其區役所ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第三條 營業稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但區長ハ其期限内ニ於テ徵收ノ日時ヲ定ムルコトヲ得

第三章

第四條 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人雇人受宿遊藝稼人相撲俳優間藝妓市場演劇興行遊覽所遊技場人寄席水車屠畜ノ開廢業ハ其區役所ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第五條 乘馬ハ營業自用ヲ區別シ所有者ヨリ其區役所ヘ届出ヘシ

第六條 遊藝稼人相撲俳優ノ等級ハ郡區ヲ通シテ設クルモノトシ遊藝稼人ハ頭取相撲ハ年寄總代俳優ハ座元總代ノ連署ヲ以テ本人所在ノ區役所ヘ届出ヘシ但其等級變換ノ時モ亦同シ

第七條 料理屋待合茶屋遊船宿飲食店湯屋理髮人雇人受宿市場人寄席水車乘馬稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但區長ハ其期限内ニ於テ徵收ノ日時ヲ定ムルコトヲ得

第八條 遊藝稼人相撲俳優間藝妓遊技場稅ハ毎月二十日迄ニ徵收スヘシ

第九條 芝居茶屋演劇及建物アル興行稅ハ其開場十日以上ノモノハ十日毎二十日未滿ノモノハ日數ニ

應シ前收シ上リ高ナ準トスル興行及遊覽所税ハ其開場五日以上ノモノハ五日毎ニ五日未滿ノモノハ開場ノ日上リ高仕譯書ニ依リ徴收スヘシ

第十條 船車税ハ國税ノ納期ニ於テ徴收スヘシ

第十一條 屠畜税ハ屠殺前所有者ヨリ屠畜場所在ノ區役所又ハ戶長役場ヘ納メ領收證ヲ受取ヘシ屠畜場管理人ハ其頭數ヲ税金領收證ニ照シ屠殺後其證書ニ屠殺濟ノ文字ヲ朱書シ返付スヘシ

第四章

家屋税

第十二條 家屋税ノ標準トスヘキ建物新築ノ時ハ左ノ書式ニ依リ所有者ヨリ其區役所ヘ届出ヘシ但其増減變換ノ時モ亦同シ

第十三條 家屋税前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日マテニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徴收スヘシ但區長ハ其期限内ニ於テ徴收ノ日時ヲ定ムルコトヲ得

(届式半紙ニツ折)

建物届

何町何番地

一石造又ハ煉化造土藏造

一木造

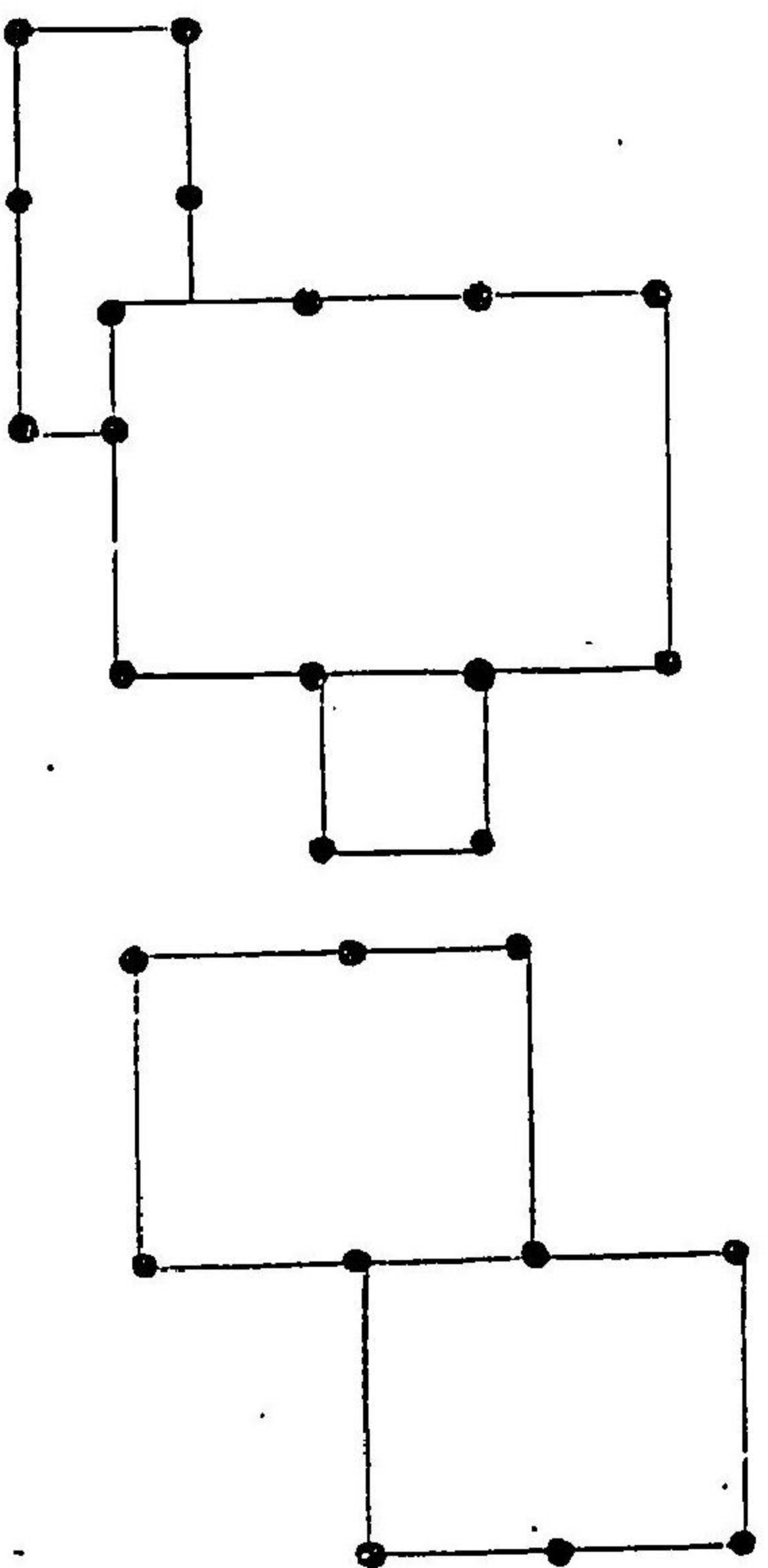
平坪	二階	三階	何坪	何坪
何坪	何坪	何坪	何坪	何坪
何坪	何坪	何坪	何坪	何坪

右所有人

年月日

(會社其他共有ニ係ルモノハ頭取又ハ總代人署名スヘシ)

何町何番地 誰印



郡部地方税徴收規則

第一章

第一條 地租割ハ地租ノ納期ニ於テ徴收スヘシ但田方ハ第三第四ノ兩期ニ於テ徴收スヘシ

第二章

第二條 商業工業ノ開廢(賣藥受賣及行商ハ賣藥規則ノ手續ニ依ル)ハ其戶長役場ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第三條 營業税前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徴收スヘシ但郡長ハ其期限内ニ於テ徴收ノ日時ヲ定ムルヲ得

第三章

雜種税

第四條 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人雇人受宿遊藝稼人相撲俳優間藝妓演劇興行遊覽所遊技場人寄席水車屠畜採藻ノ開廢業ハ其戶長役場ヘ届出ヘシ但警視廳ノ免許ニ係ル營業ハ其免許證ヲ添フヘシ

第五條 乘馬ハ營業自用ヲ區別シ所有者ヨリ其戶長役場ヘ届出ヘシ

第六條 遊藝稼人相撲俳優ノ等級ハ郡區ヲ通シテ設グルモノトシ遊藝稼人ハ頭取相撲ハ年寄總代俳優ハ座元總代ノ連署ヲ以テ本人所在ノ戶長役場ヘ届出ヘシ但其等級變換ノトキモ亦同シ

第七條 客間ナキ料理屋同飲食店及待合茶屋遊船宿湯屋理髮人雇人受宿人寄席水車乘馬採藻稅前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但郡長ハ其期限内ニ於テ徵收ノ日時ヲ定ムルコトヲ得

第八條 客間アル料理屋同飲食店及遊藝稼人相撲俳優間藝妓遊技場稅ハ毎月二日迄ニ徵收スヘシ

第九條 芝居茶屋演劇興行遊覽場稅ハ其開場五日以上ノ者ハ五日毎ニ五日未滿ノモノハ閉場ノ日ニ徵收スヘシ但演劇興行遊覽所ハ上リ高仕譯書ニ依ルヘシ

第十條 船車稅ハ國稅ノ納期ニ於テ徵收スヘシ

第十一條 屠畜稅ハ屠殺前所有者ヨリ屠畜場所在ノ區役所又ハ戶長役場ヘ納メ領收證ヲ請取ルヘシ屠畜場管理人ハ其頭數ヲ稅金領收書ニ照シ屠殺後其證書ニ屠殺濟ノ文字ヲ朱書シ返付スヘシ

第十四章 戶數割

第十二條 戶數割ノ標準トスヘキ建物新築ノ時ハ左ノ書式ニ依リ使用者ヨリ其戶長役場ヘ届出ヘシ但其増減變換ノトキモ亦同シ

第十三條 戶數割前半年度分ハ四月一日ヨリ五月三十一日迄ニ後半年度分ハ十月一日ヨリ十一月三十日迄ニ徵收スヘシ但郡長ハ其期限内ニ於テ徵收ノ日時ヲ定ムルコトヲ得

(届式半紙ニツ折)

建物届

何村何番地

一石造又ハ煉化造土藏造

一木造

右 使用人

何 何 何 何 何 何

何 何 何 何 何 何

誰 印

年月日

平 坪 何 坪

二 階 何 坪

三 階 何 坪

平 坪 何 坪

二 階 何 坪

三 階 何 坪

一 木 造 何 坪

(會社其他共有ニ係ルモノハ頭)
取又ハ總代人署名スヘシ

東京府地方税計算記簿
規程

東京府達 二十年三月二十五日
第十七號 郡區役所

歳入歳出納規則制定ニ付地方税計算記簿別冊ノ通改定候條右ニ依リ二十年度ヨリ施行スヘシ
但第一部歳入ハ本年第二號達ニ據ルヘシ

明治二十年三月東京府達第十七號別冊

各郡區役所地方税計算記簿規程

各郡區役所地方税計算記簿規程

第一條 各郡區役所ニ於テ地方税ニ屬スル歳入歳出ノ種類ニ據リ左ノ帳簿ヲ設置シ其計算ヲ整理スル
モノトス

歳入所屬帳簿
一 某年度第二部歳入内譯簿

甲(第一摸本)

二 某年度第二部歳入徴收額整理簿

甲(第二摸本)

歳出所屬帳簿

三 某年度歳出内譯簿

甲(第三摸本)

四 某年度歳出月割額整理簿

甲(第四摸本)

特 設

五 現金受拂簿

乙(第一摸本)

第二條 第二部歳入内譯簿ハ豫算額ニ對シ納濟ノ金額ヲ記入シ其ノ計算ヲ整理スルモノニシテ各科目
毎ニ口取ヲ設ケ豫算額又ハ増額ヲ借方ニ記入シ納濟金額徴收濟ノ金額ヲ貸方ニ記入スルトハ地方
税金取扱所ヨリ上納副書ヲ得タルトキ又ハ出納規則第十條但シ書及第十一條ニ據リ郡區役所ニ收納
セシ現金ヲ地方税金取扱所へ送附シタルトキ其金額ヲ記入スルヲ云フ但シ地方税金取扱所ヨリ送附ノ
上納副書ハ一日分ヲ合計シテ一口ニ記載スルモ妨ケナシ又ハ豫算減額ヲ貸方ニ記入スルモノトス
但シ豫算額ナクシテ納入アルキハ貸方ニ累計シ置キ年度末ニ於テ郡區限リ豫算増額整理スルモノ
トス

第三條 第二部歳入徴收額整理簿ハ納額告知書發付高ニ對シ徴收濟ノ員額ヲ記入シ其計算ヲ整理スル
モノニシテ各科目毎ニ口取ヲ設ケ納額告知書ヲ發シタルトキ其ノ金額借方ニ記入シ地方税金取扱所
ヨリ上納副書ヲ得タルトキ貸方ニ記入スルモノトス

第四條 歳出内譯簿ハ各科目ニ區別シ豫算額増額又ハ交附高ヲ貸方ニ記入シ支出切符ヲ發シタルトキ
又ハ豫算減額ノトキ其ノ金額ヲ借方ニ記入スルモノトス

第五條 歳出月割額整理簿ハ月割額ニ對シ支拂切符發行額ヲ記入シ其ノ計算ヲ整理スルモノニシテ初
項ニ地方税金取扱所ノ口取ヲ設ケ月割額(府廳ヨリ送附シタル送金手形ノ額)及別ニ交附ヲ受タル額
ヲ借方ニ記入シ支拂切符ヲ發シタルトキ貸方ニ記入ス又中科目ニ分類シ其ノ月割額及別ニ交附ヲ受

タル額ヲ貸方ニ記入シ支拂切符ヲ發シタルトキ借方ニ記入スルモノトス

第六條 現金受拂簿ハ各郡區役所ニ於テ現金ノ收支ヲナス場合ニ於テ之ヲ設置シ收入額ヲ借方ニ支出額ヲ貸方ニ記入スルモノトス

第七條 總テ帳簿ハ每會計年度ヲ別テ之ヲ設置シ該年度ニ屬スル歲入歲出完結ニ至テ結算スルモノトス

第八條 歲入ニ於ル豫算ノ減額若クハ納額告知書發付高ノ減額又ハ過誤納下戻歲出ニ於ケル豫算ノ減額月割額ノ訂正減又ハ過剩返納等ハ金額及事項トモ特ニ朱書ヲ以テ記載シ其金額ハ次葉繰越ノトキニ於テ之ニ反對セル區ノ合計ヨリ扣除スルモノトス

第九條 帳簿上誤記アルヲ他日發見シ之ヲ訂正ヲナストキハ其ノ訂正スヘキ金額及事項トモ特ニ朱書ヲ以テ記載其負額ハ次葉繰越ノトキニ於テ之ニ反對セル區ノ合計ヨリ扣除スルモノトス

第十條 帳簿上誤記ヲナシ其際直ニ之ヲ發見セントキハ其誤記セシ事項若クハ員額ノ正中ニ朱ノ二線ヲ横畫シ更ニ其上部ニ墨書スヘシ決シテ塗抹改描スルヲ得ス

第十一條 某年度歲出月割額整理簿ノ計算表ハ毎日調製シ地方税金取扱所甲乙簿ト照合スヘシ其他諸帳簿ノ計算表ハ每週若クハ毎月末日調製スルモノトス

第十二條 前條掲グル所ノ計算表ノ種類左ノ如シ

歲入所屬帳簿計算表

一 某年度第二部歲入内譯簿計算表 丙(第一摸本)

二 某年度第二部歲入徵收額整理簿計算表 丙(第二摸本)

歲出所屬帳簿計算表

三 某年度歲出内譯簿計算表 丙(第三摸本)

四 某年度歲出月割額整理簿計算表 丙(第四摸本)

何 役 所
某年度月割額整理簿計算表
何年何月何日

丙第四摸本

科 目	豫 算 額		支 出 額		差 引 殘 額	
	圓	錢 毫	圓	錢 毫	圓	錢 毫
給 給 費	100	00 0	67	00 0	33	00 0
俸 雜 處	10	00 0	5	00 0	5	00 0
	3	50 0	1	30 0	2	20 0
總 計	113	50 0	73	30 0	40	30 0

租稅門
地方稅

何 役 所		丙第二模本		
某年度第二部歲入徵收額整理簿計算表				
何 年 何 月 何 日				
科 目	納額告知書發行額	收 入 額		差 引 殘 額
		圓	錢 毫	圓 錢 毫
(郡(區)吏員給料旅費及廳中費雜入)不用後品拂下代	10 00 0	5 00 0	5 00 0	5 00 0
(何何) 何何	4 00 0	2 00 0	2 00 0	2 00 0
		14 00 0	7 00 0	7 00 0

三百七十五

何 役 所		丙第三模本			
某年度歲出內譯簿計算表					
何 年 何 月 何 日					
科 目		豫 算 額		支 出 額	差 引 殘 額
		圓	錢 毫	圓 錢 毫	圓 錢 毫
(俸 給)	書記給料	316 00 0	67 00 0	249 00 0	
(俸 給)	備 給 料	70 00 0	32 00 0	38 00 0	
(雜 給)	常 備 給	40 00 0	3 00 0	37 00 0	
(廳 費)	備品買上及修繕費	25 00 0	3 50 0	21 50 0	
總 計		451 00 0	105 50 0	345 50 0	

租稅門
地方稅

三百七十四